

FUJITSU Server PRIMEQUEST 3000 シリーズ 導入マニュアル



2023年1月版

CA92344-1655-19

はじめに

本書は、PRIMEQUEST 3000 シリーズの導入のための準備や初期設定、ソフトウェアのインストールなど、本製品のセットアップについて説明しています。本書は、システム管理者を対象に書かれています。 なお、各種基準、規格への適合状況や安全上のご注意などは、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ安全にご使用いただくために』(CA92344-1646)を参照してください。

本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

第1章 導入の概要

PRIMEQUEST 3000 シリーズを運用するまでの流れを説明しています。

第2章本体装置の設置準備

電源ケーブルを接続するまでの本体装置の設置準備について説明しています。

第3章 OS のインストール前に実施する作業

PRIMEQUEST 3000 シリーズの OS インストール前に必要な作業、本番運用のための設定および各種セットアップ作業について説明しています。

第4章 OS および添付ソフトウェアのインストール

OS および添付ソフトウェアのインストール方法について説明しています。

第5章 OSのインストール後に実施する作業

OS インストール後に必要な各種設定について説明しています。

第6章 導入後の作業

NTP の設定やセキュリティの設定など、PRIMEQUEST 3000 シリーズ導入後に実施する作業について説明しています。

第7章パーティションの電源投入と切断

パーティションの電源投入と切断について説明しています。

付録 A 設定項目の一覧

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「付録 A 設定項目の 一覧」へのリンクです。

付録 B 添付ソフトウェアについて

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ製品概説』(CA92344-1653)の「3.3 添付ソフトウェア」へのリンクです。

付録 C SAN ブート環境の構築

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』へのリンクです。

付録 D VMware インストール時の留意事項

内蔵 HDD/SSD での RAID 環境での VMware vSphere のインストールおよびインストール時の留意事項について説 明しています。

付録 E NTP サーバの指定および設定(Windows)

NTP サーバの指定および設定について、Windows OS ごとに説明します。

付録 F HII Configuration Utility の起動方法

HII Configuration Utility の起動方法について説明します。

付録 G PCIバス番号とスロット実装位置の対応

PCI バス番号からスロットの実装位置を特定する方法について説明します。

付録 H Ctrl-R Utility の起動方法 Ctrl-R Utility の起動方法について説明します。

製品の使用環境

本製品は電子計算機室での使用を前提とした電子計算機です。なお、使用環境の詳細については、以下のマニュアルを 参照してください。

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)

安全上の注意事項

警告表示

このマニュアルでは、使用者や周囲の方の身体や財産に損害を与えないために以下の警告表示をしています。

∧ 警告

「警告」とは、正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあり得ることを示しています。

⚠注意

「注意」とは、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自 身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

重要

「重要」とは、効果的な使い方など、使用者にとって価値のある情報であることを示しています。

本文中の警告表示の仕方

警告レベルの記号の後ろに警告文が続きます。警告文は、通常の記述と区別するため、行端を変えています。さら に、通常の記述行からは、前後 1 行ずつ空けています。

⚠警告

本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様 は絶対に作業しないようお願いします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、後面と側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け/取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス(修理と定期的な診断と保守)

また、重要な警告表示は「重要警告事項の一覧」としてまとめて記載しています。

重要警告事項の一覧

本マニュアル中に記載している重要な警告事項は以下のとおりです。

⚠警告

正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあり得ることを示しています。

作業区分	警告事項	記載箇所
セットアップ	本製品について、以下に示す作業は担当保守員が実施	1.1 セットアップ作業の流れ
	します。お客様は絶対に作業しないようお願いしま	
	す。感電・負傷・発火のおそれがあります。	
	- 各装置の新規設置と移設	
	- 前面、背面および側面カバーの取外し	
	- 内蔵オプション装置の取付け/取外し	
	- 外部インターフェースケーブルの抜差し	
	- メンテナンス(修理と定期的な診断と保守)	



正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の障害を負うことがあり得ることと、当該製品自身また はその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

作業区分	警告事項	記載箇所
通常操作	装置の損傷や、誤動作の原因となるおそれがありま	1.1 セットアップ作業の流れ
	す。	
	- 本体装置に記載されている取扱い上の注意事項、警	
	告、および指示に従ってください	
	- 通気口をふさがないでください。	
	- 直射日光の当たる場所や、高温になる可能性のある	
	装置の近くに本体装置を設置しないでください。	
	- ほこりの多い場所や腐食性ガスが発生する場所、潮	
	風が直接当たるような場所には本体装置を設置しな	
	いでください。	
	- 振動の多い場所に設置しないでください。また、本	
	体装置が傾かない平らな場所に設置してください。	
	- 第3種以上の接地線を使用してください。ほかの接	
	地線との共用は誤動作の原因となります。	
	- ケーブルを本体装置の下に置かないでください。ま	
	た、ケーブルをピンと張らないでください。	
	- 電源が投入されているときに、電源ケーブルを本体	
	装置から取り外さないでください。	
	- LAN ケーブルなどを抜くときに、コネクタのロッ	
	ク部まで手が入らない場合は、マイナスドライバー	
	でロック部を押してケーブルを抜いてください。無	
	理やり指を入れると、指をけがしたりユニットが破	
	損したりするおそれがあります。	

作業区分	警告事項	記載箇所
	- 本体装置の上には何も置かないでください。また、	
	本体装置の真上で作業をしないでください。	
	- 冬に、周囲温度が急激に上昇しないように注意して	
	ください。このような急激な温度変化により、本体	
	装置の内部に結露が生じることがあります。動作前	
	に十分なウォームアップ時間を設けてください。	
	- コピー機、空調設備、溶接機など、ノイズが発生す	
	るものの近くに本体装置を設置しないでください。	
	- 大きな電気的ノイズを発生させる装置の近くに本体	
	装置を設置しないでください。	
	- 本体装置を立ち上げるときに、電圧低下の原因とな	
	り得る設備用エレベーターのような機器と同一の電	
	気回線上に、本体装置を設置しないでください。	
	- 設置場所で静電気が発生しないように、措置を講じ	
	てください。	
	- 供給電圧と周波数が、本体装置に示されている電気	
	定格に適合していることを確認してください。本体	
	装置の開口部には、何も挿入しないでください。本	
	体装置には、高電圧の部品が組み込まれています。	
	- 本体装置の開口部に金属製の物体やほかの導体が挿	
	入されると、ショートが発生し、 火事、感電、本体	
	装置の損傷などを招くおそれがあります。	
	- 本体装置の保守の詳細については、製品を購入され	
	た際の販売会社または担当営業員に問い合わせてく	
	ださい。	
通常操作	(発火)	3.2.1 本体装置の電源投入と切断
	過電流を検出して AC 電源またはオプションのコンセ	
	ントボックスのブレーカが落ち、 電源が切断された	
	場合は、本体装置内に短絡などの異常が発生してい	
	る可能性があります。この場合は、電源は再投入せ	
	ず、修理相談窓口または担当営業員に相談してくだ	
	さい。	
通常操作	(データ破壊)	3.2.1 本体装置の電源投入と切断
	本体装置の主電源は、必ず OPL の System Power	
	LED が消灯していることを確認してから切断してく	
	ださい。OPL の System Power LED が点灯したまま	
	主電源を切断すると、データが破壊されるおそれが	
	あります	
通常操作	(データ破壊)	5.3 sadumpの設定
	ダンプデバイスを選択する際、ディスクの選択が正	
	しいか、再確認してください。 選択を誤ったまま実	
	行すると、データが破壊されます。	

警告ラベル

当製品には以下のようにラベルが貼付してあります。以下のラベルは当製品の使用者を対象としています。

▲注意

後世内有實电压部分,有引起触电的危险。 奈保养孤当者之外,请勿触摸装置内部。 TENSIONS DANGEREUSES. SEUL UN INGÉNIEUR PEUT VÉRIFIER L'INTÉRIEUR

ラベルは絶対にはがさないでください。

警告ラベル位置(本体装置上面)



VOIR LE MANUEL D'INSTRUCTIONS AVANT D'INSTALLER CET UNITÉ.

维护保养时必须采取防静电措施。

CIRCUITS SENSIBLES A L'ELECTRICITÉ STATIQUE.



製品取扱い上の注意事項

本製品について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般用途を想定して設計・製造されているも のであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極 めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う 用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、 当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセ イフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

添付品の保管について

添付品はサーバの運用上必要になりますので、大切に保管してください。

オプション製品の増設

PRIMEQUEST 3000 シリーズを安定してご使用いただくために、オプション製品の増設時には弊社指定のオプション製品をご使用ください。

弊社指定以外のオプション製品をご使用いただく場合、PRIMEQUEST 3000 シリーズの動作保証は一切いたしかね ますので、ご注意ください。

本製品の輸出または提供について

本製品を輸出又は提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、 必要な手続きをおとりください。

メンテナンス



本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様 は絶対に作業しないようお願いします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、後面と側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け/取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス(修理と定期的な診断と保守)

⚠注意

製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は 絶対に作業しないようにお願いします。故障の原因となるおそれがあります。 - お客様のお手元に届いたオプションアダプターなどの開梱

本製品の改造/再生

⚠注意

本製品に改造を加えたり、本製品の中古品を富士通に無断でオーバーホールなどによって再生したりして使用する場合、使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがあります。

ご不要になったときの廃棄・リサイクル

法人、企業のお客様へ当社では、法人のお客様から排出される富士通製 ICT 製品を回収・リサイクル(有償)し、資源の有効利用に積極的に取り組んでいます。詳細は、当社ホームページ「ICT 製品の処分・リサイクル方法、コンデンサ製品の PCB」(https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/)をご覧ください。

廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

本機器を使用していた状態のまま廃棄・譲渡すると、ハードディスク内のデータを第三者に読み取られ、予期しな い用途に利用されるおそれがあります。機密情報や重要なデータの流出を防ぐためには、本機器を廃棄・譲渡する 際に、ハードディスク上のすべてのデータを消去することが必要となります。ところが、ハードディスク上のデー タを消去するというのは、それほど容易なことではありません。ハードディスクを初期化(フォーマット)したり、 OS 上からファイルを削除したりする操作をしただけでは、一見データが消去されたように見えますが、ただ単に OS 上でそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけあり、悪意を持った第三者によってデータが復元され るおそれがあります。従って、お客様の機密情報や重要なデータをハードディスク上に保存していた場合には、上 に挙げるような操作をするだけでなく、データ消去のサービスを利用するなどして、これらのデータを完全に消去 し、復元されないようにすることをお勧めします。お客様が、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要 なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任 において消去することが非常に重要となります。

なお、ソフトウェア使用許諾(ライセンス)契約により、ソフトウェア(OS やアプリケーション・ソフトウェア) の第三者への譲渡が制限されている場合、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくサーバなどを譲渡 すると、契約違反となる可能性があるため、そうした観点からも十分な確認を行う必要があります。

弊社では、お客様の機密情報や重要なデータの漏洩を防止するため、お客様が本機器を廃棄・譲渡する際にハード ディスク上のデータやソフトウェアを消去するサービスを提供しておりますので、是非ご利用ください。

- データ消去サービス

弊社の専門スタッフがお客様のもとにお伺いし、短時間で、磁気ディスクおよび磁気テープ媒体上のデータなどを 消去するサービスです。

詳しくは、データ消去サービス(https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/maintenance/lcm/service-phase4/h-elimination/)をご覧ください。

サポート&サービス

■ SupportDesk について(有償)

システムの安定稼動に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」のご契約をお勧めします。ご契約により、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期点検、障害予兆/異常情報のリモート通報、電話によるハ ードウェア/ソフトウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などのサービスが 利用できます。詳しくは、SupportDesk 紹介ページ「製品サポート」

(https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/service-desk/index.html) を参照してください。

■ 製品・サービスに関するお問い合わせ

製品の使用方法や技術的なお問い合わせ、ご相談については、製品を購入された際の販売会社、または弊社担 当営業員・システムエンジニア(SE)にご連絡ください。PRIMEQUEST 3000 シリーズに関するお問い合わせ 先がご不明なときやお困りのときには、「富士通コンタクトライン」にご相談ください。

■ 富士通コンタクトライン

- 電話によるお問い合わせ 電話:0120-933-200(通話料無料) ご利用時間:9:00~12:00 および 13:00~17:30(土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く) 富士通 コンタクトラインでは、お問い合わせ内容の正確な把握、およびお客様サービス向上のため、 お客様との 会話を記録・録音させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

- Web によるお問い合わせ

Web によるお問い合わせも承っております。詳細については、富士通ホームページをご覧ください。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/contact/

■保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、 保証書をご覧ください。

■ 修理ご依頼の前に

本体装置に異常が発生した場合は、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の 「11.2 トラブル対応」を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、修理相 談窓口または担当営業員に連絡してください。

ご連絡の際は、本体装置前面部右側にある貼付ラベルに記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。また、事前に『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「11.2 トラブル対応」をご覧いただき、必要事項を確認してください。お客様が退避したシステム設定情報は、保守時に使用します。

マニュアルについて

このマニュアルの取扱いについて

このマニュアルには本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。本製品を使用する前 に、このマニュアルを熟読し理解したうえで当製品を使用してください。また、このマニュアルは大切に保管して ください。富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細 心の注意を払っています。本製品を使用する際は、マニュアルの説明に従ってください。

本ドキュメントを輸出又は提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

PRIMEQUEST 3000 シリーズのマニュアル体系

PRIMEQUEST 3000 シリーズをご利用いただくためのマニュアルとして、以下のマニュアルが用意されています。 マニュアルは以下のサイトから閲覧できます。

日本語版マニュアル:

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/ 英語版マニュアル:

https://www.fujitsu.com/emeia/products/computing/servers/mission-critical/

タイトル	説明	マニュアルコード
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	PRIMEQUEST 3000 シリーズの開梱後、参照すべきマ	CA92344-1645
はじめにお読みください	ニュアルおよび重要な情報へのアクセス方法について	
	説明しています。(製品添付マニュアル)	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	PRIMEQUEST 3000 シリーズを安全にご使用いただく	CA92344-1646
安全にご使用いただくために	ための重要な情報について説明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	PRIMEQUEST 3000 シリーズの機能や特長について説	CA92344-1653
	明しています。	
SPARC M10 システム/SPARC	SPARC M10 システム/SPARC Enterprise および	C120-H007
Enterprise/PRIMEQUEST	PRIMEQUESTを設置するための、設置計画および設	
共通設置計画マニュアル	備計画に必要な事項や考え力を説明しています。 	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	PRIMEQUEST 3000 シリーズを設置するための仕様や	CA92344-1654
設置マニュアル	設置場所の要件について説明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	導入のための準備や初期設定、ソフトウェアのインス	CA92344-1655
導入マニュアル	トールなど、PRIMEQUEST 3000 シリーズのセットア	
	ップについて説明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	システムを運用・管理する際に必要なツール・ソフト	CA92344-1656
運用管理マニュアル	ウェアの利用方法、および保守(コンポーネントの交	
	換、異常通知)の方法について説明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	運用の際に必要な MMB の操作や設定方法について説	CA92344-1657
運用管理ツールリファレンス(MMB)	明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	運用の際に必要な操作や UEFI 設定方法について説明	CA92344-1658
運用管理ツールリファレンス(UEFI)	しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	運用の際に必要な sadump や Dynamic	CA92344-1659
運用管理ツールリファレンス(sadump,	Reconfiguration の操作や設定方法について説明して	
Dynamic Reconfiguration)	います。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	運用中にトラブルが発生したときのメッセージとその	CA92344-1660
メッセージリファレンス	対処方法について説明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	PRIMEQUEST 3000 シリーズに関する用語および略語	CA92344-1661
用語集・略語集	について説明しています。	
PRIMEQUEST 3000 シリーズ	REMCS サービスの導入と操作について説明していま	CA92344-1662
REMCS サービス導入マニュアル	す。	
PRIMEQUEST シリーズ	RESTful API について説明しています。	CA92344-1673
iRMC S5 RESTful API		

関連するマニュアル

PRIMEQUEST 3000 シリーズに関連するマニュアルとして、以下のマニュアルが用意されています。 関連するマニ ュアルは以下のサイトから閲覧できます。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/

タイトル	説明
Linux ユーザーズマニュアル	Red Hat 社から公開されている RHEL 向けマニュアルを補足す るマニュアルです。RHEL システムの設計、導入、運用、保守に 関する技術情報および参考と、 SupportDesk サービスで提供さ れるツールの導入、運用情報および参考となる考え方を提供し ます。 SupportDesk サービスを契約されたお客様に提供されます。
メモリーダンプ機能運用管理マニュアル	SLES 環境でのメモリダンプ設定に関する設定について説明した マニュアルです。
	SupportDesk サービス契約のお客様に提供しています。
ServerView Suite ServerView Operations Manager Quick Installation (Windows)	Windows 環境での ServerView Operations Manager のインス トールと起動方法について説明しています。
ServerView Suite ServerView Operations Manager Quick Installation (Linux)	Linux 環境での ServerView Operations Manager のインストールと起動方法について説明しています。
ServerView Suite ServerView Installation Manager	ServerView Installation Manager を使ったインストールについ て説明しています。
ServerView Suite ServerView Operations Manager Server Management	ServerView Operations Manager によるサーバ監視の概要と、 ServerView Operations Manager のユーザーインターフェース について説明しています。
ServerView Suite ServerView RAID Management User Manual	ServerView RAID Manager による RAID 管理について説明して います。
ServerView Suite Basic Concepts	ServerView Suite の基本的な概念について説明しています
ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Linux	ServerView Linux エージェントのインストール、および ServerView Linux エージェントのアップデートインストールに ついて記載しています。
ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Windows	ServerView Windows エージェントのインストール、および ServerView Windows エージェントのアップデートインストー ルについて記載しています。
ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 7 インストールガイド	VMware vSphere ESXi 7 サーバで、ServerView RAID Manager を使用するためのインストールと設定について説明していま す。
ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 6 インストールガイド	VMware vSphere ESXi 6 サーバで、ServerView RAID Manager を使用するためのインストールと設定について説明していま す。
Modular RAID コントローラ	SAS アレイコントローラ
LSI MegaRAID SAS 12G Software	PRAID EP400i/EP420i (D3216)

タイトル	説明
LSI MegaRAID SAS 3.0 Device Driver	PRAID EP420e
Installation	PRAID EP540i/EP580i/EP540e
	を使用するための技術情報を提供します。PRIMERGY サイト
	(https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/prim
	ergy/manual/)

略称

本書では、製品名を以下のように表記しています。

正式名	略称
Microsoft (R) Windows Server (R) 2022 Standard	Windows, Windows Server 2022
Microsoft (R) Windows Server (R) 2022 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2019 Standard	Windows, Windows Server 2019
Microsoft (R) Windows Server (R) 2019 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2016 Standard	Windows, Windows Server 2016
Microsoft (R) Windows Server (R) 2016 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2012 R2 Standard	Windows, Windows Server 2012 R2
Microsoft (R) Windows Server (R) 2012 R2 Datacenter	
Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 9 (for Intel64)	Linux, RHEL9, RHEL9.x, RHEL
Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 8 (for Intel64)	Linux, RHEL8, RHEL8.x, RHEL
Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 7 (for Intel64)	Linux, RHEL7, RHEL7.x, RHEL
VMware vSphere (R) 7	VMware, vSphere 7.x, VMware 7, VMware 7.x
VMware (R) ESXi (R) 7	ESXi, ESXi 7, ESXi 7.x
VMware vSphere (R) 6	VMware, vSphere 6.x, VMware 6, VMware 6.x
VMware (R) ESXi (R) 6	ESXi, ESXi 6, ESXi 6.x
SUSE (R) Linux Enterprise Server 15 (x86-64)	Linux, SLES, SLES 15
SUSE (R) Linux Enterprise Server 12 (x86-64)	Linux, SLES, SLES 12

商標一覧

- Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V、BitLocker は、米国 Microsoft Corporation の米国お よびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の登録商標です。
- Red Hat は米国およびそのほかの国において登録された Red Hat, Inc.の商標です。
- SUSE および SUSE ロゴは、米国およびその他の国における SUSE LLC の商標または登録商標です。
- Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Core Inside、Intel vPro、vPro Inside、Celeron、Celeron Inside、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、Xeon、Xeon Phi、Xeon Inside、Ultrabook は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

- Ethernetは、富士ゼロックス社、および米国その他の国におけるゼロックス社の登録商標です。
- VMware および VMware の製品名は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- Xen は米国およびその他の国における Citrix Systems, Inc.またはその子会社の登録商標または商標です。
- その他、会社名と製品名はそれぞれ各社の商標、または登録商標です。
- 本資料に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(TM, (R))を付記しておりません。

表記上の規則

本書では、以下のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しています。

字体または記号	意味	記述例
[]	参照するマニュアルの書名を示します。	『PRIMEQUEST 3000 シリーズ導入マニュア
		ル』(CA92344-1655)を参照してください。
ΓJ	参照する章、節、項を示します。	「2.5.1 [User List] 画面」を参照してくださ
		い い
[]	画面名、画面のボタン名、タブ名、ドロッ プダウンメニューを示すときに使います。	[OK] ボタンをクリックしてください。

CLI(コマンドラインインターフェース)の表記

コマンドの記載形式は以下のとおりです。

■ 入力形式

コマンドの入力形式は以下のように記載しています。

- 値を入力する変数は<>で囲んで記載
- 省略可能な要素は[]で囲んで記載
- 省略可能なキーワードの選択肢は、まとめて[]で囲み、|で区切り記載
- 定義が必須なキーワードの選択肢は、まとめて{}で囲み、|で区切り記載

なお、コマンドの入力形式は枠内に記載しています。

備考

PDF 形式のマニュアルでは、コマンド出力(例を含む)において、改行を表す記号(行末の)以外の箇所でも 改行されている箇所があります。

表記に関する注意事項

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明瞭な部分がございましたら、下記ウェブサイトに具体的な内容を記入のうえ送付してください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/contact/

- 本書は、予告なしに変更されることがあります。
- 本書では、「マネジメントボード(Management Board)」および「MMB ファームウェア」を、「MMB」 と表記しています。
- 本書に掲載している画面は、実際の装置の画面と一部異なることがあります。
- 本書の画面の IP アドレス、構成情報等は表示例であり、実際の運用では異なります。

本書を無断で複製・転載しないようにお願いします。 Copyright 2017-2023 FUJITSU LIMITED 目 次

はじめに	İ
目 次	xv
网主日次	~~~~
凶衣日八	XX
第1章 導入の概要	1
1.1 セットアップ作業の流れ	1
1.1.1 担当保守員が実施する作業	1
1.1.2 ユーザーが実施する作業	2
第2章 本体装置の設置準備	3
21 安全上の注意事項	3
 2.2 本体装置を設置する前に	
2.3 環境条件の確認	4
2.4 電源設備の準備	4
2.4.1 電気的仕様	4
2.4.2 設備の電力要件と特性	4
2.4.3 接地	5
2.5 設置場所の確認	5
2.6 本体装置の設置準備	5
2.7 構成品の確認	5
2.8 19インチラックへの搭載	6
2.9 筐体の構築	6
2.9.1 電源ケーブルの接続	6
第3章 OSのインストール前に実施する作業	8
3.1 セットアップ前に決めておく項目	8
3.1.1 MMBの設定	8
3.1.2 パーティションの設定	8
3.2 システムの起動	9
3.2.1 本体装置の電源投入と切断	9
3.3 MMB への接続と設定	10
3.3.1 MMB 接続用 PC	11
3.3.2 MMB の初期設定 (MMB Web-UI から設定する場合)	13
3.3.3 MMB の初期設定 (ターミナルソフトから設定する場合)	15
3.3.4 本番運用の接続環境設定	16

3.3.5	MMB へのログイン	19
3.3.6	Web-UI 画面の見方	22
3.3.7	MMB のネットワーク設定	22
3.3.8	telnet の設定	24
3.3.9	DNS サーバの設定	26
3.3.10	Alarm E-Mail の設定	27
3.3.11	ユーザーアカウントの登録	29
3.3.12	システム名の設定	32
3.3.13	日付・時刻の設定	33
3.4 パー	-ティションの設定(物理パーティション)	35
3.4.1	パーティションの構成設定	35
3.4.2	Home SB の設定	38
3.4.3	Reserved SBの設定	40
3.4.4	パーティション名の設定	43
3.4.5	各種モードの設定	44
3.4.6	Console Redirection の設定	45
3.4.7	パーティションの電源切断と投入	46
3.4.8	パーティション情報の確認	47
3.5 パー	-ティションの設定(拡張パーティション)	48
3.5.1	Extended Partitioning 機能の有効化	48
3.5.2	拡張パーティションの作成	49
3.5.3	拡張パーティションへの SB 資源の割り当て	51
3.5.4	拡張パーティションへの IOU 資源の割り当て	53
3.5.5	拡張パーティションへの PCI ボックス資源の割り当て	54
3.5.6	各種モードの設定	54
3.5.7	Console Redirection の設定	55
3.5.8	Extended Socket 機能の設定	57
3.5.9	拡張パーティションの電源切断と投入	59
3.5.10	拡張パーティション情報の確認	59
3.6 LDA	\P の設定	60
3.6.1	LDAP 使用時のユーザー管理	60
3.6.2	LDAP 設定手順の概要	61
3.6.3	LDAP の設定手順	62
3.7 構成	で情報の保存	75
3.7.1	MMB 構成情報のバックアップ	75
第4章 ()S および添付ソフトウェアのインストール	76
4.1 OS a	および添付ソフトウェアのインストール手順	76
4.2 拡張	『パーティションへの OS インストール	77
4.3 Win	dows を SAN ストレージ装置にインストールする手順	79
4.3.1	事前設定	79
4.3.2	インストールの準備	80
4.3.3	インストールの実行	80
4.3.4	インストール完了後の添付ソフトウェア設定	81

4.3	.5	インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続	.83
4.4	Win	dows を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順	. 84
4.4	.1	事前設定	.84
4.4	.2	インストールの準備	.84
4.4	.3	インストールの実行	.85
4.4	.4	インストール完了後の添付ソフトウェア設定	. 86
4.4	.5	インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続	. 88
4.5	RHE	LをSANストレージ装置にインストールする手順	. 89
4.5	.1	事前設定	.89
4.5	.2	インストールの準備	.90
4.5	.3	インストールの実行	.90
4.5	.4	インストール完了後の添付ソフトウェア設定	.93
4.5	.5	インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続	. 95
4.6	RHE	L を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順	. 96
4.6	.1	事前設定	.96
4.6	.2	インストールの準備	.96
4.6	.3	インストールの実行	.97
4.6	.4	インストール完了後の添付ソフトウェア設定	. 99
4.6	.5	インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続	101
4.7	٧M	vare を SAN ストレージ装置にインストールする手順	102
4.7	.1	事前設定	102
4.7	.2	インストールの準備	103
4.7	.3	インストールの実行	103
4.7	.4	システム無応答時の通知の設定	104
4.7	.5	インストールの完了	105
4.7	.6	添付ソフトウェアのインストール	105
4.8	٧M	ware を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順	106
4.8	.1	事前設定	106
4.8	.2	インストールの準備	106
4.8	.3	インストールの実行	107
4.8	.4	システム無応答時の通知の設定	108
4.8	.5	インストールの完了	109
4.8	.6	添付ソフトウェアのインストール	109
4.9	Нур	er-V 導入の手順	110
4.10	KVN	1 導入の手順	110
4.11	SLE	S を SAN ストレージ装置にインストールする手順	111
4.1	1.1	事前設定	111
4.1	1.2	インストールの準備	112
4.1	1.3	インストールの実行	112
4.1	1.4	システム無応答時の通知の設定	114
4.1	1.5	インストール完了後の添付ソフトウェア設定	114
4.1	1.6	インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続	114
4.12	SLE	S を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順	115

4.12	12.1 事前設定	
4.12	12.2 インストールの準備	
4.12	12.3 インストールの実行	
4.12	12.4 システム無応答時の通知の設定	
4.12	12.5 インストール完了後の添付ソフトウェア設定	
4.12	12.6 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続	
第5章	0Sのインストール後に実施する作業	
5.1	作業の種類	
5.2	ServerView Agents の設定	
5.2	2.1 ServerView Agents の管理 LAN 設定	
5.3	sadump の設定	
5.3	3.1 ダンプ採取時間の目安	
5.3	3.2 事前準備	
5.3	3.3 sadump デバイスの初期化 (OS)	
5.3	3.4 sadump デバイスの初期化 (UEFI)	
5.4	ダンプ環境の設定(Windows)	
5.4	4.1 メモリダンプ/ページングファイルについて	
5.5	ダンプ環境の設定(Linux)	
5.6	NTP クライアントの設定	
5.7	管理情報・構成情報の保存	
5.7	7.1 MMB 構成情報の保存	
5.7	7.2 BIOS 構成情報の保存	
5.7	7.3 LAN カード・CNA カードの設定情報の保存	
5.8	SAS アレイコントローラカードの Write Policy 推奨設定	
5.9	シリアルポートの設定	
5.9	9.1 シリアルポートの設定(RHEL)	
5.9	9.2 シリアルポートの設定(SLES)	
5.10	PRAID EP540i/EP580i/EP540e の設定	
5.11	PRAID EP400i/EP420i/EP420e の設定	
第6章	i 導入後の作業	
6.1	ネットワークアダプターの二重化構成	
6.2	NTP の設定	
6.2	2.1 PRIMEQUEST 3000 シリーズでの NTP の運用方法	
6.2	2.2 NTP サーバの指定	144
6.3	DNS サーバの設定	
6.4	SMTP の設定	
6.5	セキュリティの設定	
6.5	5.1 アクセスコントロールの設定	
6.5	5.2 SNMPの設定	
6.5	5.3 SSH の設定	
6.5	5.4 HTTPS の設定	
6.6	スケジュール運転	

第7章	パーティションの電源投入と切断	155
7.1	パーティションの電源投入と切断について	155
7.1	.1 パーティションの電源投入	
7.1	.2 パーティションの電源切断	
付録	A 設定項目の一覧	158
A.1	MMB の設定項目	
A.2	UEFI の設定項目	
A.3	iRMC の設定項目	
付録	B 添付ソフトウェアについて	159
付録	C SAN ブート環境の構築	160
付録	D VMware インストール時の留意事項	161
D.1	VMware 内蔵ディスクでの RAID 環境の構築	
D.2	VMware 添付ソフトウェアのインストール	
D.3	Address Range Mirror の設定	
付録	E NTP サーバの指定および設定(Windows)	162
E.1	NTP 設定の概要	
E.2 Wi	ndows Server 2022/2019/2016の設定手順	
E.2.	1 NTP サーバの指定	
E.2.	2 同期間隔およびサービス起動の設定	
E.2.	3 イベントタスクの設定	
E.3	Windows Server 2012 R2 の設定手順	
E.3.	.1 NTP サーバの指定	172
E.3.	2 同期間隔およびサービス起動の設定	
E.3.	3 イベントタスクの設定	175
付録	F HII Configuration Utility の起動方法	
F.1	HII Configuration Utility の起動手順	
F.2	SAS アレイコントローラの搭載位置確認方法	
付録	G PCIバス番号とスロット実装位置の対応	
G.1	PCI バス番号の割り当て順	
G.2	PCIバス番号からスロット位置を特定する方法	187

図表目次

図目次

図 2.1 リリースタイの使用	6
図 2.2 電源ケーブル接続位置(PRIMEQUEST 3000 シリーズ共通)	7
図 2.3 電源ケーブル接続位置(PCI ボックス)	7
図 3.1 MMB の実装位置と外部インターフェース外観図	11
図 3.2 [IPv4 Interface]画面の例	13
図 3.3 [IPv6 Interface] 画面の例	14
図 3.4 [Date/Time] 画面例	15
図 3.5 MMB ユーザーポートの位置	17
図 3.6 管理 LAN のネットワーク構成と IP アドレス	18
図 3.7 MMB Web-UI ログイン画面	20
図 3.8 [IPv4 Interface] 画面の例	23
図 3.9 [IPv6 Interface] 画面の例	24
図 3.10 [Network Protocols] 画面例	25
図 3.11 [IPv4 Interface] 画面の例	26
図 3.12 [IPv6 Interface] 画面の例	27
図 3.13 [Alarm E-Mail] 画面例	28
図 3.14 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面例	29
図 3.15 [User List] 画面例	
図 3.16 [Add User] 画面例	
図 3.17 [Edit User] 画面例	
図 3.18 [System Information] 画面例	
図 3.19 [Date/Time] 画面例	
図 3.20 [Management LAN Port Configuration] 画面例	
図 3.21 [Partition Configuration] 画面例	35
図 3.22 [Add SB/IOU to Partition] 画面例	
図 3.23 [Partition Configuration] 画面例	
図 3.24 [Remove SB/IOU from Partition] 画面例	
図 3.25 [Partition Home] 画面例	
図 3.26 [Reserved SB Configuration] 画面例	40
図 3.27 [Partition Configuration] 画面例	43
図 3.28 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面例	45

図 3.29 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面例	. 46
図 3.30 [Information] 画面例	. 47
図 3.31 [Mode] 画面例	. 48
図 3.32 [Partition Configuration] 画面例	. 49
図 3.33 [Add Unit to Partition] 画面例	. 50
図 3.34 [Extended Partition Configuration of SB Resources] 画面 (PRIMEQUEST 3400E2 の例)	. 51
図 3.35 Extended Partition Configuration of IOU Resources	. 53
図 3.36 Extended Partition Configuration of PCI Box Resources	. 54
図 3.37 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面例	. 55
図 3.38 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面例	. 56
図 3.39 [Mode] 画面例	. 57
図 3.40 [Extended Socket Configuration] 画面例	. 58
図 3.41 [Information] 画面例	. 59
図 3.42 LDAP 使用時のユーザー管理	.60
図 3.43 LDAP 設定手順の概要	.61
図 3.44 [LDAP User Group List] 画面	.63
図 3.45 [Add LDAP User Group] 画面	.64
図 3.46 [LDAP User Group List] 画面(ユーザーグループ作成後)	.65
図 3.47 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory)(1/2)	.66
図 3.48 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory)(2/2)	.66
図 3.49 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory) (設定例 1)	. 69
図 3.50 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory) (設定例 2)	. 69
図 3.51 [Directory Service Configuration] 画面 (OpenLDAP)(設定例 1)	.71
図 3.52 [Directory Service Configuration] 画面 (OpenLDAP)(設定例 2)	.72
図 3.53 [Directory Service Configuration] 画面 (Test LDAP)	.73
図 3.54 LDAP 接続テスト成功時のダイアログ表示	.74
図 3.55 LDAP 接続テスト失敗時のダイアログ表示	.74
図 3.56 [Backup/Restore MMB Configuration] 画面例	.75
図 4.1 [Change Boot Order] 画面例	.81
図 4.2 [Change Boot Order] 画面例	.86
図 4.3 [Change Boot Order] 画面例	.92
図 4.4 ファイル構成	.93
図 4.5 [Change Boot Order] 画面	. 98
図 4.6 ファイル構成	.99
図 4.7 [Change Boot Order] 画面例	104
図 4.8 [Change Boot Order] 画面例	108
図 4.9 [Change Boot Order] 画面例	113
図 4.10 [Change Boot Order] 画面	117

図 5.1 Configuration メニュー例	125
図 5.2 メインメニュー (sadump)	125
図 5.3 sadump セットアップメニュー	125
図 5.4 sadump セットアップメニュー	126
図 5.5 メインメニュー (sadump)	127
図 5.6 ダンプデバイスメンテナンスメニュー	127
図 5.7 ダンプデバイス構築メニュー	127
図 5.8 ダンプデバイス選択メニュー	128
図 5.9 ダンプデバイス選択メニュー	129
図 5.10 ダンプデバイス構築メニュー	129
図 5.11 ダンプデバイスメンテナンスメニュー	130
図 5.12 ダンプデバイス設定メニュー	130
図 5.13 ダンプデバイス一覧メニュー	131
図 5.14 ダンプデバイス設定メニュー	131
図 5.15 ダンプデバイスメンテナンスメニュー	132
図 5.16 メインメニュー (sadump)	132
図 5.17 [Boot]メニュー	133
図 5.18 [Boot Maintenance Manager]メニュー	133
図 5.19 [Backup/Restore MMB Configuration] 画面例	135
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例	136
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成	136 141
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合)	136 141 143
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) 図 6.3 [Date/Time] 画面例	136 141 143 145
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) 図 6.3 [Date/Time] 画面例 図 6.4 [Access Control] 画面例	136 141 143 145 146
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) 図 6.3 [Date/Time] 画面例 図 6.4 [Access Control] 画面例 図 6.5 [Add Filter] 画面例	136 141 143 145 146 147
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) の場合) の場合) の場合) の場合) の場合) の場合) の場合 の場合 の場合 の場合 の場合 の場合 の の の の の の の の	136 141 143 145 146 147 148
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) 図 6.3 [Date/Time] 画面例 図 6.4 [Access Control] 画面例 図 6.5 [Add Filter] 画面例 図 6.6 [Network Protocols] 画面例 図 6.7 [SNMP Community] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) 図 6.3 [Date/Time] 画面例 図 6.4 [Access Control] 画面例 図 6.5 [Add Filter] 画面例 図 6.6 [Network Protocols] 画面例 図 6.7 [SNMP Community] 画面例 図 6.8 [SNMP Trap] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149 150
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) 図 6.3 [Date/Time] 画面例 図 6.4 [Access Control] 画面例 図 6.5 [Add Filter] 画面例 図 6.6 [Network Protocols] 画面例 図 6.7 [SNMP Community] 画面例 図 6.8 [SNMP Trap] 画面例 図 6.9 [SNMP v3 Configuration] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149 150 151
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) の 6.3 [Date/Time] 画面例 の 6.4 [Access Control] 画面例 の 6.5 [Add Filter] 画面例 の 6.5 [Add Filter] 画面例 の 6.6 [Network Protocols] 画面例 の 6.7 [SNMP Community] 画面例 の 6.8 [SNMP Trap] 画面例 の 6.9 [SNMP v3 Configuration] 画面例 の 6.10 [SSH Server Key] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149 150 151 152
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 の 6.1 外部ネットワーク構成 の 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) の 6.3 [Date/Time] 画面例 の 6.4 [Access Control] 画面例 の 6.5 [Add Filter] 画面例 の 6.5 [Add Filter] 画面例 の 6.6 [Network Protocols] 画面例 の 6.7 [SNMP Community] 画面例 の 6.8 [SNMP Trap] 画面例 の 6.9 [SNMP v3 Configuration] 画面例 の 6.10 [SSH Server Key] 画面例 の 6.11 [Network Protocols] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149 150 151 152 153
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) の 6.3 [Date/Time] 画面例 の 6.4 [Access Control] 画面例 の 6.4 [Access Control] 画面例 の 6.5 [Add Filter] 画面例 の 6.6 [Network Protocols] 画面例 の 6.7 [SNMP Community] 画面例 の 6.8 [SNMP Trap] 画面例 の 6.9 [SNMP v3 Configuration] 画面例 の 6.10 [SSH Server Key] 画面例 の 6.11 [Network Protocols] 画面例 の 6.12 [Network Protocols] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例 図 6.1 外部ネットワーク構成 図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合) の 6.3 [Date/Time] 画面例 の 6.4 [Access Control] 画面例 の 6.4 [Access Control] 画面例 の 6.5 [Add Filter] 画面例 の 6.6 [Network Protocols] 画面例 の 6.6 [Network Protocols] 画面例 の 6.7 [SNMP Community] 画面例 の 6.8 [SNMP Trap] 画面例 の 6.9 [SNMP v3 Configuration] 画面例 の 6.10 [SSH Server Key] 画面例 の 6.11 [Network Protocols] 画面例 の 6.12 [Network Protocols] 画面例 の 7.1 [Power Control] 画面例	136 141 143 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 156
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例	136 141 143 145 145 146 147 147 148 150 151 152 154 156 157
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例	136 141 143 145 146 146 147 148 148 150 151 151 154 156 157 164
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例	136 141 143 145 146 147 147 147 148 149 150 151 152 153 154 156 157 164 164
図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例	136 141 143 145 146 147 147 147 148 149 150 151 152 153 154 157 164 165

図 E.5 [レジストリエディター] 画面	
図 E.6 [サービス] 画面	
図 E.7 [Windows Time のプロパティ] 画面	
図 E.8 [タスクスケジューラ] 画面	167
図 E.9 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(基本タスクの作成)	
図 E.10 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(タスクトリガー)	
図 E.11 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(特定イベントのログへの記録時)	
図 E.12 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(操作)	
図 E.13 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(プログラムの開始)	170
図 E.14 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(要約)	170
図 E.15 [プロパティ] ダイアログボックス	171
図 E.16 [ユーザーまたはグループの選択] 画面	171
図 F.1 [Configuration]メニュー	
図 F.2 [Configuration]メニュー	
図 F.3 [Configuration]メニュー	
図 F.4 [Configuration]メニュー	
図 F.5 HII Configuration Utility [Main Menu] 画面	
図 F.6 HII Configuration Utility [Controller Management] 画面	

表 1.1 ユーザーが実施する作業	2
表 2.1 本体装置の設置に必要な用品	5
表 3.1 MMB の接続と設定の流れ	10
表 3.2 MMB の外部インターフェース	12
表 3.3 ターミナルソフトウェアの設定内容	12
表 3.4 MMB の LAN メンテナンス用 CE ポートの初期設定	12
表 3.5 外部 LAN 接続時に必要な設定	18
表 3.6 ログインに入力する URL	20
表 3.7 ユーザーアカウント・パスワードの初期値	21
表 3.8 Extended Socket(Zone)構成例	58
表 3.9 [Directory Service Configuration]画面の設定項目(Active Directory)	67
表 3.10 [Directory Service Configuration]画面の設定項目(Novell eDirectory/OpenLDAP/OpenDS/OpenDJ).	70
表 4.1 SVIM による OS インストール	80
表 4.2 SVIM による OS インストール	85
表 4.3 SVIM による OS インストール	91
表 4.4 SVIM による OS インストール	97
表 4.5 SVIM による OS インストール	103
表 4.6 SVIM による OS インストール	107
表 4.7 SVIM による OS インストール	112
表 4.8 SVIM による OS インストール	116
表 5.1 作業の種類	119
表 5.2 SAS アレイコントローラカード接続時のダンプ採取時間の目安	122
表 5.3 FC カード接続時のダンプ採取時間の目安	122
表 5.4 "Only Address Mirrored Region"機能を使用した場合の SAS アレイコントローラカード接続時のダンフ	′採取
時間の目安	123
表 5.5 "Only Address Mirrored Region"機能を使用した場合の FC カード接続時のダンプ採取時間の目安	123
表 5.6 SAS アレイコントローラカードの Write Policy 推奨設定	137
表 E.1 時刻ずれ対策のための設定	162

表目次

第1章 **導入の概要**

ここでは、PRIMEQUEST 3000 シリーズを運用するまでの流れを説明します。 ハードウェアとソフトウェアの概要、およびサーバの各部の名称と機能について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリー ズ製品概説』(CA92344-1653)を参照してください。

1.1 セットアップ作業の流れ

ここでは、PRIMEQUEST 3000 シリーズを運用するために必要な作業の流れを説明します。セットアップは、担当保守 員が実施する作業とユーザーが実施する作業に分けられます。以下に、セットアップ作業の流れを示します。

▲警告

本製品について、以下に示す作業は担当保守員が実施します。お客様は絶対に作業しないようお願い します。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、背面および側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け/取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス(修理と定期的な診断と保守)

1.1.1 担当保守員が実施する作業

担当保守員は、装置をセットアップします。そのときに、以下の作業を実施します。

- 搭載物のチェック
- 本体装置の設置準備
- パーティションのチェック

備考

担当保守員が装置をセットアップする前に、お客様にて次の事前準備/作業が必要となります。

- 設置場所における対象機器用の電源準備および製品カタログ等に記載の温湿度条件を満たす環境準備
- 対象機器をネットワーク環境に接続する場合、接続するネットワーク環境の構築/正常稼動および対象機器用の ネットワークポートの準備
- 作業実施当日のお客様ご担当者(責任者)の立会い

備考

次の作業は担当保守員の対象外です。

- 当社製品以外の接続/設定
- ネットワーク環境の構築
- 対象機器および周辺機の運搬
- 電源やネットワークを接続するための工事
- ラック搭載済みサーバの載せ換え
- ラック自体の設置(耐震キット等の取り付けは作業範囲内)
- 20kg を超える装置の 25U 以上の高さへのラック搭載。もしくは 60kg 以上の装置のラック搭載

1.1.2 ユーザーが実施する作業

ユーザーは、以下の順序で作業を実施します。

備考

ユーザーが作業を実施する前に、以下が完了している必要があります。

- 担当保守員による装置のセットアップ
- 担当保守員が担当する範囲の MMB のセットアップ
- 初期診断

表 1.1 ユーザーが実施する作業

項番	大項目	中項目および説明	参照箇所
1	セットアップ	パーティションの各種初期設定	3.1.2 パーティションの設定
		パーティションの名称設定や、パーティショ	
		ンの構築などの作業を実施します	
		MMBの接続と設定(運用環境)	3.3.4 本番運用の接続環境設定
		本番運用の接続設定や、本番運用の IP アドレ	
		スなど、MMB 接続環境を設定します。	
		MMB の各種初期設定	3.3.11 ユーザーアカウントの登録
		ユーザーアカウントやシステムの名称など、	3.3.12 システム名の設定
		MMB 全体に関するパラメーターを設定しま	3.3.13 日付・時刻の設定
		す。	
		各種モードの設定	3.4.5 各種モードの設定
		必要に応じてモードを設定する。	
		システムの起動と確認	3.2 システムの起動
		システムを起動し、正常に起動したかどうか	
		を確認します。	
		設定情報の保存	3.7 構成情報の保存
		設定した情報(MMB)を保存します。	
2	OS および添付ソフトウ	OS および添付ソフトウェアをインストールし	第4章 OSおよび添付ソフトウェア
	ェアのインストール	ます。	のインストール
3	インストールに付随す	監視方法を設定し、設定した情報を保存しま	第5章 OSのインストール後に実施
	る作業	す。	する作業
4	SNMP やセキュリティ	SNMP やセキュリティなどを設定します。	第6章 導入後の作業
	の設定		

第2章 本体装置の設置準備

ここでは、電源ケーブルを接続するまでの本体装置の設置準備を説明します。

2.1 安全上の注意事項

本体装置を設置するときは、必ず以下の注意事項を守ってください。

⚠注意

装置の損傷や、誤動作の原因となるおそれがあります。

- 本体装置に記載されている取扱い上の注意事項、警告、および指示に従ってください。
- 通気口をふさがないでください。
- 直射日光の当たる場所や、高温になる可能性のある装置の近くに本体装置を設置しないでください。
- ほこりの多い場所や腐食性ガスが発生する場所、潮風が直接当たるような場所には本体装置を設置 しないでください。
- 振動の多い場所に設置しないでください。また、本体装置が傾かない平らな場所に設置してください。
- 第3種以上の接地線を使用してください。ほかの接地線との共用は誤動作の原因となります。
- ケーブルを本体装置の下に置かないでください。また、ケーブルをピンと張らないでください。
- 電源が投入されているときに、電源ケーブルを本体装置から取り外さないでください。
- LAN ケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると、指をけがしたりユニットが破損したりするおそれがあります。
- 本体装置の上には何も置かないでください。また、本体装置の真上で作業をしないでください。
- 冬に、周囲温度が急激に上昇しないように注意してください。このような急激な温度変化により、
 本体装置の内部に結露が生じることがあります。動作前に十分なウォームアップ時間を設けてください。
- コピー機、空調設備、溶接機など、ノイズが発生するものの近くに本体装置を設置しないでください。
- 大きな電気的ノイズを発生させる装置の近くに本体装置を設置しないでください。
- 本体装置を立ち上げるときに、電圧低下の原因となり得る設備用エレベーターのような機器と同一の電気回線上に、本体装置を設置しないでください。
- 設置場所で静電気が発生しないように、措置を講じてください。
- 供給電圧と周波数が、本体装置に示されている電気定格に適合していることを確認してください。
- 本体装置の開口部には、何も挿入しないでください。本体装置には、高電圧の部品が組み込まれています。本体装置の開口部に金属製の物体やほかの導体が挿入されると、ショートが発生し、火事、 感電、本体装置の損傷などを招くおそれがあります。
- 本体装置の保守の詳細については、製品を購入された際の販売会社、または担当営業員に問い合わせてください。

2.2 本体装置を設置する前に

本体装置を設置する前に、システム構成を理解し、設置の前提条件となるすべての情報を入手しておく必要があります。 システムの概要および構成について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ製品概説』(CA92344-1653)を参照してく ださい。設置の前提条件について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)を参照し てください。

2.3 環境条件の確認

ここでは、本体装置の設置諸元のうち、周囲の環境条件を説明します。本体装置の動作時の環境条件は、設置場所の海 抜によって異なります。

PRIMEQUEST 3000 シリーズの環境条件について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)の「1.3 設置諸元」を参照してください。

コンピュータルームの温湿度の推奨値について詳しくは『SPARC M10 システム/SPARC Enterprise/ PRIMEQUEST 共通 設置計画マニュアル』(C120-H007)を参照してください。

2.4 電源設備の準備

ここでは、PRIMEQUEST 3000 シリーズの電気的仕様、設備の電力要件、および接地を説明します。重大な事故を防止 するために、電源設備がシステムに十分な電力を提供できるようになっていることを確認してください。電気工事およ び設置作業は、地域、自治体、または国の電気規則に従う必要があります。電源設備について詳しくは『SPARC M10 シ ステム/SPARC Enterprise/PRIMEQUEST 共通設置計画マニュアル』(C120-H007)を参照してください。

2.4.1 電気的仕様

PRIMEQUEST 3000 シリーズの電気的仕様について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』 (CA92344-1654)の「1.3 設置諸元」を参照してください。 電源ケーブルについて詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シ リーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)の「2.2.1 基本インターフェースおよび周辺装置」を参照してください。 コネクタ形状について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)の「2.4.1 入力電 源接続仕様(本体装置)」を参照してください。

2.4.2 設備の電力要件と特性

適切な冗長性を得るために、設備には2つの独立した電源が必要です。それぞれのサーキットブレーカを電力会社の受 電装置または無停電電源装置(以下 UPS)に別々に接続してください。 頻繁に停電が発生したり電源が不安定になった りする環境で本体装置が稼動している場合は、電源が安定している環境に比べ、コンポーネントの故障率が上昇しやす くなります。

PRIMEQUEST 3000 シリーズでは、以下の基本的な接続形態があります。

- 電源冗長接続
- 電源二系統接続

電源冗長接続時および電源二系統接続時の電源系統について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』 (CA92344-1654)の「2.3 電源ケーブルの接続」を参照してください。

2.4.3 接地

PRIMEQUEST 3000 シリーズは、接地タイプ(三線式)電源ケーブル付きで出荷されます。必ず電源ケーブルを接地極 付き電源コンセントに接続してください。建物で供給されている電源のタイプについては、施設管理者または認定され た電気技士に問い合わせてください。

2.5 設置場所の確認

本体装置を設置するときは、周辺機器のサイズだけでなく、必要なサービスエリア(保守エリア)も考慮してください。 設置場所の確認について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)の「第1章設置 資料」を参照してください。

2.6 本体装置の設置準備

以下の表に、本体装置の設置作業に必要な用品を示します。事前に準備してください。

品名	説明	
No.2 プラスドライバー	ラックへの搭載作業に使用します。	
リストストラップ	人体から発生する静電気によって本体装置が損傷するのを防止す	
	るために使用します。	
導電マット	システム構成によって、必要となる場合がある機材。手配が必要	
カテゴリ 5 以上のイーサネットケーブル	な場合は、製品を購入した販売会社、または担当営業員に問い合	
コンソール用 PC/LAN ケーブル	わせてください。	
(ユーザーLAN 用)		
外部スイッチングハブ装置	PRIMEQUEST 3000 シリーズを LAN で外部スイッチングハブ装	
	置に接続する場合に必要になります。	
テスター	入力 AC 電圧の確認に使用します。	

表 2.1 本体装置の設置に必要な用品

2.7 構成品の確認

本体装置に付属されている添付品明細書に照らして、納入品を確認します。

添付品明細書や成績書に記載されている構成品の中に、欠品、納品違い、または破損などがある場合は、製品を購入された際の販売会社、または担当営業員に問い合わせてください。

注意

- 増設メモリや PCI Express カードなどのオプション品を個別に購入した場合は、本体装置が正常に動作することを確認してから、本体装置に取り付けてください。
- RAID ソフトウェアライセンスを適用している場合、SAS アレイコントローラカードの故障等の理由にて交換を 行った場合、ライセンスキーの再設定が必要になります。ライセンスキーは大切に保管をお願いします。

2.8 19 インチラックへの搭載

PRIMEQUEST 3000 シリーズは、19 インチラックに搭載して運用します。搭載について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)の「付録 A ラック」を参照してください。

2.9 筐体の構築

Base_Unit と MMB_Disk_Unit を接続して筐体を構築する手順を以下に示します。手順中の電源ケーブルの接続方法については「2.9.1 電源ケーブルの接続」を参照してください。

- 1. Base_Unit の MGMT_IFU_E と MMB_Disk_Unit の MGMT_IFU_M 間を Management Interface ケーブルで接続しま す
- 2. 電源ケーブルを Base_Unit の PSU に接続します。PSU を複数台搭載し冗長構成をしている場合は、全ての PSU に電源ケーブルを接続します。
- 3. AC ケーブルを MMB_Disk_Unit の PSU_M に接続します。MMB_Disk_Unit を冗長で使用するために PSU_M を 2 個 搭載している場合は、2 個とも AC ケーブルを接続します。

2.9.1 電源ケーブルの接続

ここでは、電源ケーブルの接続を説明します。 電源ケーブルは必ず接地極付き電源コンセントに接続してください。

備考

本体装置および PCI ボックスは、接地線を持つ電源設備で動作するように設計されています。そのほかのタイプの電源 設備には、本体装置および PCI ボックスを接続しないでください。建物で供給されている電源のタイプについては、施 設管理者または認定された電気技士に問い合わせてください。

■ 操作手順

- 1. 入力電源が所要電力量を満たすことを、設置場所の電気技士に確認してください。所要電力量について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ設置マニュアル』(CA92344-1654)の「1.3 設置諸元」を参照してください。
- 2. 本体装置および PCI ボックスの AC インレットに電源ケーブルが接続されていることを確認します。必要に応じてリ リースタイを使用して電源ケーブルを固定し、電源コネクタが誤ってサーバから抜けないようにできます。リリース タイは、サーバに付属のアクセサリパックに含まれています。





- ケーブルをリリースタイの輪に通します。
- リリースタイを引き締め、電源ケーブルを固定します。絶縁コネクタはサーバから誤って外れなくなります。

備考

結び目でジップストリップを後ろに曲げると、リリースタイを取り外すことが出来ます。

- 3. 本体装置および PCI ボックスの外側にあるすべてのケーブルを、電源ケーブルと信号ケーブルに分類して、19 イン チラックのケーブルホルダーにリピートタイでしっかりと固定します。
- 4. AC 電源のサーキットブレーカがオフになっていることを確認し、電源ケーブルを AC 電源に接続します。電源ケーブルの接続形態について詳しくは「2.4.2 設備の電力要件と特性」を参照してください。

図 2.2 電源ケーブル接続位置(PRIMEQUEST 3000 シリーズ共通)



図 2.3 電源ケーブル接続位置(PCI ボックス)



第3章 OS のインストール前に実施する作業

ここでは、PRIMEQUEST 3000 シリーズの OS インストール前に必要な作業、本番運用のための設定および各種セット アップ作業について説明します。

3.1 セットアップ前に決めておく項目

ここでは、セットアップの前にあらかじめ決めておく必要がある項目について説明します。

3.1.1 MMB の設定

MMB を設定するために、あらかじめ以下の項目を決めておく必要があります。

- IP アドレス、ホスト名、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス
- MMB コンソール用として使用する PC(以降、MMB 接続用 PC と呼びます)の IP アドレス
- ユーザーアカウント
- PRIMEQUEST 3000 シリーズシステムに対する名前(SNMP の System Name としても使用されます)
- 管理 LAN の使用環境

MMBの設定について詳しくは「3.3 MMBへの接続と設定」を参照してください。

注意

管理 LAN、リモートメンテナンス用 LAN、それ以外の LAN は、それぞれ異なるサブネットのネットワークで構成する 必要があります。

3.1.2 パーティションの設定

パーティション機能を使って複数のパーティションを構築する場合は、あらかじめ以下の項目を決めておく必要があり ます。

- パーティションの数
- パーティション名
- パーティション構成
- Home SB

パーティションの設定について詳しくは「3.4 パーティションの設定(物理パーティション)」を参照してください。

備考

パーティション名とパーティション上にインストールする OS のホスト名を同じにすると、パーティションの運用管理 が容易になります。

3.2 システムの起動

ここでは、システムを起動するための電源制御について説明します。本体装置の電源が投入されていない場合は、以降 の手順に従って電源を投入します。

3.2.1 本体装置の電源投入と切断

■ 電源投入

本体装置の電源投入・切断について説明します。

⚠注意

(発火)

過電流を検出して AC 電源またはオプションのコンセントボックスのブレーカが落ち、電源が切断された場合は、本体装置内に短絡などの異常が発生している可能性があります。この場合は、電源は再投入せず、修理相談窓口または担当営業員に相談してください。

注意

AC インレットから電源ケーブルを抜いた後に再度電源を投入する場合、10 秒以上経過してから電源ケーブルを接続してください。

本体装置の主電源を投入する手順は以下のとおりです。

- 1. MGMT_IFU_E と MMB_Disk_Unit の MGMT_IFU_M を Management Interface ケーブルで接続します。 Management Interface ケーブルの接続については「2.9 筐体の構築」を参照してください。
- 2. Base_Unit の AC インレットに電源ケーブルを接続します。 電源ケーブルの接続については、「2.9.1 電源ケーブルの接続」を参照してください。
- 3. MMB_Disk_Unit の AC インレットに電源ケーブルを接続します。 電源ケーブルの接続については、「2.9.1 電源ケー ブルの接続」を参照してください。
- 4. AC 電源またはオプションのコンセントボックスに接続します。
- 5. AC 電源のサーキットブレーカをオンにして、電源を投入します。Base_Unit と MMB_Disk_Unit の AC 電源が別のブレーカになっている場合は、Base_Unit 側のサーキットブレーカから先にオンします。

電源ケーブルを抜いた後に再度電源を投入する場合は、手順1から順番に作業してください。

■ 電源切断

⚠注意

(データ破壊)

本体装置の主電源は、必ず OPL の System Power LED が消灯していることを確認してから切断してください。OPL の System Power LED が点灯したまま主電源を切断すると、データが破壊されるおそれがあります。

本体装置の主電源を切断する手順は以下のとおりです。

- 1. 本体装置の電源を切断します。詳しくは「7.1.2 パーティションの電源切断」を参照してください。
- 2. OPL の System Power LED が消灯していることを確認します。

備考

OPL の System Power LED が点灯している場合は、電源が切断できない状態です。Alarm LED が点灯している場合は、修理相談窓口または担当営業員に連絡してください。

- 3. MMB_Disk_Unit に接続されている電源ケーブルを抜きます。
- 4. Base_Unit に接続されている電源ケーブルを抜きます。

3.3 MMB への接続と設定

MMBは、担当保守員がテスト用の環境を構築し、初期診断を実行した状態になっています。そのため、テスト用の環 境から本番運用の環境に再設定する必要があります。担当保守員により設定済みの項目については、次の手順に進んで ください。

MMB 接続後、MMB Web-UI(ウェブユーザーインターフェース)を使用して、以下を実施します。

- ユーザーアカウント登録
- セキュリティの設定
- 時刻の設定

MMB への接続と設定は、次の手順で実施します。

手順	項目	説明	参照先
1	MMB 接続用 PC	本番運用の環境を設定するために、	3.3.1 MMB 接続用 PC
		MMB 接続用 PC を接続します。	
2	MMB の初期設定	本番運用の接続環境を設定する前に、	3.3.2 MMB の初期設定
		MMB の初期設定を行います。	
3	本番運用の接続環境設定	MMB はテスト用の接続に設定されて	3.3.4 本番運用の接続環境設定
		いるため、本番用の接続環境に設定し	
		ます。	
4	MMB へのログイン	MMB ヘログインします。MMB Web-	3.3.5 MMB へのログイン
		UI 画面の見方についても説明します。	3.3.6 Web-UI 画面の見方
5	本番運用のネットワーク	MMB はテスト用になっているため、	3.3.7 MMB のネットワーク設定
	設定	本番用のネットワークや Web サーバ	3.3.8 telnet の設定
		を設定します。運用方法に応じて、必	3.3.9 DNS サーバの設定
		要な項目だけ設定してください。	3.3.10 Alarm E-Mail の設定
6	MMB の各種初期設定	MMB の各種初期設定を行います。	3.3.11 ユーザーアカウントの登録
		- ユーザーアカウントの登録	3.3.12 システム名の設定
		- システム名の設定	3.3.13 日付・時刻の設定
		- 日付・時刻の設定	
		これらの初期設定が完了したときに、	
		設定情報のバックアップを取ることを	
		推奨します。設定した情報のバックア	
		ップについて詳しくは、「3.7 構成情	
		報の保存」を参照してください。	

表 3.1 MMB の接続と設定の流れ

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

3.3.1 MMB 接続用 PC

MMB 接続用 PC について説明します。

本番運用の環境に再設定方法として、MMB Web-UI から行う方法と、ターミナルソフトを使用する方法の2通りがあります。

- MMB Web-UI から設定を行う場合
 MMB 接続用 PC の LAN ポートと MMB の外部インターフェース LAN 100Base-TX メンテナンス用 CE ポートを
 LAN ケーブルで接続します。詳しくは「3.3.2 MMB の初期設定 (MMB Web-UI から設定する場合)」を参照して
 ください。MMB Web-UI から設定を行うことを推奨します。
- ターミナルソフトから設定を行う場合 MMB 接続用 PC を MMB の LAN ポートに接続して行う方法と MMB の RS232C(COM ポート)に接続して行 う方法の 2 通りがあります。詳しくは「3.3.3 MMB の初期設定 (ターミナルソフトから設定する場合)」を参照 してください。
 - MMB 接続用 PC を MMB の LAN ポートに接続して行う場合
 MMB 接続用 PC の LAN ポートと MMB の外部インターフェース LAN 100Base-TX メンテナンス用 CE ポートを LAN ケーブルで接続します。
 - MMB 接続用 PC を MMB の RS232C(COM ポート)に接続して行う場合
 MMB 接続用 PC の COM ポートと MMB の外部インターフェース RS232C(COM ポート)を RS232C クロ スケーブルで接続します

MMB の実装位置と外部インターフェース外観図については、以下の図を参照してください。



図 3.1 MMB の実装位置と外部インターフェース外観図

Rear side view
外部インターフェース	ポート数	備考
RS232C(COM ポート)	1	担当保守員が装置をセットアップするときに使用し
		ます。通常運用では使用しません。
LAN 1000Base-T	2	USER ポート
LAN 100Base-TX	2	メンテナンス用
		- [LOCAL] : CE ポート
		- [REMOTE] : REMCS ポート

表 3.2 MMB の外部インターフェース

COM ポート接続時、ターミナルソフトウェアは以下の内容で設定してください。

表 3 3	ターミナ	ルソフトロ	ウェアの設定	四容
1X J.J	J _ / .	$\nu \nu \nu r$.	ノエノの政ル	

設定項目	值
ビット/秒	19200
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100

MMBのLAN メンテナンス用 CE ポートの初期設定は以下のとおりです。

表 3.4 MMB の LAN メンテナンス用 CE ポ	ートの初期設定
------------------------------	---------

項目	值
IP Address	192.168.1.1
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway address	0.0.0.0
SMTP address	0.0.0.0
Network Protocol	Telnet
Telnet Port#	23
Timeout(sec)	600

3.3.2 MMB の初期設定 (MMB Web-UI から設定する場合)

MMB の初期設定の手順を以下に示します。

担当保守員が設定済みの場合、またはターミナルソフトを用いて設定する場合は、以下の手順は実施不要です。

■ 操作手順

1. 本体装置の電源を投入します。

→MMB Ready LED 点滅中(初期化中)は各ユニットの Alarm LED が点灯します。MMB Ready LED が点滅から点 灯に変わります。

- 2. MMB Ready LED 点灯(初期化終了)後、各ユニットの Alarm LED が消灯していることを確認します。
- 3. MMB 接続用 PC から MMB Web-UI にアクセスして、Username/Password=Administrator/adminadmin でログイ ンします。
- 4. MMB のネットワークを設定します。
 - 4-1. [Virtual IP Address] の[IP Address]、[Subnet Mask] (*1)、[Gateway address]に値を入力します。ホスト 名も設定します。

*1: [IPv6] の場合は[Prefix Length] を入力します。

- 4-2. [MMB#0 IP Address] または[MMB#1 IP Address] で[Interface] の[Enable] をクリックし、各項目を入力し ます。ここでは、割り当てる物理 IP アドレスを指定します。
- 4-3. 必要な項目を設定したら、[Apply] ボタンをクリックします。

図 3.2 [IPv4 Interface]画面の例

System Partition User Administration Ne	twork Configuration Mai	ntenance	Logout	
>Network Configuration >Network Interface	e >IPv4 Interface		~	
Date/Time Network Interface IPv4 Interface	IPv4 Interface	•	Help	
IPv6 Interface Management LAN Port Configuration	Click the Apply button for	or all changes to take effect.	^	
Network Protocols	MMB Virtual/Physica	l IP Address		
Kerresh Kate SNMD Configuration	Virtual IP Address			
■ SSL	Hostname	PRIMEQUEST		
± SSH	IP Address	XX . XXX . XXX . XXX		
Remote Server Management	Subnet Mask	255 255 255 0		
Access Control	Gateway address	XX XX XXX 1		
Alarm E-Mail	MMB#0 IP Addres	s		
	Interface	⊖Enable		
	Hostname (optional)			
	IP Address	0.0.0		
	Subnet Mask	255 . 255 . 255 . 255		
	Gateway address	0.0.0.0		
	DNS (optional)			
	DNS	⊖ Enable		
	DNS Server 1	0.0.0.0		
	DNS Server 2	0.0.0.0		
	DNS Server 3	0.0.0.0		
	Management LAN			
	Dualization	○ Enable		
Maintenance IP Address				
	Interface	Enable Disable		
	IP Address	192 . 168 . 1 . 1		
	Subnet Mask	255 . 255 . 255 . 0		
	Gateway address			
	SMTP address			
			_	
		Apply Cancel		

図 J.J HPV0 IIILeIIaLeI 回回のか	図 3.3	v6 Interface]	画面の例
-----------------------------	-------	---------------	------

System Partition User Administration Net	twork Configuration Mainte	nance	Logout
>Network Configuration >Network Interface	>IPv6 Interface		v
 Date/Time Network Interface IPv4 Interface IPv6 Interface 	IPv6 Interface	all changes to take effect.	Help
Management LAN Port Configuration			
Network Protocols	MMB Virtual/Physical I	P Address	
Refresh Rate	Virtual IP Address		
SINNP Configuration	Hostname	PRIMEQUEST ×	
SSH	Automatic Acquisition	Auto	
Remote Server Management	IP Address		
Access Control	Prefix Length	0	
Alarm E-Mail	Gateway address		
	MMB#0 IP Address		
	Interface	○ Enable	
	Hostname (optional)		
	Automatic Acquisition	Auto	
	IP Address	**	
	Prefix Length	0	
	Gateway address		
	DNS (optional)		
	DNS	○ Enable	
	DNS Server 1	0 10	
	DNS Server 2	20 20	
	DNS Server 3		
	Management LAN		
	Dualization	○ Enable	
	Maintenance IP Address	5	
	Interface	Enable Disable	
	IP Address	:	
	Prefix Length	0	
	Gateway address	:	
	SMTP address		
1			Ť.
		Apply Cancel	^

5. 必要に応じて時刻の設定を行います。

5-1. [Network Configuration] - [Date/Time] をクリックします。

→ [Date/Time] 画面が表示されます。[Date/Time] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用 管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.1 [Date/Time] 画面」を参照してください。

C D D D TL II		N	
System Partition User Adr	ministration Network Configuration	Maintenance	Logout
Date/Time	Data/Tima		Pafrash Halp
Network Interface	Date/Time		Reliesh Help
Management LAN Port C Network Destaurals			
INETWORK Protocols Definite Data	Click the Apply Button to apply a	ll changes.	
Keiresh Kale SNMD Configuration			
	Date	2013 - 4 - 16	
T SSH	T.	☐ Modify the Time	
Remote Server Manageme	lime	9 <mark>:</mark> 53 <mark>:</mark> 26	
Access Control	Time zone	Asia 🗸 / Tokyo 🗸	
Alarm E-Mail	NTP	○Enable	
	NTP Time Correction Mode	● Step ○ Slew	
	NTP Server1	::	
	NTP Server2	::	
	NTP Server3	::	
	Current Sync Status		
		Apply Cancel	^
	7		

図 3.4 [Date/Time] 画面例

- 5-2. 必要な項目を入力します。
- 5-3. [Apply] ボタンをクリックします。

MMBの初期設定 (ターミナルソフトから設定する場合) 3.3.3

MMB の初期設定の手順を以下に示します。

担当保守員が設定済みの場合、または MMB Web-UI から設定する場合は以下の手順は実施不要です。

■ 操作手順

1. 本体装置の電源を投入します。

→MMB Ready LED 点滅中(初期化中)は各ユニットの Alarm LED が点灯します。MMB Ready LED が点滅から点 灯に変わってから、ログインプロンプトが表示されます。

- 2. MMB Ready LED 点灯(初期化終了)後、各ユニットの Alarm LED が消灯していることを確認します。
- 3. MMB 接続用 PC からターミナルソフトを使用して、Username/Password=Administrator/adminadmin でログイン します。
- 4. MMB のネットワークを設定します。

備考

IPv4 および IPv6 を動作させる場合、IPv4 および IPv6 の両方を設定します。

IPv4 の場合 以下のコマンドを使って IP Address を設定します。 # set hostname <FQDN 形式ホスト名> # set ip <IP Address> <netmask> # set gateway < defaut gateway IP Address> # set http enable 例: IP Address:192.168.0.10/ netmask:255.255.255.0 / gateway:192.168.0.1 の場合

Administrator> set ip 192.168.0.10 255.255.255.0

Administrator> set gateway 192.168.0.1

- IPv6 の場合

以下のコマンドを使って IP Address を設定します。 # set hostname <FQDN 形式ホスト名> # set ipv6 [auto | <IP Address/Prefix>] # set gateway_ipv6 <defaut gateway IP Address> # set http enable 例: IP Address=2001:2345:6789::10/ Prefix=64/ gateway=2001:2345:6789::1 の場合 Administrator > set ipv6 2001:2345:6789::10/64

Administrator > set gateway_ipv6 2001:2345:6789::1

5. set http enable コマンドで http を有効にします。 → MMB 接続用 PC から LAN 経由で MMB の Web-UI にアクセスできるようになります。

Administrator> set http enable

備考

https を有効にする場合は、set https コマンドを使用します。

Administrator> set https enable

set telnet enable コマンドで telnet を有効にします。
 MMB 接続用 PC を MMB の LAN ポートに接続して行う場合にはこの設定は行いません。

Administrator> set telnet enable

 7. 必要に応じて日時を設定します。 以下のコマンドを使用します。
 Administrator> set date MMDDhhmm[[CC]YY][,ss]
 例: 2013 年 7 月 27 日 13 時 10 分 00 秒に設定する場合

Administrator> set date 072713102013,00

3.3.4 本番運用の接続環境設定

以下の操作により、テスト用に設定されている接続環境を本番運用に設定します。

- MMB 接続用 PC の IP アドレスの設定
- MMB 接続用 PC を MMB のユーザーポートに接続
- PRIMEQUEST 3000 シリーズの外部 LAN への接続

■ MMB 接続用 PC の IP アドレスの設定

MMB 接続用 PC の IP アドレスを、PC 側で設定します。設定方法についてはご使用になる PC の説明書を参照してください。

■ MMB 接続用 PC を MMB のユーザーポートに接続

MMB 接続用 PC を MMB のユーザーポート#0 と LAN ケーブルで接続します。接続すると、MMB 接続用 PC と MMB の LAN 間で通信できるようになります。



■ PRIMEQUEST 3000 シリーズの外部 LAN への接続

PRIMEQUEST 3000 シリーズの外部 LAN 接続の構成、および外部 LAN 接続をするときの留意事項について説明します。 セキュリティを設定してから、外部 LAN に接続することを推奨します。セキュリティについて詳しくは「6.5 セキュリ ティの設定」を参照してください。



図 3.6 管理 LAN のネットワーク構成と IP アドレス

MMB#0 と MMB#1 の管理用(USER) ポートは、LAN ケーブルで外部スイッチングハブ装置に接続します。MMB 接続用 PC も外部スイッチングハブ装置に接続します。MMB#0 と MMB#1 の物理 IP アドレスと仮想 IP アドレス(Virtual IP Address) は同一のサブネットに設定します。各 MMB は、以下の 2 つのアドレスを持っています。

- 物理実 IP アドレス(上図では MMB#0=192.168.2.100、MMB#1=192.168.2.101)
- 仮想 IP アドレス(上図では 192.168.2.102)

外部接続(Web ブラウザ、保守用端末、および REMCS など)に対しては、仮想 IP アドレスで通信します。

表	3.5	外部	LAN	接続時に必要な設定

条件	必要な設定
外部スイッチに、循環防止機能をサポートするスイッチ	スイッチングハブと本体装置との接続ポートのスパニ
ングハブ(スパニングツリープロトコル(Spanning	ングツリープロトコルを[disable] にするか、または
Tree Protocol)やドメインセパレーション(Domain	ドメインセパレーションをオンにして、循環防止機能
Separation)など)を使用する場合	を抑止します。
以下の条件のどちらかに該当する場合	MMB#0と MMB#1 の物理 IP アドレスのパケットが
- 送信先のサーバがファイアーウォールを介した外部の	通過できるように、ファイアーウォールやメールサー
サーバとなります	バなどに設定が必要です。
- IP アドレスを制限しているメールサーバを使用します	

条件	必要な設定
REMCS 接続の場合	接続形態を以下に示します。
	- インターネット接続時: REMCS 用ポートを外部ス
	イッチングハブ装置に接続します。または、管理
	用ポートの外部スイッチからファイアーウォール
	を介して、センターと接続します。
	- P-P 接続時: MMB#0 と MMB#1 の各 MMB の
	REMCS 用ポートを直接ダイヤルアップルータに接
	続する。 REMCS 連携について詳しくは、
	『PRIMEQUEST 3000 シリーズ REMCS サービス導
	入マニュアル』(CA92344-1662)参照してくだ
	さい。

備考

- 「NTP」、「Alarm E-Mail」、「REMCS」、「SNMP」において、MMB からパケットを送信します。MMB の物理 IP アドレスと仮想アドレスの両方が設定されている場合、パケットの送信元 IP アドレスは MMB の物理 IP アドレ スとなります。
- MMBの物理 IP アドレスは、PRIMECLUSTER 連携時にも使用します。

3.3.5 MMB へのログイン

ここでは、MMB へのログイン方法について説明します。

■ MMB Web-UI へのログイン/ログアウト

ここでは、MMB Web-UI へのログインとログアウトの手順について説明します。

Web-UI にログインするためには、以下のいずれかを指定します。

- 仮想 IP アドレス(Virtual IP Address)
- 仮想アドレスに対応する Fully Qualified Domain Name (FQDN)
- 仮想アドレスに対応する Hostname

注意

MMB Web-UI がサポートしていないブラウザを使用すると、Web-UI 画面が正しく表示されない場合があります。最新の情報については、以下の URL で公開している FUJITSU Server PRIMEQUEST 3000 シリーズ留意事項を参照してください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/manual/supp ort/

- 1 台の MMB 接続用 PC から、1 台の PRIMEQUEST 3000 シリーズに Web-UI を使って複数ログインしないでください(同一ユーザー名で複数ログインする場合も含む)。操作するブラウザの種類やバージョンにもよりますが、複数ログインした場合は以下の現象が起こる場合があります。また、複数タブから複数ログインしないでください。
 - 先に Web-UI でログインしているユーザーの操作権限が、後からログインしたユーザーの操作権限に変わる ことがあります。
 - 1 つの Web-UI のログアウトですべての Web-UI がログアウトしてしまうことがあります。

備考

FQDN を指定する場合は、MMB 接続用 PC に DNS サーバが設定されている必要があります。DNS サーバの設定につい て詳しくは「3.3.9 DNS サーバの設定」を参照してください。

●ログイン

1. Web ブラウザを起動します。

備考

ブラウザの設定で、JavaScript およびダウンロードを有効にしてください。

2. 次の URL を入力します。

表 3.6 ログインに入力する URL

Standard	http://nodename:adminport
	http://nodename:adminport/login.cgi (Windows Server 2022、Windows Server 2019、
	Windows Server 2016、Windows Server 2012R2 の場合)
SSL	https://nodename:adminport
備考	上記 URL の nodename:adminport は、以下の記述形式をとります。
	nodename: MMBのFQDN、IPアドレスまたはHostname。
	adminport:MMB の管理ポートに割り当てたポート番号
	(初期値は 8081、SSL の場合は 432。)

注意

https で接続すると、証明書が「自己発行証明書」の場合、警告メッセージが表示されますが、そのまま接続 を続行してください。

3. MMB Web-UI ログイン画面が表示されるので、ユーザーアカウントおよびパスワードを入力し、[Login] ボタンをクリックします。

図 3.7 MMB Web-UI ログイン画面

FUJITSU FUJITSU Server PRIMEQUEST 3800E Management Board Web UI Version 1.00					
	Username : Password : Login Cancel * Username and password are case sensitive.				
Copyright © 2017 FUJITSU LIMITED. All Rights Reser	red. 🗸				

備考

初回起動時および設定変更をしていない場合は、以下の初期値のユーザーアカウントとパスワードが適用されます。

表 3.7 ユーザーアカウント・パスワードの初期値

Username	Administrator
Password	adminadmin

●ログアウト

ナビゲーションバーの[Logout] をクリックします。

→Web-UI からログアウトします。

3.3.6 Web-UI 画面の見方

Web-UI 画面の見方については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657) の「第1章 MMB の Web-UI の概要」を参照してください。

備考

Web-UI 画面に [Read Error] が表示された場合は、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「11.2 トラブル対応」を参照して、内容を確認してください。マニュアルを参照しても解決できない異常に ついては、修理相談窓口または担当営業員に連絡してください。その場合は、本体装置に貼付のラベルで記載の型名、 および製造番号を確認し、連絡してください。

■ MMB Web-UI での基本操作

基本的な操作の流れを以下に示します。

- ナビゲーションバーからメニューを選択します。
 →サブメニュー領域に、選択したメニューのサブメニューが表示されます。
- サブメニューからメニューを選択します。
 →コンテンツ領域に、選択したメニューに対応する画面が表示されます。
- 表示された画面で情報を確認したり設定したりします。
 [Apply] ボタンをクリックすると情報が設定されます。
 [Cancel] ボタンをクリックすると情報が入力前の状態に戻ります。

注意

Internet Explorer を使用している場合、処理の実行確認、処理完了の通知などのダイアログボックスが表示された状態で2分以上経過すると、MMB Web-UI との接続が切断されます。この場合は、再度 MMB Web-UI にログインしてください。

3.3.7 MMB のネットワーク設定

MMB のネットワークを設定します。この時点までに設定されている項目は、設定内容を確認してください。未設定の場合は、設定してください。

以下の IP アドレスを設定します。

- Web-UI にアクセスするために使用する仮想 IP アドレス(Virtual IP Address)
- MMB のインターフェースに割り当てる物理 IP アドレスなど

設定した情報のバックアップについては「3.7構成情報の保存」を参照してください。

注意

- 実装位置 MMB#1 に MMB が搭載されていない、かつ PRIMECLUSTER 連携を行わないのであれば、MMB の物 理 IP の設定は不要です。
- MMBのネットワークを設定するには、Administrator権限でログインしてください。
- [Network Interface] 画面で[MMB#0 IP Address] または[MMB#1 IP Address] を変更して[Apply] ボタンをク リックした場合:
 設定を反映するためにネットワークが一時的に停止し、Web-UI が切断されます。Web-UI のメニューを選択す
- ると、Web-UI に再度接続することができます。 仮想 IP アドレスを変更した場合:
- MMB Web-UI との接続が切断されます。MMB Web-UI を使用する場合は再度ログインする必要があります。

備考

仮想 IP アドレスが設定されている場合:

Web ブラウザは、PRIMEQUEST 3000 シリーズの仮想 IP アドレスに対してアクセスします。このため、MMB#0 と

MMB#1 の物理 IP アドレスを指定して MMB Web-UI にアクセスすることはできません。保守用端末と REMCS は、 [Network Configuration] - [Network Interface] の[Maintenance IP Address] で設定したアドレスに対してアクセスします。

■ 操作手順

1. [Network Configuration] - [Network Interface] をクリックします。

→ [Network Interface] 画面が表示されます。[Network Interface] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.2 [Network Interface] メニュー」を 参照してください。



図 3.8	[IPv4	Interface]	画面の例
E 3.0	L., A.	meendeej	

図 3.9 [IPv6 Interface] 画面の例

vstem Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout						
>Network Configuration >Network Interface	e >IPv6 Interface		*			
Date/Time						
Network Interface	IPv6 Interface		Help			
IPv4 Interface						
IPv6 Interface	Click the Apply button for	all changes to take effect.	^			
Management LAN Port Configuration						
Network Protocols	MMB Virtual/Physical I	P Address				
Refresh Rate	Virtual IP Address					
SNMP Configuration	Hostname	PRIMEQUEST ×				
± SSL	Automatic Acquisition	Auto				
SSH	Protoniale Acquisition					
Access Control	IP Address					
Access Control	Prefix Length	0				
	Gateway address					
	MMB#0 IP Address					
	Interface	○Enable				
	Hostname (optional)					
	Automatic Acquisition	Auto				
	IP Address	::				
	Prefix Length	0				
	Gateway address					
	DNS (optional)					
	DNS	○ Enable				
	DNS Server 1	**				
	DNS Server 2	8				
	DNS Server 3	**				
	Management LAN					
	Dualization	○Enable				
	Maintenance IP Address					
	Interface	Enable Disable				
	IP Address	:				
	Prefix Length					
	Gateway address	:				
	SMTP address	;				
			~			
		Apply Cancel	^			

2. [Virtual IP Address] の[IP Address]、[Subnet Mask] (*1) 、[Gateway address]に値を入力します。ホスト名も設定します。

*1: [IPv6] の場合は[Prefix Length] を入力します。

- 3. [MMB#0 IP Address] または[MMB#1 IP Address] で[Interface] の[Enable] をクリックし、各項目を入力します。 ここでは、割り当てる物理 IP アドレスを指定します。
- 4. 必要な項目を設定したら、[Apply] ボタンをクリックします。

注意

IP アドレスなどの値を間違えて設定すると、MMB Web-UI が表示されなくなります。その場合は、MMB の COM ポートに MMB 接続用 PC を接続して、MMB CLI から正しい値を設定してください。

備考

MMB#0と MMB#1 の物理 IP アドレスと仮想 IP アドレスは、同一サブネットに設定します。

3.3.8 telnet の設定

MMBのtelnetを設定します。 設定した情報のバックアップについては「3.7構成情報の保存」を参照してください。

注意

telnet を設定するには、Administrator 権限でログインしてください。 担当保守員がメンテナンスを実施する際には必ず以下の設定が必要です。

- Video Redirection と Virtual Media が使用可能であること
 詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス』の「2.4.9.3 Console Redirection Setup] 画面」を参照してください。
- Telnet もしくは SSH が使用可能であること

詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス(MMB)』の「2.6.4 [Network Protocols] 画面」を参照してください。

■ 操作手順

1. [Network Configuration] - [Network Protocols] をクリックします。

→ [Network Protocols] 画面が表示されます。[Network Protocols] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シ リーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.4 [Network Protocols] 画面」を参照し てください。

図 3.10 [Network Protocols] 画面例

System Partition User Administration Ne	etwork Configuration Maintenance			Logout			
>Network Configuration >Network Protoco	bls						
Date/Time							
Network Interface	Network Protocols			Help			
IPv4 Interface							
IPv6 Interface	Click the Apply Button to apply all changes.						
Management LAN Port Configuration							
Refresh Pate	ah (HTTP/HTTPS)						
SNMP Configuration		Enchia Dischia					
 ■ SIL 			-				
SSH	H11P Port#[80,1024-65535]	8081	_				
Remote Server Management	HTTPS	Enable Disable	_				
Access Control	HTTPS Port#[432,443,1024-65535]	432					
Alarm E-Mail	Timeout (sec) [0,60-9999]	0					
	Telnet						
	Telnet	● Enable ○ Disable					
	Telnet Port#[23,1024-65535]	23					
	Timeout (sec) [0,60-9999]	0					
	SSH						
	SSH	● Enable ○ Disable					
	SSH Port#[22,1024-65535]	22					
	Timeout (sec) [0,60-9999]	0					
	SNMP						
	SNMP Agent	Enable Disable					
	Agent Port#[161,1024-65535]	161					
	SNMP Trap	● Enable ○ Disable					
	Trap Port#[162,1024-65535]	162					
		г					
			Apply Cancel				
				<u> </u>			

2. [Telnet] の項目を設定します。

注意

MMBは、以下の TCP/IP のポート番号を固定で使用しています。以下のポート番号は変更しないでください。

- 623/udp:RMCP通信用
- 664/udp:RMCP通信用
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

3.3.9 DNS サーバの設定

DNS サーバを利用する場合に設定します。後で設定することもできます。設定した情報のバックアップについては 「3.7 構成情報の保存」を参照してください。

注意

設定するには、Administrator 権限でログインしてください。

■ 操作手順

1. [Network Configuration] - [Network Interface] をクリックします。[IPv4 Interface] または[IPv6 Interface] を選択 します。

→ [IPv4 Interface] 画面または[IPv6 Interface] 画面が表示されます。 [IPv4 Interface] 画面および[IPv6 Interface] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の 「2.6.2 [Network Interface] メニュー」を参照してください。

ystem Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout							
>Network Configuration >Network Interface >IPv4 Interface							
Date/Time							
Network Interface	IPv4 Interface	,	Help				
IPv4 Interface							
IPv6 Interface	Click the Apply button for	or all changes to take effect.	^				
Management LAN Port Configuration	•••						
Network Protocols	MMB Virtual/Physica	I IP Address					
Refresh Rate	Virtual IP Address						
SNMP Configuration	Hostname	PRIMEQUEST					
	IP Address						
SSH Remote Server Management	Subnet Meels	225 225 225 0					
Access Control	Sublict Ivlask	255 . 255 . 255 . 0					
Alarm E-Mail	Gateway address	XX . XX . XXX . 1					
	MMB#0 IP Address	5					
	Interface	O Enable Disable					
	Hostname (optional)						
	IP Address	0.0.0.					
	Subnet Mask	255 . 255 . 255 . 255					
	Gateway address	0.0.0					
	DNS (optional)						
	DNS	○ Enable					
	DNS Server 1	0.0.0.					
	DNS Server 2	0.0.0.					
	DNS Server 3	0.0.0.0					
	Management LAN						
	Dualization	⊖ Enable					
	Maintenance IP Addre	200					
	Interface	Enable Disable					
	IP Address	192 . 168 . 1 . 1					
	Subnet Mask	255 . 255 . 255 . 0					
	Gateway address	0.0.0					
	SMTP address						
		Apply Cancel					

図 3.11 [IPv4 Interface] 画面の例

System Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout						
>Network Configuration >Network Interface	e >IPv6 Interface		~			
Date/Time						
Network Interface	IPv6 Interface		Help			
□ IPv4 Interface						
□ IPv6 Interface	Click the Apply button for a	all changes to take effect.	^			
Management LAN Port Configuration						
Refresh Pate	MMB Virtual/Physical I	Address				
SNMP Configuration	Virtual IP Address					
* SSL	Hostname	PRIMEQUEST] ×				
▪ SSH	Automatic Acquisition	Auto				
Remote Server Management	IP Address	**				
Access Control	Prefix Length	0				
□ Alarm E-Mail	Gateway address					
	MMB#0 IP Address					
	Interface	○Enable				
	Hostname (optional)					
	Automatic Acquisition	Auto				
	IP Address					
	Prefix Length	0				
	Gateway address					
	DNS (optional)					
	DNS	○ Enable				
	DNS Server 1					
	DNS Server 2					
	DNS Server 3					
	Management LAN					
	Dualization	○ Enable				
	Maintenance IP Address					
	Interface	Enable Disable				
	IP Address	:				
	Prefix Length					
	Gateway address					
	SMTP address					
			*			
		Apply Cancel	^			

- [DNS (optional)]で[DNS]の[Enable]をクリックし、各項目を入力します。
 DNS Server 1 にはプライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。
 必要に応じて、DNS Server 2 にはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを DNS Server 3 にはサード DNS サーバの IP アドレスを入力します。
- 3. 必要な項目を設定したら、[Apply] ボタンをクリックします。

3.3.10 Alarm E-Mail の設定

Alarm E-Mail の以下を設定します。

- 運用中に異常が起きたときに、E-Mail で通知するかどうか
- 通知する場合は、エラーの段階や通知先

設定した情報のバックアップについては「3.7構成情報の保存」を参照してください。

注意

上記の項目を設定するには、Administrator 権限でログインしてください。

■ 操作手順

1. [Network Configuration] - [Alarm E-Mail] をクリックします。

→ [Alarm E-Mail] 画面が表示されます。[Alarm E-Mail] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運 用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.11 [Alarm E-Mail] 画面」を参照してください。

System Partition User Administ >Network Configuration >Alarm I	<u>ration Network Co</u> E-Mail	nfiguration Maintenance	Logout
 Date/Time Network Interface IPv4 Interface IPv6 Interface Management LAN Port Config 	Alarm E-N Click the Apply Bu	Tail atton to apply all changes.	Help
Network Protocols	Alarm E-Mail	Enable Disable	
 ❑ Refresh Rate ➡ SNMP Configuration ➡ SSL 	From:	Use envelope "from" address	
± SSH	To:	John@smth.com	
Remote Server Management	SMTP Server	XXX.XXX.XXX	
Access Control	Subject	test alarm	
		Apply Cancel Filter Test E-Mail	0

図 3.13 [Alarm E-Mail] 画面例

2. 必要な項目を入力します。

備考

[Alarm E-Mail] 送信時に SMTP サーバに送信する[From] アドレスは、以下のようになります。

- [Use envelope "from" address.] チェックボックスがオンの場合
- [Alarm E-Mail] 画面の[From] で設定したアドレスが SMTP サーバへ送信する[From] アドレスとなります。 Use envelope "from" address.] チェックボックスがオフの場合(初期設定)

[Network Configuration] - [Network Interface] 画面内の[Virtual IP Address] - [Hostname] に設定した [Hostname] の形式に従って、以下の[From] アドレスが SMTP サーバへ送信されます。

- FQDN 形式の場合: root@[Hostname]
- FQDN 形式でない場合: root@localdomain.localdomain
- [From] に設定したメールアドレスは、メール受信者([To])に送信されるメールの[From] アドレスとして使用されます。
- SMTP Server 名に FQDN を指定する場合は、DNS サーバが設定されている必要があります。DNS サーバは、 [Network Configuration] - [Network Interface] から設定できます。
- 3. 目的に応じた操作ボタンをクリックします。
 - メールを送信する条件を設定する場合:[Filter] ボタン
 - 設定を有効にする場合: [Apply] ボタン
 - テスト送信をする場合:[Test E-Mail] ボタン

■ メール送信の条件設定

1. メールを送信する条件を設定する場合は、[Alarm E-Mail] 画面の[Filter] ボタンをクリックします。

on <u>Network C</u>	onfiguration Mai	ntenance					
1811							
	N.C. 11 T. 14						
Alarm E-Mail Flitering Condition							
Select the filtering conditions and click the Apply Button.							
1)Severity:	✓ Error ✓ Wan	nıng 🗹 Info					
2)Partition:	● All						
	○ Specified		/ 3				
3)Unit:	● A1	_		_			
	○ Specified	✓ PSUs		✓ Fans			
		✓ SB#0		✓ SB#1		✓ SB#2	✓ SB#3
		IOU#0		✓ IOU#1		IOU#2	IOU#3
		DU #0		✓ DU#1			
		☑ DU_M #0		DU_M	#1	☑ DU_M#2	✓ DU_M#3
		PCI_IFU_M#	ŧ0	PCI_IF	'U_M#1	PCI_IFU_M#2	PCI_IFU_M#3
		OPL 🛛					
		MMB#0		✓ MMB#	1		
		MGMT_IFU	E#0	MGMT	_IFU_E#1		
		MGMT_IFU	M#0	MGMT	_IFU_M#1		
		PCI_Box#0		PCI_Bo	ox#1	PCI_Box#2	PCI_Box#3
4)Source:	A11						
	○ Specified	CPU	✓ DI	MM	🗹 Chipset		
	-	Voltage	🗹 Ter	mperature	✓ Other		
		č		-			
				Apply	Cancel		
	on Network C fail Alarm E- Select the filterin 1)Severity: 2)Partition: 3)Unit: 4)Source:	on Network Configuration Mai fail Alarm E-Mail Filte Select the filtering conditions and of 1)Severity: PError War 2)Partition: All Specified 3)Unit: All Specified 4)Source: All Specified	on Network Configuration Maintenance fail Alarm E-Mail Filtering Conditions Select the filtering conditions and click the Apply Buth 1)Severity: Image: Conditions and click the Apply Buth 3)Unit: Image: All Image: Specified Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image: All Image: Conditions and click the Apply Buth Image	on Network Configuration Maintenance fail Alarm E-Mail Filtering Condition Select the filtering conditions and click the Apply Button. 1)Severity: Image: Conditions and click the Apply Button. 2)Partition: Image: All Specified Image: Omage: Om	on Network Configuration Maintenance fail Alarm E-Mail Filtering Condition Select the filtering conditions and click the Apply Button. 1)Severity: □ Error □ Warning □ Info 2)Partition: ● All ○ Specified □ 0 □ 1 □ 2 □ 3 3)Unit: ● All ○ Specified □ 0 □ 1 □ 2 □ 3 3)Unit: ● All ○ Specified □ PSUs □ IOU#0 □ IOU#1 □ DU#0 □ DU#1 □ DU#0 □ DU#1 □ DU#0 □ DUM1 □ DU#0 □ DUM1 □ DU_M#0 □ DUM1 □ DU_M#0 □ MMB# □ MMB#0 □ MMB# □ MGMT_IFU_E#0 □ MGMT □ PCI_Box#0 □ PCI_Box# 4)Source: ● All ○ Specified □ CPU □ DIMM □ Voltage □ Temperature	on Network Configuration Maintenance fail Alarm E-Mail Filtering Condition Select the filtering conditions and click the Apply Button. 1)Severity: □ Error □ Warning □ Info 2)Partition: ● All ○ Specified □ 0 □ 1 □ 2 □ 3 3)Unit: ● All ○ Specified □ 0 □ 1 □ 2 □ 3 3)Unit: ● All ○ Specified □ PSUs □ Fans □ IOU#0 □ IOU#1 □ DU#0 □ DU#1 □ DU#0 □ DU_M#1 □ DU_M#0 □ DU_M#1 □ PCI_IFU_M#0 □ PCI_IFU_M#1 □ OPL □ MMMB#1 □ MGMT_IFU_E#0 □ MGMT_IFU_E#1 □ MGMT_IFU_M#0 □ PCI_Box#1 4)Source: ● All ○ Specified □ CPU □ DIMM □ Chipset □ Voltage □ Temperature □ Other	and Maintenance fail Alarm E-Mail Filtering Condition Select the filtering conditions and click the Apply Button. 1)Severity: Ø Error Ø Warning Ø Info 2)Partition: ● All ○ Specified Ø Ø Ø 1 Ø 2 Ø 3 3)Unit: ● All ○ Specified Ø Ø Ø 1 Ø 2 Ø 3 3)Unit: ● All ○ Specified Ø PSUs Ø BB#0 Ø SB#1 Ø DU#0 Ø DU#1 Ø DU#0 Ø DU#1 Ø DU M#0 Ø DU_M#1 Ø DU_M#0 Ø DU_M#1 Ø DU_M#0 Ø DU_M#1 Ø DU_M#0 Ø MMB#1 Ø MMB#0 Ø MMB#1 Ø MGMT_IFU_E#0 Ø MGMT_IFU_B#1 Ø PCI_Box#0 Ø PCI_Box#2 4)Source: ● All ○ Specified Ø CPU Ø DIMM Ø Voltage Ø Temperature Ø Other

図 3.14 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面例

2. 必要な項目を選択します。複数の項目を選択した場合、各項目は AND 条件、項目内は OR 条件になります。

3. [Apply] ボタンをクリックします。

3.3.11 ユーザーアカウントの登録

初期設定として、必要な人数分の MMB ユーザーアカウントを登録します。最大登録数は、16 です。設定した情報のバックアップについては「3.7 構成情報の保存」を参照してください。

■ 操作手順

1. [User Administration] - [User List] をクリックします。

→ [User List] 画面が表示されます。[User List] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツ ールリファレンス(MMB)」(CA92344-1657)の「2.5.1 [User List] 画面」を参照してください。

	N. 10.0					T
System Partition User Administr	ration Network Configuration	on <u>Maintenance</u>				Logout V
Change Decouverd	Usor List					Help
Who	User List					Theip
	Click the Add User butto Select a user, then click	n to add a new user. the Edit/Remove User button to	o edit or remo	ove the user		
	User Name	Full Name	Privilege	Status	Operable Partition (for Partition Operator)	
	OAdministrator	Default Administrator	Admin	Enabled		
		Add User Edit User	Remove L	Jser Canc	el	2

図 3.15 [User List] 画面例

2. [Add User] ボタンをクリックします。

→ [Add User] 画面が表示されます。[Add User] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツ ールリファレンス(MMB)」(CA92344-1657)の「2.5.1 [User List] 画面」の「[Add User] 画面」を参照してくだ さい。

図 3.16 [Add User] 画面例

System Partition User Administ >User Administration >User List >	ration <mark>Network Configuration Ma</mark> ⊳Add User	nintenance	Logout 🗸
 User List Change Password Who 	Add User		Help
	Click the Apply Button to apply	y all changes.	
	User Name		
	Password		
	Confirm Password		
	Privilege	● Admin ○ Operator ○ User ○ CE ○ Partition Operator	
	Status	• Enabled Disabled	
	Full Name	(optional)	
	Operable Partition (far Dartition Operator)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	
	(for Partition Operator)		
		Apply Cancel	\bigcirc

備考

既存のユーザーアカウントを変更する場合は、[User List] 画面の[Edit User] ボタンをクリックして[Edit User] 画面で 登録内容を変更してください。[Edit User] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファ レンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.5.1 [User List] 画面」の「[Edit User] 画面」を参照してください。

Miser Administration Miser List SEdit	returner coninguration in	<u>intenance</u>	Logout
-Oser Administration - Oser List - Edit	t User		Ň
🖸 User List			
Change Password	dit User		Help
🗅 Who			
Clie	ck the Apply Button to appl	/ all changes.	
	User Name	Administrator	
	Current Password		
	Password		
	Confirm Password		
	Privilege	●Admin ○Operator ○User ○CE ○Partition Operator	
	Status	● Enabled ○ Disabled	
	Full Name	Default Administrator (optional)	
	Operable Partition	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	
	(for Partition Operator)		
		Apply Cancel	^

図 3.17 [Edit User] 画面例

- 3. 必要な項目を入力します。
 - User Name: ユーザアカウント名を入力します。
 - Current Password:現在のパスワードを入力します。(本項目は[Edit User]画面で表示されます。)
 - Password:パスワードを入力します。
 - Confirm Password:確認のためパスワードをもう一度を入力します。
 - Privilege:ユーザアカウントの権限を選択します。
 - Status:ユーザアカウントの有効・無効を選択します。
 - Full Name: ユーザー名に関係する実際の名前などを入力するフィールドとして使用します。
 - Operable Partition (for Partition Operator):操作可能とするパーティション番号を選択します(複数選択可)。
 (本項目は Privilege で Partition Operator を選択した場合にだけ設定できます。)
- 4. [Apply] ボタンをクリックします。

3.3.12 システム名の設定

PRIMEQUEST 3000 シリーズのシステムに対する名前を設定します。この名称は、SNMP の[System Name] としても 使用されます。設定した情報のバックアップについては「3.7 構成情報の保存」を参照してください。

■ 操作手順

[System] - [System Information] をクリックします。

 → [System Information] 画面が表示されます。[System Information] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.3.5 [System Information] 画面」
 を参照してください。



System Partition User Administra	ation Network Configuration	<u>Maintenance</u>	Logout
>System >System Information			
System Status			
System Event Log	System Inforn	nation	
Operation Log	-,		Help
Partition Event Log			
System Information	Click the Apply Button t	o apply all changes.	
Firmware Information			
System Setup	System Name	PRIMEQUEST	
System Power Control	Product Name	DDIMEOUEST 2800E	
⊔ LEDs	Product Marile	PRIMEQUEST SOULE	
Power Supply	Part Number		
Lans	Serial Number		
Temperature	Schur Humber		
E ION	Asset Tag		
		Anniv Cancel	
■ MMB			
PCL IFU M			
MGMT IFU			

- 2. [System Name] を入力します。
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

3.3.13 日付・時刻の設定

MMB の日付、時刻、および NTP(NTP サーバがある場合)を設定します。 ただし、担当保守員がすでに設定している 場合があります。担当保守員がすでに設定していて、変更の必要がなければ、次の設定に進んでください。 設定した情報のバックアップについては「3.7 構成情報の保存」を参照してください。

備考

MMB には NTP クライアント機能があります。MMB の NTP クライアント機能は、別の NTP サーバを基準として時刻を 合わせます。安定した NTP 運用をするために、各 NTP クライアントからは複数台(RHEL の場合は 3 台以上を推奨)の NTP サーバを指定してください。

■ [Date/Time] 画面の操作手順

1. [Network Configuration] - [Date/Time] をクリックします。

→ [Date/Time] 画面が表示されます。[Date/Time] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理 ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.1 [Date/Time] 画面」を参照してください。

System Partition User Adm	ninistration Network Configuration	<u>Maintenance</u>	Logout
>Network Configuration >Da	ate/Time		÷
Date/Time			
 Network Interface 	Date/Time		Refresh Help
Management LAN Port C			
Network Protocols	Click the Apply Button to apply all	changes	
Refresh Rate			
 SNMP Configuration 	Date	2013 4 16	
± SSL	Date		
± SSH	Time	☐ Modify the 1ime	
Remote Server Manageme		9 : 53 : 26	
Access Control	Time zone	Asia 🗸 / Tokyo 🗸	
Alarm E-Mail	NTP	⊖Enable	
	NTP Time Correction Mode	Step Slew	
	NTP Server1		
	NTP Server?		
	NTP Server3	<u></u>	
	Current Sync Status		
		Apply Cancel	<u>^</u>

図 3.19 [Date/Time] 画面例

- 2. 必要な項目を入力します。
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

■ [Management LAN Port Configuration] 画面の操作手順

- 1. [Network Configuration] [Management LAN Port Configuration] をクリックします。
 - → [Management LAN Port Configuration] 画面が表示されます。[Management LAN Port Configuration]画面に ついて詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.3 [Management LAN Port Configuration] 画面」を参照してください。

注意

MMB User Port と接続するスイッチングハブのポートと同じ Speed/Duplex 値を指定してください。

図 3.20 [Management LAN Port Configuration] 画面例



- 2. 必要な項目を入力します。
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

3.4 パーティションの設定(物理パーティション)

ここでは、物理パーティションパーティションの各種情報の設定について説明します。複数のパーティションがある場合 はすべてのパーティションについて設定します。 パーティションの構成変更を反映するには、パーティションごとに電 源切断、電源投入が必要です。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は 異なります。

3.4.1 パーティションの構成設定

SB/Memory Scale-up Board および IOU の組込みおよび切離し操作について説明します。

■ SB/Memory Scale-up Board/IOUの組込み

パーティションに SB/Memory Scale-up Board または IOU を組み込みます。

●操作手順

1. [Partition] - [Partition Configuration] をクリックします。

→ [Partition Configuration] 画面が表示されます。[Partition Configuration] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」を参照してください。

Schedule Console Redirection Setup IPv4 Console Redirection Se UD4 Console Redirection Se	Partitio Select a partit	n Configurati	ON Remove Unit, S	et F	ati	tion	Na	me,	or I	Ion	ie bi	utto	ns to	o cos	nfigu	re the	e partition.		[
Partition Configuration	#	Partition Name	Power Status		SE	3		I	OU		Ext	ienk	led I	arti	tionir	ıg			
artition#2 Extended Partition C				2	1	2 3	3 (0 1	2	3	4	5 (5 7	8 9	0 10	11			
artition#3 Extended Partition C	01	PPAR annual	Standby		н	T	T	١.				T	Ħ	T					
served SB Configuration wer Management Setup	02	PPAR.	Standby	-	-	н	+	f	+		•	$^{+}$	H	+	F	Н			
rtition#1	01	PPAR.	On	+	ť		-	+	f		-	+	H	+	+	-			
rtition#2	Reserved	11111	01			÷				-			H			-			
tition#3 tition#4	Free			•			k	•	T			•	•	• •					
rtition#10 rtition#11	Note) R H	represents Reserved SI represents Home SB represents Installed SB	B /IOU/Extended	Par	titio	ning	oth	ier t	han	the	abo	ve							

図 3 21	[Partition	Configuration	面面例
	լոսոստո	Configuration	回回い

- SB/Memory Scale-up Board または IOU を組み込むパーティション番号のラジオボタンをクリックします。
 [Partition Configuration] 画面では Memory Scale-up Board は"SB"で表現されています。
- [Add Unit] ボタンをクリックします。
 → [Add SB/IOU to Partition] 画面が表示されます。フリー状態の SB/Memory Scale-up Board および IOU が 一覧で表示されます。 [Add SB/IOU to Partition] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用 管理ツールリファレンス(MMB)』 (CA92344-1657) の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」の「[Add SB/IOU to Partition] または[Add SB/IOU/Extended Partitioning to Partition]画面」を参照してください。

System Partition User Admin >Partition >Partition Configurat	nistration <u>Network Configuration</u> <u>Maint</u> tion	enance		Logout
 Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Extended Socket Configuration 	Add SB/IOU/Extended Select an SB or IOU or Extended Partit	Partiti	oning to Partition I to the partition #0, then click the Apply Button.	Help
Reserved SB Configuration	Free SB/IOU/Extended Partitioning	Status	Note	
Power Management Setup	○ SB#1	OK	Number of CPUs = 2, Memory = 64 GB	
Partition#0	○ SB#2	OK	Number of CPUs = 2, Memory = 64 GB	
	○ SB#3	OK	Number of CPUs = 2, Memory = 64 GB	
	◯IOU#0	OK	Number of PCI-Express Slots = 4	
	O Extended Partitioning#4	OK		
	O Extended Partitioning#5	OK		
	O Extended Partitioning#6	OK		
	O Extended Partitioning#7	OK		
	O Extended Partitioning#8	OK		
	O Extended Partitioning#9	OK		
	O Extended Partitioning#10	OK		
	O Extended Partitioning#11	OK		
			Jonly Cancel	^
$\langle \rangle$,		~

図 3.22 [Add SB/IOU to Partition] 画面例

- パーティションに組み込む SB/Memory Scale-up Board または IOU のラジオボタンをクリックします。
 1回の操作で選択できるのは 1 つの SB または IOU だけです。
- [Apply] ボタンをクリックします。
 → 確認のダイアログボックスが表示されます。
- 6. [OK] ボタンをクリックします。

→ 選択した SB/Memory Scale-up Board または IOU がパーティションに組み込まれます。 必要な SB/Memory Scale-up Board または IOU を組み込むまで、手順 2~手順 6 を繰り返します。

■ SB/Memory Scale-up Board および IOU の切離し

ここでは、パーティションから SB/Memory Scale-up Board または IOU を切り離す方法を説明します。

備考

対象となるパーティションの OS が運用中の場合は、SB/Memory Scale-up Board または IOU を切り離せません。対象の パーティションの電源を切断してから、SB/Memory Scale-up Board または IOU を切り離してください。

●操作手順

1. [Partition] - [Partition Configuration] をクリックします。

→ [Partition Configuration] 画面が表示されます。[Partition Configuration] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」を参照してください。

System Partition User Admir >Partition >Partition Configurat	nistration <u>Net</u> ion	work Configuration Ma	aintenance								<u>Logout</u>	~
 Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Reserved SB Configuration 	Partitie Select a parti	on Configurati	ON Remove Unit, S	et]	Part	titio	n N	am	e, o	r Ho	Help]
Power Management Setup	4	Dertition Nome	Dower Status		S	В			IO	U		
Partition#0	<i>#</i>	Paruuon Ivaine	Power Status	<u>0</u>	1	2	<u>3</u>	<u>0</u>	1	2	3	
Partition#1 Dertition#2	0	free	Standby	Н				•				
■ Partition#3	01	free_	On		Н				٠			
	02	free	Standby			Н				•	_	
	03	free	Standby				Н				•	
	Reserved	1										
	Free											
	Note) R H •	represents Reserved SI represents Home SB represents Installed SB	B /IOU/Extended	Pa	rtiti	onii	ng o	the	r tha	an ti	he above	•
		Set Partition	Name A	dd (Unit		R	em	ove	Unit	t Home Cancel	^
$\langle \rangle$												~

図 3.23 [Partition Configuration] 画面例

- SB/Memory Scale-up Board または IOU を切り離すパーティション番号のラジオボタンをクリックします。
 [Partition Configuration] 画面では Memory Scale-up Board は"SB"で表現されています。
- 3. [Remove Unit] ボタンをクリックします。

→ [Remove SB/IOU from Partition] 画面が表示されます。SB/Memory Scale-up Board および IOU が一覧で 表示されます。これらの SB/Memory Scale-up Board および IOU は、手順 2 で選択したパーティションに組 み込まれているものです。[Remove SB/IOU from Partition] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シ リーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」 の「[Remove SB/IOU from Partition] または[Remove SB/IOU/Extended Partitioning from Partition]画面」 を参照してください。

System II Partition II I See Administ	ration Network Config	uration Mainter	ance	lorent
>Partition >Partition Configuration				100,000
Power Control				
Schedule	Remove SB	/IOU from	n Partition	Help
Console Redirection Setup				
Partition Configuration	Select an SB or IOI	to remove from	a the partition #0, then click the Apply Button	
Reserved SB Configuration			and headen of and then an tappy housen.	
Partition#0	SB/IOU	Status	Note	
Partition#1	O SB#0	OK	Number of CPUs = 2, Memory = Unknown	
	O IOU#3	OK	Number of PCI-Express Slots = 2	
		1-24		
			and the second se	
			Apply Cancel	
<	>			

図 3.24 [Remove SB/IOU from Partition] 画面例

- パーティションから切り離す SB/Memory Scale-up Board または IOU のラジオボタンをクリックします。
 1回の操作で選択できるのは、1つの SB/Memory Scale-up Board または IOU だけです。
- 5. [Apply] ボタンをクリックします。 →確認のダイアログボックスが表示されます。
- 6. [OK] ボタンをクリックします。
 →選択した SB/Memory Scale-up Board または IOU がパーティションから切り離され、フリー状態になります。

3.4.2 Home SB の設定

Home SB は各パーティション中に必ず 1 つだけ存在する SB です。各パーティションで最初に組み込まれた SB が Home SB として自動設定されます。また、Home SB を削除した場合には、パーティションを構成する SB で縮退され ていない SB の中から、最も小さい番号の SB が Home SB として自動的に設定されます。Home SB では、外部コネク タの USB ポートおよび VGA ポートが使用できます。Home SB を変更したい場合は、Web-UI で指定します。Home SB について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ製品概説』 (CA92344-1653)の「5.11 Home SB」を参照してくださ い。

備考

SB とイネーブルキットの組み合わせによっては、Windows ライセンス認証を要求される場合があります。 詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』 (CA92344-1656)の「3.4 コンポーネントの増設」の「SB と enable kit の組み合わせによるライセンス認証」を参照してください。

■ 操作手順

 [Partition] - [Partition Configuration] - [Home] をクリックします。
 → [Partition Home] 画面が表示されます。[Partition Home] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration]画面」の
 「[Partition Home] 画面」を参照してください。

備考

筐体内に複数のパーティションを構成している場合は、[Partition Configuration]画面で Home SB を設定したいパ ーティションをラジオボタンで選択してから[Home]をクリックします。

2. パーティションの Home として設定する SB を選択して [Apply] ボタンをクリックします。

System Partition User Admit >Partition >Partition Configurat	nistra tion	ation <u>Network Configuration</u> Ma	<u>iintenance</u>	Logo	o <mark>ut</mark> 🗸
Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Extended Socket Configuration	P Sel	ect a Home SB for the partition #0	, then click the Ap	Pply Button.	elp
Reserved SB Configuration		Home SB			
Power Management Setup Destriction#0		SB	Status		
Partition#0 Partition#1		● SB#0	ОК		
			Appl	y Cancel	$\hat{\mathbf{C}}$

図 3.25 [Partition Home] 画面例

3. 指定したパーティションに対して、ラジオボタンで Home SB を選択します。

備考

- Home 設定されている SB に限り、未実装でもグレーアウト表示されます。グレーアウト表示されている行のラジオボタンから、グレーアウト表示されていない行のラジオボタンへ変更できます。いったんグレーアウト表示から選択を外すと、元のラジオボタンを再度選択することはできません。
- Memory Sacle-up Board は Home SB に設定できません。
- [Apply] ボタンをクリックします。
 →確認ダイアログボックスが表示されます。

注意

[Apply] ボタンクリック時に対象パーティションの電源が投入されている場合は、[Home] の変更はできません。警告ダイアログボックスが表示されます。

5. 処理を継続する場合は[OK] ボタンを、キャンセルする場合は[Cancel] ボタンをクリックします。 →[Partition Configuration] 画面に戻ります。

3.4.3 Reserved SBの設定

パーティションに組み込まれている SB にハードウェアの故障が発生し、その SB を切り離さなければならない場合があ ります。Reserved SB とは、切り離した SB の代わりに新たにパーティションに組み込む SB のことです。運用状況を考 慮して、パーティションに Reserved SB を設定できます。 指定するパーティションに組み込まれていない SB を Reserved SB として設定することができます。 組み込まれていない SB とは、以下の SB を指します。

- フリー状態の SB
- 別パーティションに組み込まれている状態の SB
- 別パーティションの Reserved SB に設定されている状態の SB

Reserved SB について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「3.2.4 Reserved SB」を参照してください。

備考

- SB とイネーブルキットの組み合わせによっては、Windows ライセンス認証を要求される場合があります。詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「3.4 コンポーネントの増設」の「SB と enable kit の組み合わせによるライセンス認証」を参照してください。

■ 操作手順

1. [Partition] - [Reserved SB Configuration] をクリックします。

→ [Reserved SB Configuration] 画面が表示されます。フリー状態の SB または Reserved SB として定義済みの SB の列には、チェックボックスが縦に並んで表示されています。[Reserved SB Configuration] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.7 [Reserved SB Configuration] 画面」を参照してください。

System Partition User Administ >Partition >Reserved SB Configu	tration <u>Netwo</u> ration	rk Configuration	Mainter	<u>iance</u>						Logout
 Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Reserved SB Configuration 	Reserve Check the che	ed SB Con	figur :	ation to register the	Rese	rved	SB, ti	hen cl	lick the Apply button.	Help
 Power Management Setup Partition#0 	#	Partition Name	Power Status	Mirror Mode (setting)	SB 0	1	2	3		
Partition#1	0	free	Standby	Disable	•	<u></u>	-	<u> </u>		
Partition#2 Destition#2	1	free	Standby	Disable		•				
Partuon#5	2	free	Standby	Disable			•			
	3	okamoto	Standby	Disable				•		
	Reserved									
	Free									
							_			
< >					Ар	ply	Cano	cel		Q

図 3.26 [Reserved SB Configuration] 画面例

- 2. SBの列で、予備対象とするパーティションのチェックボックスをオンにします。
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

備考

Reserved SB をフリー状態の SB にするには、[Reserved SB Configuration] 画面でチェックボックスをオフにします。

■ Reserved SB の設定条件

Reserved SB の設定には以下の条件があります。

- TPM 機能を使用するパーティションには、Reserved SB は設定できません。 上記の搭載条件を満たさない場合 はメッセージダイアログボックスが表示され、Reserved SB 設定を抑止します。
- 1 SB でパーティションを構成しているパーティションに対して Reserved SB を設定する場合に、切替元パーティションの Memory Operation Mode 要件を満たさない DIMM 構成の SB を Reserved SB に設定すると、 Reserved SB に切り替わった後、Memory Operation Mode が変わることがあります。そのような場合には、 Reserved SB を設定する際に確認ダイアログボックスが表示されます。
- Memory Scale-up Board は Reserved SB として設定できません。
- SB を Memory Scale-up Board の Reserved SB として設定できません。Memory Scale-up Board を含むパー ティションに Reserved SB として設定した SB は、SB に対してだけ Reserved SB として機能し、Memory Scale-up Board に対しては Reserved SB として機能しません。
- DCPMM を搭載している SB は Reserved SB として設定できません。また、DCPMM を使用しているパーティションには Reserved SB を設定できません。

PRIMEQUEST 3800E2/3800L2/3800E/3800L において、複数の SB で構成しているパーティションに対して Reserved SB を設定する場合、さらに以下の条件があります。

- Reserved SB は、SB1 枚あたり 2 CPU を搭載します。
- Reserved SB は、切替元パーティションと DIMM 混在条件を満たす DIMM 構成にします。
- Reserved SB は、切替元パーティションと同じ Memory Operation Mode 要件を満たす DIMM 構成にします。
- Reserved SB は、パーティションを構成する SB と同じ種類の CPU を搭載します。

上記の搭載条件を満たさない場合はメッセージダイアログボックスが表示され、Reserved SB 設定を抑止します。

■ Reserved SB 設定における注意事項

[Partition] - [Reserved SB Configuration] 画面では、存在しないパーティションにも Reserved SB を設定することが できます。誤設定にご注意ください。Reserved SB が設定したいパーティションに正しく設定できているか確認してく ださい。

例: パーティション#1 に SB および IOU 資源が割り当てられていないケース。

[Partition] - [Partition Configuration]画面では、パーティション#1 は SB および IOU が割り当てられておらず、 存在していません。

Power Control Schedule Conrole Redirection Setup Particle Conference	Part Select a	titio	n Configurat	tion dd/Remove Unit.	Set Par	tition }	lame. «	er Horne	e buttons to configure the p.
Referved SB Configuration			Darbhen Marrie	Dames Cashar	S	В	10	U	
Power Management Setup		Farmon reame	Tower Status	0	1	0	1		
eLCM Setup		00		On	H		•	•	
Parabon#0		01							
	Rei	served							
		177 2			1	-	1	and the second second	

[Partition] - [Reserved SB Configuration] 画面では、SB#0 を存在しないパーティション#1 の Reserved SB として 設定できます。

Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration	Re	eserve	ed SB Con	figur partition	ation as to register th	e Re	serve	d SB, then click the Apply butto
Reserved SB Configuration		1	Destring Mana	Power	Mirror Mode	SB		
Dewer Management Setup		1.15	Farmon Name	Status	(setting)	0	1	
eLCM Setup		0		Ôn	Disable	•		
Partition#0		1			Disable			
		Reserved				•		*
		Free	-	-	2	-		1

3.4.4 パーティション名の設定

パーティション名を設定します。Administrator 権限で設定できます。 パーティション名は、OS 上で設定するホスト名と同じ名前にするとわかりやすくなります。

■ 操作手順

1. [Partition] - [Partition Configuration] をクリックします。

→ [Partition Configuration] 画面が表示されます。[Partition Configuration] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」を参照してください。



System Partition User Administration Network Configuration Maintenance L									.ogou	<u>t</u>												
>Partition >Partition Configuration											~											
Power Control														_								
🙂 Schedule	Partition Configuration											He	lp									
Console Redirection Setup		-																				
Partition Configuration	Sel	ect a partiti	ion, then click the Add/	Remove Unit,	Set	Par	titio	n N	lam	ie, c	or H	lome	e bu	tton	is to	cor	nfigu	re th	e par	tition.		
Partition#1 Extended Partitic												_										
Extended Socket Configurat		#	Partition Name	Power Status		S	В			IC	DU]	Exte	ende	ed P	arti	tionit	ng				
Reserved SB Configuration		"	Tarddon Tvane	1 Ower Status	<u>0</u>	1	2	<u>3</u>	<u>0</u>	1	2	3	4 5	6	7	8 9	9 10	11				
Power Management Setup Partition#0		0	free	Standby	H				•			- ·	•									
		01	free	On		Н				٠				•	٠							
Partition#2		02	free	Standby			н				•					• •						
Partition#3		01	free	Ctore Harr	\vdash	\vdash		тт			_		+			+						
Partition#6		03	Iree	Standby				н				-	_			+		•				
Partition#7		Reserved										_	_			+						
Free																						
		Note) R	represents Reserved SI	3																		
		H	represents Home SB																			
 represents Installed SB/IOU/Extended Partitioning other than the above 																						
			Set Partition	Name A	٨dd	Unit		R	lem	ove	Uni	t	He	ome	(Can	cel					^
																						V

備考

上記の画面は、最大構成の場合です。

2.パーティション名を設定するパーティションを選択し、[Partition Name]のセルにパーティション名を入力します。

備考

[Partition Name] は 16 文字まで入力できます。使用できる文字は以下のとおりです。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]、半角スペース、#(シャープ)、_(アンダーライン)、-(ハイフン)

3. [Set Partition Name] ボタンをクリックします。

→選択したパーティションに対して名前が設定されます。

3.4.5 各種モードの設定

パーティションの Dynamic Reconfiguration の有効・無効、Memory operation mode および HyperThreading Mode などを設定します。設定項目は MMB Web-UI と UEFI で設定します。

- MMB Web-UI でのモード設定について詳しくは、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (MMB)』(CA92344-1657)「2.4.9 [Partition#x]メニュー」の「[Mode] 画面」を参照してください。
- UEFI でのモード設定について詳しくは、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』 (CA92344-1658)の「2.2 [Configuration] メニュー」を参照してください。

注意

- 当該パーティションで使用する予定の Boot デバイスが、UEFI に認識されているか確認してください。確認については、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.4 [Boot] メニュー」で確認してください。Boot デバイスが UEFI に認識されていない場合は、[Boot Override] メニューを操作して Boot デバイスを認識させてください。
- 切替元パーティションの Memory Operation Mode 要件を満たさない DIMM 構成の SB を、Reserved SB に設 定しようとすると、確認ダイアログボックスが表示されます。Reserved SB に切り替わった際に Memory Operation Mode が解除される旨を警告し、設定を継続するか確認します。

3.4.6 Console Redirection の設定

リモートから OS をインストールする場合に、Console Redirection の設定が必要です。 Console Redirection は、管理 LAN と同じサブネットに設定してください。

■ [IPv4 Console Redirection Setup] 画面

[Partition] - [Console Redirection Setup] - [IPv4 Console Redirection Setup] 画面をクリックします。
 → [IPv4 Console Redirection Setup] 画面が表示されます。画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.3 [Console Redirection Setup] 画面」の「[IPv4 Console Redirection Setup] 画面」を参照してください。

dule IP sole Redirection Setup V4 Console Redirection Set V6 Console Redirection Set tran Conferentiation	the Apply Button For using Video	e Redirection So n to apply all changes. Redirection and Virtual Me	e tup dia in xPAR Partition, VGA	USB24KVN	AS must be connected to the partition	
rved SB Configuration	Partition Name	IP Address	Subnet Mask	Video Redirection	Virtual Media	
tion#1 tion#2	masuko	10 . 24 . 76 . 60	255 . 255 . 255 . 0	Enable Disable	Enable Disable	
tion#3	cannotboot	10 . 24 . 76 . 61	255 . 265 . 265 . 0	Enable Disable	Enable Disable	
2	cannotboot	10 . 24 . 76 . 62	255 . 255 . 255 . 0	Enable Disable	Enable Disable	
3	ijima	10 . 24 . 76 . 63	255 , 255 , 255 , 0	 Enable Disable 	Enable Disable	

			c . 1	
凶 3.28	IIPv4 Console	Redirection	Setud	<u> </u>

- 2. IPv4 用の Console Redirection LAN ヘアクセスするための IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。
- 3. ビデオリダイレクション、バーチャルメディアをそれぞれ Enable に設定します。
- 4. [Apply] ボタンをクリックします。

注意

インストール後、使用しない機能は Disable にしてください。

■ [IPv6 Console Redirection Setup] 画面

[Partition] - [Console Redirection Setup] - [IPv6 Console Redirection Setup] 画面をクリックします。
 → [IPv6 Console Redirection Setup] 画面が表示されます。画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.3 [Console Redirection Setup] 画面」の「[IPv6 Console Redirection Setup] 画面」を参照してください。

図 3.29 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面例

System van boe Gee Redirection Setu Power Console Redirection Setu Console Redirection Setu Console Redirection Setup Pover Console Redirection Setup Prof Console Redirection Set Partition Configuration	p >IPv6 Console Red IPv6 Consol Click the Apply Button Note: For using Video	e Redirection Setup to apply all changes. Redirection and Virtual Med	tup Ia in xPAR Partition, VGA/USB	24KVMS n	ust be connect	Los ted to the partition.	Help
Reserved SB Configuration Partition#0	# Partition Name	IP Address	Prefix Length	Video Redirection	Virtual Media		
Partition#1 Partition#2	0 masuko	0	0	 Enable Disable 	© Enable @ Disable		
Partition#3	1 cannotboot	:	0	 Enable Disable 	 Enable Disable 		
	2 cannotboot	::	0	 Enable Disable 	 Enable Disable 		
	3 iijima	(::	0	 Enable Disable 	 Enable Disable 		
	Automatic Acquisition	Auto					
e >			Apply Cancel				

- 2. IPv6 用の Console Redirection LAN ヘアクセスするための IP アドレスおよびプレフィックス長を設定します。自動 設定する場合は[Auto] ボタンをクリックし、IP アドレス、プレフィックス長を自動取得します。
- 3. ビデオリダイレクション、バーチャルメディアをそれぞれ Enable に設定します。
- 4. [Apply] ボタンをクリックします。

3.4.7 パーティションの電源切断と投入

パーティションの構成変更を反映させるためには、パーティションごとに電源切断、電源投入が必要です。パーティションの電源切断と投入について詳しくは「第7章パーティションの電源投入と切断」を参照してください。

備考

パーティションにコンソールが接続されている場合、POST(Power On Self Test)終了後、UEFI メニューが表示される まで進み、停止した状態になります。

3.4.8 パーティション情報の確認

パーティションの Status およびパーティションに関する各種情報を表示します。PRIMEQUEST 3000 シリーズのシステム全体のパーティション構成は、[Partition Configuration] 画面でも確認できます。

■ 操作手順

1. [Partition] - [Partition#x] - [Information] をクリックします。

→ [Information] 画面が表示されます。 [Information] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用 管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.9 [Partition#x] メニュー」の「[Information] 画面」 を参照してください。

System Parition User Administration Network Configuration Parition Parition#0 > Information Information Refresh Help Console Redirection Setup Information Refresh Help Parition Configuration Parition Name Refresh Help Parition#0 Power Status Standby System Progress Power Off Parition#0 ASR Control Gore / Max Core 32 / 32 Physical Memory Size 64GB Parition#1 Parition#1 Findemony Size 64GB Status Status					
Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Extended Socket Configuration Power Status Power Management Setup Partition#0 Partition#0 Information ASR Control Corsole Redirection Console Redirection 32 / 32 Physical Memory Size 64GB	System Partition User Adm >Partition >Partition#0 >Inform	<u>inistration</u> <u>Network Configuration</u> <u>Mair</u>	ntenance	<u>Logout</u>	~
 Partition Configuration Extended Socket Configuration Power Management Setup Partition#0 Information ASR Control Console Redirection Mode Partition#1 	Power Control Schedule Console Redirection Setup	Information		Refresh Help	
	 Console Redirection Setup Partition Configuration Extended Socket Configuration Power Management Setup Partition#0 Information ASR Control Console Redirection Mode Partition#1 	Partition Name Power Status System Progress Core / Max Core Physical Memory Size	Standby Power Off 32/32 64GB		

図 3.30 [Information] 画面例
3.5 パーティションの設定(拡張パーティション)

ここでは、拡張パーティションの設定について説明します。拡張パーティションの設定を行う前に、Extended Partitioning 機能で分割したい物理パーティションの構成設定を完了している必要があります。

備考

- Extended Partitioning 機能は PRIMEQUEST 3400E2/3400L2/3800E2/3800L2/3400E/3400L/3800E/3800L でサポートされています。
- 拡張パーティションの性能特性は物理パーティションとは異なります。事前の性能検証を行った上で使用して ください。
- 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。
- Extended Partitioning 機能の使用条件は「PRIMEQUEST3000 シリーズ製品概説」を参照してください。

3.5.1 Extended Partitioning 機能の有効化

拡張パーティションを構築したい物理パーティションに対して、Extended partitioning 機能を有効にします。

1. [Partition] - [Partition#x] - [Mode] をクリックします。[Partition#x]は Extended Partitioning 機能を有効にした い物理パーティションのパーティションです。

→ [Mode] 画面が表示されます。[Mode] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリフ ァレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.9 [Partition#x] メニュー」の「[Mode] 画面」を参照してください。

System Partition User Administ	tration Network Configuration N	<u>Maintenance</u>		<u>Logout</u>
>Partition > <u>Partition#2</u> >Mode				
Power Control				
± Schedule	Mode			Help
Console Redirection Setup				
Partition Configuration	Select mode for the partition, then	click the Apply	y Button.	
Extended Socket Configuration	Note : A partition power off/on is	required for the	e selections to become effective.	
Reserved SB Configuration				
Power Management Setup	Extended Partitioning Mode	setting	○Enable	
□ Partition#2	Memory Operation Mode	current status	Normal Mode	
Information		setting	Normal Mode	
ASR Control		_	○ Full Mirror Mode	
Console Redirection			⊖ Spare Mode	
Mode			○ Address Range Mirror Mode	
	Lockstep Mode	current status	Disabled	
		setting	⊖Enable	
	Memory Mirror RAS Mode	current status	Mirror Keep Mode	
		setting	◉ Mirror Keep Mode ○ Capacity Keep Mode	
	Memory Sparing Mode	current status	1Rank	
		setting	IRank ○ Auto	
	Dynamic Reconfiguration	current status	Disabled	
		setting	⊖Enable ⊙Disable	
	Onboard LAN Mode			
	IOU#1	current status	Enable(WOL enabled)	
		setting	Enable(WOL enabled)	
			O Enable(WOL disabled)	
			() Disable	
			Apply Cancel	

図 3.31 [Mode] 画面例

2. [Extended Partitioning Mode]の[Enable]をクリックします。

3. [Apply]ボタンをクリックします。

3.5.2 拡張パーティションの作成

物理パーティション上に拡張パーティションを作成します。例えば、物理パーティションを2つに分割したい場合は、 物理パーティション上に拡張パーティションを2つ作成します。

1. [Partition] - [Partition Configuration]をクリックします。

→ [Partition Configuration] 画面が表示されます。[Partition Configuration] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」を参照してください。



onsole Redirection Setup artition Configuration artition#1 Extended Partition Co	Select a parti	tion, then click the Ad	ld/Remove Uni	t, S	et P	arti	tion	Na	me,	or	Hor	me t	but	ton	is b	o c	on	figure the	partitic	m.	
artition#2 Extended Partition Co		Partition Name	Power Status	0	SI	3	2		IOU	13	E	sten	de	4 1	el	itio ol	omi 10	ng			
eserved SB Configuration	• •			X		-	210	× ·	i é	13		2	9	1	9	1	10	11			
ower Management Setup	01	PPAR RORST	Standby		н			1					T		T	T	•				
artition#1	02	PPAR RHEL RORST	Standby		+	н	+	t				H	1	+	t	t		_			
artition#3	03	PPAR KWA RORST	On		+	+	н	t	+	•		H	1	+	t	t		•			
artition#4	Reserved		1										1		1	Ċ,		1000			
artition#10	Free			C				•					•	•	•	•					
		represents Installed S	B/IOU/Extend	ed.	Parti	itio	ming	ot	her t	han	i the	abe	011	e							
ASR Control Console Redirection Mode																					
ASR Control Console Redirection Mode																					
ASR Control Console Redirection Mode																					
ASR Control Console Redirection Mode																					

- 2. 拡張パーティションを作成する物理パーティションのラジオボタンをクリックします。
- 3. [Add Unit] ボタンをクリックします。

→ [Add Unit to Partition] 画面が表示されます。フリー状態の SB, IOU および拡張パーティションが一覧で表示 されます。[Add Unit to Partition] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレン ス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.4 [Partition Configuration] 画面」の「[Add SB/IOU to Partition] または [Add SB/IOU/Extended Partitioning to Partition]画面」を参照してください。

Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Partition#1 Extended Partition Co	Add SB/IOU/Extended Select an SB or IOU or Extended Parti	Partition tioning to add to	ing to Partition the partition #3, then click the Apply Button.	Hel
Partition#2 Extended Partition Co	Free SB/IOU/Extended Partitionin	g Status	Note	
Partition#3 Extended Partition Co	○\$B#0	OK	Number of CPUs = 2, Memory = 64 GB	
Reserved SB Configuration	O10U#0	OK	Number of PCI-Express Slots = 4	
Power Management Setup	○Extended Partitioning#5	OK		
Partitions 2	○ Extended Partitioning#6	OK		
Partition#3	○Extended Partitioning#7	OK		
Information	○Extended Partitioning#8	OK		
ASR Control	CExtended Partitioning#9	OK		
Partition#4 Partition#10 Partition#11				

図 3.33 [Add Unit to Partition] 画面例

- 物理パーティション上に作成する拡張パーティションをクリックします。
 1回の操作で選択できる拡張パーティションは1つだけです。
- [Apply] ボタンをクリックします。
 →確認のダイアログボックスが表示されます。
- 6. [OK] ボタンをクリックします。

→選択した拡張パーティションが物理パーティション上に作成されます。 必要な拡張パーティションを作成するま で、手順 2~手順 6 を繰り返します。

3.5.3 拡張パーティションへの SB 資源の割り当て

拡張パーティションに SB 上の資源を割り当てます。

1. [Partition] - [Partition#x Extended Partition Configuration] - [SB]をクリックします。

→ [Extended Partition Configuration of SB Resources] 画面が表示されます。[Extended Partition Configuration of SB Resources] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』 (CA92344-1657)の「2.4.5 [Partition #x Extended Partitioning Configuration]メニュー」を参照してくださ

い。

図 3.34 [Extended Partition Configuration of SB Resources] 画面 (PRIMEQUEST 3400E2の例)

Syst	/stem Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout												
>Pa	rtition >Partition#2 Extended	Partition Co	onfiguration >SB										
⊡ Po ⊕ So ⊕ C	ower Control chedule onsole Redirection Setup	Exten	ded Partition	Config	gura	ation o	f SH	B Resou	rce	es			Help
Pa Pa Pa	artition Configuration artition#2 Extended Partition SB IOU#1	Specify Par clicking DI "Memory H After chang	cify Partition Name, Number of CPU CORE (directly or by clicking SKT +/- buttons), Memory GB (directly or by ing DIMM +/- buttons), or select radio buttons of other SB resources. To select DIMM EXCL option, check the mory EXCL" check box. To select SKT Binding option, check "SKT Binding" check box. r changing configurations, click "Apply" button.										
⊡ E: ⊡ R: ⊡ P:	xtended Socket Configuratic eserved SB Configuration ower Management Setup	Note: Only	c Only home SB has the following hardware resources to be configured to Extended Partitioning.										
± Pa ± Pa	artition#2 artition#3	1. VGA/ Onboa	/GA/USB/rKVMS (inseparable) Onboard VGA port, Onboard USB ports, Remote KVM and Storage.										
		2. M.2 Onboa	rd M.2.										
						CPU		Memory			Home SI	В	
		#	Partition Name	Power Status	S K T	CORE	D I M M	GB	E X C L	SKT Binding	VGA/ USB/ rKVMS	M.2	
		4	4 EP#4 Standby + 0 - 0 0										
		Free 47 62 • •											
						Apply	Car	ncel					

2. 拡張パーティション名の設定

[Partition Name]のセルにパーティション名を入力し、[Apply]ボタンをクリックします。 複数のパーティションに 対してパーティション名を入力した後[Apply]ボタンをクリックすれば、入力したパーティション全てに対してパー ティション名が設定されます。

備考

[Partition Name] は 16 文字まで入力できます。使用できる文字は以下のとおりです。 [0-9] 、[a-z] 、[A-Z] 、半角スペース、#(シャープ)、_(アンダーライン)、-(ハイフン)

CPU 資源の割り当て

CPU 資源を割り当てたい拡張パーティションに対して、[CPU]の[CORE]欄に割り当てたい CPU コア数を入力し [Apply]ボタンをクリックします。 複数のパーティションに対して CPU コア数を入力した後[Apply]ボタンをクリッ クすれば、入力したパーティション全てに対して CPU コア数が設定されます。

備考

- [CPU]の[SKT]欄の[+]あるいは[-]ボタンは、CPU コア数を CPU ソケット内の全コア数単位で増減できます。
- CPU の割り当てが拡張パーティション間で物理的に分離されていた場合でも、CPU でエラーが発生した場合に、 物理パーティション上の全ての拡張パーティションが影響を受ける場合があります。

4. DIMM 資源の割り当て

DIMM 資源を割り当てたい拡張パーティションに対して、[Memory]の[GB]欄に割り当てたい DIMM 容量を GB 単位 で入力し、[Apply]ボタンをクリックします。 複数の拡張パーティションに対して DIMM 容量を入力した後[Apply] ボタンをクリックすれば、入力したパーティション全てに対して DIMM 容量が設定されます。

注意

1つの拡張パーティションに対して、最低 1GB 以上のメモリを割り当ててください

備考

- [Memory]の[DIMM]欄の[+]あるいは[-]ボタンは、DIMM 容量の入力値を物理 DIMM 単位の容量で増減できます。増減単位は物理パーティション内で最大容量の DIMM2 枚分の容量になります。例えば、 物理パーティション内に 8GB の DIMM と 16GB の DIMM を混載させている場合は、16GB DIMM の 2 枚分の容量である 32GB 単位で増減が可能です。
- [Memory]の[EXCL]欄のチェックボックスにチェックを入れると、他の拡張パーティションが使用している物理 DIMM のメモリ資源をその拡張パーティションに割り当てません。任意の拡張パーティションの DIMM 資源を他 の拡張パーティションとは物理的に分離して使用したい場合にチェックします。
- DIMM の割り当てが拡張パーティション間で物理的に分離されていた場合でも、CPU でエラーが発生した場合 に、物理パーティション上の全ての拡張パーティションが影響を受ける場合があります。
- 5. CPU 固定割り当てモード(ソケットバインディング)の有効化

ソケットバインディングは、物理パーティション内の任意の 2CPU とその配下の DIMM だけを拡張パーティションの CPU/DIMM 資源として割り当てる機能です。例えば、ソフトウェアライセンスが CPU ソケット数に比例して課金 されるような場合に、拡張パーティションに割り当てられる CPU ソケット数を 2 以下に固定するといった目的で使用できます。

ソケットバインディングを有効にしたい場合は、ソケットバインディングを有効にしたい拡張パーティションの[SKT Binding]欄のチェックボックスをチェックし[Apply]をクリックします。

Extended Partitioning 機能で分割する物理パーティションが 2CPU 以下の構成の場合、ソケットバインディングの 有効化は必要ありません。

備考

ソケットバインディングを有効にした場合、その拡張パーティションに割り当てられる CPU/DIMM 資源は、2CPU の全コアとその 2CPU 配下の DIMM 容量以下になります。

- 2CPU のコアの総数が[CPU]の[CORE]で指定された数より大きい場合は、[CPU]の[CORE]で指定された数のコア が割り当てられます。
- 2CPU のコアの総数が[CPU]の[CORE]で指定された数以下の場合は、2CPU の全コアが割り当てられます。
- 2CPU 配下の全 DIMM 容量が[Memory]の[GB]で指定された容量より大きい場合は、[Memory]の[GB]で指定 された DIMM 容量が割り当てられます。
- 2CPU 配下の全 DIMM 容量が[Memory]の[GB]で指定された容量以下の場合は、2CPU 配下の全 DIMM 容量が 割り当てられます。 ソケットバインディングを有効にしている場合、拡張パーティションの起動時に割り当て られる。
- 割り当てられる 2CPU は毎回固定ではありません。CPU 毎に総 DIMM 容量が異なる場合、拡張パーティションの起動ごとに割り当てられる DIMM 容量が変化する可能性が有ります。ソケットバインディングを有効にし、割り当てられる DIMM 容量を常に一定にしたい場合は、物理パーティション内の各 CPU 配下の総 DIMM 容量を同じにしておく必要があります。

 VGA/USB/M.2/UFD 資源の割り当て [VGA/USB/rKVMS]、[M.2]を選択し、[Apply]をクリックします。

備考

- ビデオリダイレクション、バーチャルメディアは[VGA/USB/rKVMs]を選択した拡張パーティションだけで 使用できます。
- 既に VGA/USB/rKVMS が別の拡張パーティションに割り当てられている場合、以下の手順が必要です。
- a. 現在 VGA/USB/rKVMS が割り当てられている拡張パーティションを一旦 Power Off します。
- b. Power Off した拡張パーティションから VGA/USB/rKVMS の割り当てを外し、OS をインストールする拡張パー ティションに VGA/USB/rKVMS を割り当てます。

3.5.4 拡張パーティションへの IOU 資源の割り当て

拡張パーティションに IOU 上の資源を割り当てます。

1. [Partition] - [Partition#x Extended Partition Configuration] - [IOU#x]をクリックします。

→ [Extended Partition Configuration of IOU Resources] 画面が表示されます。[Extended Partition Configuration of IOU Resources] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレン ス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.5 [Partition #x Extended Partitioning Configuration]メニュー」を参照 してください。

☑ 3.35 Extended Partition Configuration of IOU Resources

System Partition User Administ >Partition >Partition#2 Extended	System Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout Partition >Partition#2 Extended Partition Configuration >IOU#1 Image: Configuration >IOU#1														
 Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Partition#2 Extended Partitior 	E Sele	xten	ded Partit	t ion C partition, t	onfi hen clic	gurati k "Apply"	on of]	ιοι	J R	eso	urc	es			Help
 SB IOU#1 Extended Socket Configuratic Reserved SB Configuration 		#	Partition Name	Power Status	CPU Cores	Memory GB	IOU#1 Onboard LAN	PCI Slot #0	PCI Slot #1	PCI Slot #2	PCI Slot #3	Disk Unit	Disk Unit M		
Power Management Setup		4	EP#4	Standby	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
Partition#2 Partition#3		Free			47	62	•	•	٠	٠	٠	٠	٠		
						l	Apply	Cance							

2. Onboard LAN/PCI Slot/DU 資源の割り当て

拡張パーティションに割り当てたい[Onboard LAN]、[PCI Slot]、[Disk Unit]、[Disk Unit M]を選択し、[Apply]を クリックします。

3.5.5 拡張パーティションへの PCI ボックス資源の割り当て

拡張パーティションに PCI ボックス上の資源を割り当てます。

 [Partition] - [Partition#x Extended Partition Configuration] - [PCI_Box#x]をクリックします。
 → [Extended Partition Configuration of PCI_Box Resources] 画面が表示されます。[Extended Partition Configuration of PCI_Box Resources] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファ レンス(MMB)」 (CA92344-1657) の「2.4.5 [Partition #x Extended Partitioning Configuration]メニュー」を 参照してください。

lended	Partitio	on Configuration	>PCI Bo	x#3												-	
• E	xten (led Partitio	n Coni	figur:	ation o	f PC	CI B	lox]	Res	our	ces					1	Help
	#	Partition Name	Power Status	CPU Cores	Memory GB	PCI PCI Slot #0	PCI Slot #1	F3 PCI Slot #2	PCI Slot #3	PCI Slot #4	PCI Slot #5	PCI Slot #6	PCI Slot #7	PCI Slot #8	PCI Slot #9	PCI Slot #10	PCI Slot #11
	4		Standby	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5		Standby	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Free			24	62	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
5 Standby 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 </th																	
	Sel	Select radi	Extended Partitio	Extended Partition Cont Select radio button for the partition, # Partition Name 4 Standby 5 Standby Free Market Standby	Extended Partition Configuration Select radio button for the partition, then cl # Partition Name Power Status CPU Cores 4 Standby 0 0 5 Standby 0 0 Free 24	Extended Partition Configuration of Select radio button for the partition, then click "Appl # Partition Name Power Status CPU Memory Cores Memory GB 4 Standby 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Extended Partition Configuration of PC Select radio button for the partition, then click "Apply" but # Partition Name Power CPU Memory PCI # Partition Name Status Cores GB \$lot 4 Standby 0 0 0 0 0 0 0 5 Standby 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 <td>Extended Partition Configuration of PCL Base Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI Boxe # Partition Name Status Cores GB Slot Slot 4 Standby 0 0 0 0 5 Standby 0 0 0 0 Free 24 62 • •</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot<td>Extended Partition Configuration of PCI Box Res Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resource Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWer CPU Memory PCI Box#3 # Partition Name Status Cores GB Stot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power Status COPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWEr CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWer CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td><td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name PCI Ores PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td></td>	Extended Partition Configuration of PCL Base Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI Boxe # Partition Name Status Cores GB Slot Slot 4 Standby 0 0 0 0 5 Standby 0 0 0 0 Free 24 62 • •	Extended Partition Configuration of PCI Box Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Res Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resource Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWer CPU Memory PCI Box#3 # Partition Name Status Cores GB Stot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power Status COPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWEr CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWer CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td> <td>Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name PCI Ores PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI</td>	Extended Partition Configuration of PCI Box Res Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot	Extended Partition Configuration of PCI Box Resource Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot	Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power CPU Memory PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI PCI # Partition Name Status Cores GB Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot	Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWer CPU Memory PCI Box#3 # Partition Name Status Cores GB Stot Slot Slot Slot Slot Slot Slot Slot	Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name Power Status COPU Memory PCI	Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWEr CPU Memory PCI	Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name POWer CPU Memory PCI	Extended Partition Configuration of PCI Box Resources Select radio button for the partition, then click "Apply" button. # Partition Name PCI Ores PCI

図 3.36 Extended Partition Configuration of PCI Box Resources

2. PCI Slot 資源の割り当て

拡張パーティションに割り当てたい[PCI Slot]を選択し、[Apply]をクリックします。

3.5.6 各種モードの設定

拡張パーティションの各種モードを設定します。設定項目は MMB Web-UI と UEFI で設定します。拡張パーティションのモードの中には、分割している物理パーティションの設定を引き継ぐものがあります。

- MMB Web-UI でのモード設定について詳しくは、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.9 [Partition#x]メニュー」の「[Mode] 画面」を参照してください。
- UEFI でのモード設定について詳しくは、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』 (CA92344-1658)の「2.2 [Configuration] メニュー」を参照してください。

3.5.7 Console Redirection の設定

拡張パーティションに OS をインストールする際には、OS インストールする拡張パーティションに SB 上の資源 [VGA/USB/rKVMS]を割り当て、Console Redirection の設定をします。Console Redirection は、管理 LAN と同じサブ ネットに設定してください。

備考

SB 上の資源[VGA/USB/rKVMS]を割り当てていない拡張パーティションは Console Redirection の設定ができません。

■ [IPv4 Console Redirection Setup] 画面

[Partition] - [Console Redirection Setup] - [IPv4 Console Redirection Setup] 画面をクリックします。
 → [IPv4 Console Redirection Setup] 画面が表示されます。画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ 運
 用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.3 [Console Redirection Setup] 画面」の「[IPv4
 Console Redirection Setup] 画面」を参照してください。

図 3.37 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面例

System Partition User Admini >Partition >Console Redirection	System Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout Partition >Console Redirection Setup Setup										
 Power Control Schedule Console Redirection Setup IPv4 Console Redirection IPv6 Console Redirection Partition Configuration Extended Socket Configuration 	IP Click Note partit	v4 Console the Apply Butto For using Video ion.	e Redirection Se n to apply all changes. Redirection and Virtual M	tup edia in Extended Partitionir	ng, VGA/USI	3/rKVMS n	He nust be connected to the	эlр			
 Reserved SB Configuration Power Management Setup 	ŧ	[#] Partition Name	IP Address	Subnet Mask	Video Redirection	Virtual Media					
Partition#0 Partition#1	(þ	10 . 24 . 76 . 110	255 . 255 . 255 . 0	● Enable○ Disable	● Enable ○ Disable					
 ➡ Partition#2 ➡ Partition#3 	:	I	10 . 24 . 76 . 111	255 . 255 . 255 . 0	● Enable○ Disable	● Enable ○ Disable					
	1	2	10 . 24 . 76 . 112	255 . 255 . 255 . 0	● Enable ○ Disable	● Enable ○ Disable					
	1	3	10 . 24 . 76 . 113	255 . 255 . 255 . 0	● Enable○ Disable	● Enable ○ Disable					
				Apply Cancel							

- 2. IPv4 用の Console Redirection LAN ヘアクセスするための IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。
- 3. ビデオリダイレクション、バーチャルメディアをそれぞれ Enable に設定します。
- 4. [Apply] ボタンをクリックします。

注意

インストール後、使用しない機能は Disable にしてください。

■ [IPv6 Console Redirection Setup] 画面

[Partition] - [Console Redirection Setup] - [IPv6 Console Redirection Setup] 画面をクリックします。
 → [IPv6 Console Redirection Setup] 画面が表示されます。画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.3 [Console Redirection Setup] 画面」の「[IPv6 Console Redirection Setup] 画面」を参照してください。

図 3.38 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面例

Schedule Console Redirection Setup IPv4 Console Redirection Setup IPv6 Console Redirection Setup Partitive Console Redirection Setup	IP Click Note	v6 Console Re k the Apply Button to ap e: For using Video Redi	edirection Setup pply all changes. rection and Virtual Media in I	Extended Partitioning, VGA/U	SB2/rKVMS	must be connected to the partiti	Hel
Partition#1 Extended Partition Co Partition#2 Extended Partition Co	[# Partition Name	IP Address	Prefix Length	Video Redirection	Virtual Media	
Partition#3 Extended Partition Co Reserved SB Configuration		1 PPAR-RORST	1		 Enable Disable 	Enable Disable	
Power Management Setup Partition#1	Ī	2 PPAR-RHEL-RORS	st <u>;</u>	<u> </u>	Enable Disable	Enable Disable	
Partition#2 Partition#3	Ī	3 PPAR-KVM-RORS	r	•	• Enable • Disable	Enable Disable	
Partition#4 Partition#10	Γ	4 xPAR-RORST		0	⊖Enable ⊕Disable	⊙Enable ⊛Disable	
Partition#11	Ī	10		0	⊖Enable ● Disable	⊙Enable ⊛Disable	
		11 X11	1 1 1	0	⊖Enable ⊛Disable	⊖Enable ⊛Disable	
		Automatic Acquisition	Auto				

- 2. IPv6 用の Console Redirection LAN ヘアクセスするための IP アドレスおよびプレフィックス長を設定します。自動 設定する場合は[Auto] ボタンをクリックし、IP アドレス、プレフィックス長を自動取得します。
- 3. ビデオリダイレクション、バーチャルメディアをそれぞれ Enable に設定します。
- 4. [Apply] ボタンをクリックします。

3.5.8 Extended Socket 機能の設定

ここでは、Extended Socket 機能に関する設定について説明します。

Extended Socket 機能を使用するために、MMB Web-UI で Extended Socket 機能の有効化と Zoning の設定を行います。

注意

- Extended Socket 機能の設定変更を行う場合、複数の MMB Web-UI 画面を起動せず単一の MMB Web-UI 画面 で変更してください。
- すでに電源が投入されている拡張パーティションの Zoning 設定を変更する際は追加の手順が必要です。詳しくは、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「3.2.2 Extended Socket」を 参照してください。

■ Extended Socket 機能の有効化

1. [Partition] - [Partition#x] - [Mode] をクリックします。[Partition#x]は Extended Socket 機能を有効にしたい拡張 パーティションです。

→ [Mode] 画面が表示されます。[Mode] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリフ ァレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.9 [Partition#x] メニュー」の「[Mode] 画面」を参照してください。

System Partition User Admi	nistration <u>Network Configuration</u>	<u>Maintenance</u>		<u>Logout</u>
Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration	Mode Select mode for the partition, then	click the Appl	y Button.	Help
 Extended Socket Configura Reserved SB Configuration 	Note : A partition power off/on is	required for the	Normal Made	
 Power Management Setup Partition#1 Partition#4 	Memory Operation Mode	setting	Normal Mode Normal Mode Full Mirror Mode Spare Mode	
 Information ASR Control 	Ladatan Mada		Address Range Mirror Mode	
 Console Redirection Mode 	Lockstep Mode	setting	© Enable © Disable	
	Memory Mirror RAS Mode	current status setting	Mirror Keep Mode Mirror Keep Mode © Capacity Keep Mode	
	Memory Sparing Mode	current status	1Rank	
	Dynamic Reconfiguration	current status	Disabled	
	Extended Socket	setting setting	Enable Disable Enable Disable	
	Enclose socket	Journey	Apply Cancel	

図 3.39 [Mode] 画面例

- 2. [Extended Socket]の[Enable]をクリックします。
- 3. [Apply]ボタンをクリックします。

■ Zoning の設定

1. [Partition] - [Extended Socket Configuration] をクリックします。

→ [Extended Socket Configuration]画面が表示されます。[Extended Socket Configuration]画面について詳し くは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.6 [Extended Socket Configuration」を参照してください。

ystem Partition User Administration Partition >Extended Socket Configura	No tion	etwork	Con	figuration Mai	intenance										1	
Power Control Schedule Console Redirection Setup Partition Configuration Partition#1 Extended Partition Config	E Sel	xten ect Zon	ide œ# r	d Socket	Configurat	ion	he A	pply	But	08.						
Partition#2 Extended Partition Confi			- -	D	P	- 2	lone									
Partition#3 Extended Partition Confi			P"	Power Status	Extended Socket	non	0	1	2	3	4	-5	6	7		
Extended Socket Configuration		4	1	Standby	Enabled	0	0	۲	0	0	0	0	0	0		
Reserved SB Configuration Bouwer Management Setup		6	2	Standby	Enabled	0	0	0	0	0	0	0	0	۲		
Power Management Setup		7	3	Standby	Enabled	0	۲	0	0	0	0	0	0	0		
Partition#2		8	3	Standby	Enabled	0	۲	0	0	0	0	0	0	0		
Partition#3		9	1	Standby	Enabled	0	0	۲	0	0	0	0	0	0		
Partition#4		10	2	Standby	Enabled	0	0	0	0	0	0	0	0	۲		
Partition#6		11	1	Standby	Enabled	0	Ō	۲	0	0	0	0	0	0		
Partition#7			-			-	-	-	-	-	-		-	-		
Partition#8																
Partition#10																
Partition#11																
									1	App	by [Can	el			

図 3.40 [Extended Socket Configuration] 画面例

2. 各拡張パーティションに対して Zone 番号をラジオボタンで選択します。

「図 3.40 [Extended Socket Configuration] 画面例」に示す設定で構成される Zone を「表 3.8 Extended Socket(Zone)構成例」に示します。

表	3.8	Extended	Socket(Zone	構成例
---	-----	----------	---------	------	-----

Zone 番号	Zone に含まれる拡張パーティション
#0	パーティション#7
	パーティション#8
#1	パーティション#4
	パーティション#9
	パーティション#11
#7	パーティション#6
	パーティション#10

3. [Apply]ボタンをクリックします。

3.5.9 拡張パーティションの電源切断と投入

拡張パーティションの構成変更を反映させるためには、拡張パーティションごとに電源切断、電源投入が必要です。拡張パーティションの電源切断と投入について詳しくは「第7章パーティションの電源投入と切断」を参照してください。

3.5.10 拡張パーティション情報の確認

1. [Partition] - [Partition#x] - [Information] をクリックします。

→ [Information] 画面が表示されます。 [Information] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用 管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.9 [Partition#x] メニュー」の「[Information] 画面」 を参照してください。

Console Redirection Setup	Information		Refresh Help
Partition Configuration	Partition Name	X11	
Partition#1 Extended Partition Co	Power Status	On	
Partition#2 Extended Partition Co	System Progress	Boot	
Partition#3 Extended Partition Co	Assigned Core / Requested Core	15/15	
Reserved SB Configuration	Assigned Memory Size / Requested Memory Size	32GB / 32GB	
Partition#4 Partition#10 Partition#11 Information ASR Control Console Redirection Mode			

図 3.41 [Information] 画面例

3.6 LDAP の設定

ここでは、LDAP の設定方法について説明します。

3.6.1 LDAP 使用時のユーザー管理

LDAP 無効化時/有効化時のユーザー管理のイメージ図を示します。

図 3.42 LDAP 使用時のユーザー管理



(A) LDAP無効化時のユーザー管理

(B) LDAP有効化時のユーザー管理

- 「図 3.42 LDAP 使用時のユーザー管理」の(A)は LDAP 無効化時のユーザー管理のイメージです。
 - ローカルユーザーID は、「3.3.11 ユーザーアカウントの登録」で示した手順で登録したユーザーID です。
 LDAP 無効化時にはローカルユーザーID 毎に権限を設定して、権限の範囲内で MMB にアクセスできます。

「図 3.42 LDAP 使用時のユーザー管理」の(B)は LDAP 有効化時のユーザー管理のイメージです。

- LDAP 有効化時には、ディレクトリサービスに保管されているグローバルユーザーID で MMB にアクセスできます。グローバルユーザーID をグループ化し、グループごとに MMB へのアクセス権限を設定します。例えば、 図中のグループ A には Admin(Administrator)権限が与えられており、そのグループに属すグローバルユーザ ーID 1 とグローバルユーザーID 2 は Administrator 権限で MMB にアクセスすることができます。
- また、LDAP 有効化時には、スペシャルアカウントを用意します。スペシャルアカウントには Admin(Administrator)権限用と CE 権限用の 2 つがあります。
 - スペシャルアカウント Admin 権限用
 LDAP 故障時に管理者が MMB にログインするためのアカウントです。
 - スペシャルアカウント CE 権限用
 保守作業時に、保守作業員が MMB にログインするためのアカウントです。保守作業者は、グローバルユ
 ーザー ID またはスペシャルアカウントで MMB にアクセスします。

3.6.2 LDAP 設定手順の概要

LDAP 設定手順の概要を示します。

注意

LDAP の設定を行うには、ディレクトリサービスに関して精通している必要があります。ディレクトリサービスに精通 した管理者以外は LDAP の設定を行わないでください



図 3.43 LDAP 設定手順の概要

- 1. MMBのCLIで、スペシャルアカウントを作成します。
- 2. MMBのWeb-UIで、LDAPサーバ上で作成したグループのアクセス権限を設定します。
- 3. MMBの Web-UI で、LDAP 構成の設定および LDAP の有効化を行います。
- 4. MMB の Web-UI で、LDAP 接続テストをします。

3.6.3 LDAP の設定手順

LDAP の設定手順を示します。ここで示す手順は、ディレクトリサービス上で、MMB にアクセスするグローバルユーザ ーとして"mmbadmin"を、グローバルユーザー"mmbadmin"が所属するグループとして"MMB_Admin"を作成 している場合の例です。グループ "MMB Admin"には MMB へのアクセス権として Administrator 権限を与えます。

備考

ディレクトリサービスの設定手順は、本マニュアルでは説明していません。ディレクトリサービスの設定については、各ディレクトリサービスのドキュメントを参照してください。

注意

- ディレクトリサービス上で設定するグローバルユーザーID およびパスワードは MMB のパスワード設定ルール に準拠している必要があります。パスワード設定ルールの詳細は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツー ルリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.5. [User Administration]メニュー」を参照してください。
- ディレクトリサービス上で設定するグループのグループ名は MMB のユーザーグループ名設定ルールに準拠している必要があります。ユーザーグループ名設定ルールの詳細は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.5.3 [Add LDAP User Group]メニュー」を参照してください。
- 1. MMB の CLI で、スペシャルアカウントを作成します。
 - a. ターミナルソフトを使用して、Administrator 権限をもつユーザーで MMB の CLI にログインします。
 - b. 以下のコマンドを使って Administrator 権限用と CE 権限用のスペシャルアカウントを作成します。 # set special_account <user name> <privilege: [admin | ce] {quiet} <password><confirum password>

注意

ここで設定するスペシャルアカントのユーザー名およびパスワードは MMB のパスワード設定ルールに準拠 している必要があります。パスワード設定ルールの詳細は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリ ファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.5. [User Administration]メニュー」を参照してください。

例1: Administrator 権限用のスペシャルアカウント スペシャルアカウントのユーザー名: spadmin スペシャルアカウントの権限: Administrator スペシャルアカウントのパスワード: xxxxxxxxxx

Administrator> set special_account spadmin admin Are you sure you want to add spadmin? [Y/N]: y Password:xxxxxxxx Confirm Password:xxxxxxxx Administrator>

Administrator> set special_account spce ce Are you sure you want to add spce? [Y/N]: y Password:zzzzzzzz Confirm Password:zzzzzzzz Administrator>

c. 作成したスペシャルアカウントで MMB にログインできることを確認してください。

- MMB の Web-UI で、ディレクトリサーバ上で作成したグループのアクセス権限を設定します。
 MMB Web-UI の LDAP User Group List 画面で、ディレクトリサーバに構成されているグループ名と同じユーザー グループを作成し、MMB へのアクセス権限を与えます。
 - a. [User Administration] [LDAP Configuration] [LDAP User Group List] をクリックします。
 → [LDAP User Group List] 画面が表示されます。[LDAP User Group List] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.5.4.3 [LDAP User Group List] 画面」を参照してください。

図 3.44 [LDAP User Group List] 画面

System Partition User Admini >User Administration >LDAP C	stration <u>Network Configuration</u> <u>Maintena</u> onfiguration >LDAP User Group List	ance			Logout 🗸
 User List Change Password Who LDAP Configuration Directory Service Configur. LDAP User Group List 	LDAP User Group List Click the Add Group button to add a Select a group, then click the Edit/Re	new group. emove Group buttor	n to edit or remo	ove the group.	Help
	LDAP User Group Name	Privilege	Status	Operable Partition (for Partition Operator)	
	Add Gro	Edit Group	Remove Group	Cancel	

b. [Add Group]ボタンをクリックします。

→ [Add LDAP User Group] 画面が表示されます。[Add LDAP User Group] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.5.4.3 [Add LDAP User Group] 画面」を参照してください。

図 3.45 [Add LDAP User Group] 画面

User List Change Password He Who LDAP Configuration Cick the Apply Button to apply all changes. Directory Service Configuration LDAP User Group List LDAP User Group Name MMB_Admin! x Privilege ● Admin Operator Ouser Oce Oral control of the partition Operator User Group Configuration x Operable Partition Operator 0 1 2 3 4 5 6 7 8 10 11 (for Partition Operator) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 10 11	System Partition User Admini >User Administration >LDAP C	stration <u>Network Configuration</u> onfiguration >Add LDAP User (Maintenance Group	Logout 🗸
LDAP User Group List LDAP User Group Name MMB_Admin x Privilege Admin Operator User CE Partition Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator Operator<	User List Change Password Who LDAP Configuration Directory Service Configure	Add LDAP User (Group oply all changes.	Help
Privilege Admin Operator User OCE Partition Operator Status Enabled Disabled Operable Partition 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 (for Partition Operator) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 (for Partition Operator) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 (for Partition Operator) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 (for Partition Operator) 0 1 0 1 0 1 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 11 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 11 10 10 10 10 1	LDAP User Group List	LDAP User Group Name	MMB_Admin X	
Status Enabled Disabled Operable Partition 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 (for Partition Operator) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 <th></th> <th>Privilege</th> <th>Admin Operator OUser OCE OPartition Operator</th> <th></th>		Privilege	Admin Operator OUser OCE OPartition Operator	
(for Partition Operator)		Status	Enabled Disabled O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O 1 O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O O	
		(for Partition Operator)		
Apply Cancel			Apply Cancel	^

- c. LDAP User Group Name を設定します。
 ここで設定するユーザーグループ名は手順2でディレクトリサービスに構築したグループ名です。例では、
 "MMB_Admin"になります。
- d. MMB へのアクセス権[Privilege]を選択します。
 例では Administrator 権限を与えるので"Admin"を選択しています。
- e. Status を Enabled にします。
- f. [Apply]ボタンをクリックします。
 →確認のダイアログボックスが表示されます。
- g. [OK]ボタンをクリックします。 →ユーザーグループが追加されます。追加したユーザーグループの情報は、[User Group List]画面で確認で きます。

System Partition User Adminis	stration Network Configuration	<u>Maintenance</u>					Logout
>User Administration >LDAP Co	onfiguration >LDAP User Group 1	List					~
 User List Change Password 	LDAP User Group	List					Help
□ Who							
LDAP Configuration Directory Service Configure	Click the Add Group button to Select a group then aligh the	oadd a new . Edit / Domovi	group. - Group buttor	to addt av vara	wa tha arawa		
□ LDAP User Group List	Select a group, then click the	Euit/ Nemov	e Group puttor	r to eart or remo	ove trie group		
	LDAP User Group Name		Privilege	Status	Operable Pa (for Partitior	rtition Operator)	
	OMMB_Admin		Admin	Enabled			
	Г	Add Group	Edit Group	Remove Group	Cancel		^
		, lau oroup	Luit Oroup		ouncer		

図 3.46 [LDAP User Group List] 画面(ユーザーグループ作成後)

MMB の Web-UI で、LDAP 構成の設定および LDAP の有効化を行います。
 LDAP 構成の設定は、[Directory Service Configuration]画面で行います。
 使用するディレクトリサービスによって設定項目が異なります。

注意

MMB で LDAP を有効化するためには、以下の全てが必要です。

- スペシャルアカウント(Administrator 権限用)
- スペシャルアカウント(CE 権限用)
- Administrator 権限を持ち有効化されているユーザーグループ (1 個以上)

これらが作成されていない状態で LDAP を有効化しようとすると、ダイアログが表示され LDAP の有効化は抑止されます。

a. [User Administration] - [LDAP Configuration] - [Directory Service Configuration] をクリックします。
 → [Directory Service Configuration] 画面が表示されます。[Directory Service Configuration] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.5.4.1 [Directory Service Configuration] 画面」を参照してください。

System Partition User Administration	Network Configuration Mainten	ance			Logout	
>User Administration >LDAP Configur	ration >Directory Service Configurat	ion				
 User List Change Password 	Directory Service Co	Directory Service Configuration				
• Who	•	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
LDAP Configuration Directory Service Configuration LDAP User Group List	Click the Apply Button to apply all changes.					
	Global Directory Service Config	uration				
	LDAP		OEnable	Disable		
	LDAP SSL		○ Enable	Oisable		
	Directory Server Type		Active Dire	ectory 🗸		
		LDAP Server				
	Primary LDAP Server	LDAP Port	389			
		LDAP SSL Port	636			
		LDAP Server				
	Backup LDAP Server	LDAP Port	389			
		LDAP SSL Port	636			
	Domain Name					
	Base DN DC=adfujitsu,DC=co,DC=jp					
	Groups directory as sub-tree fr	om base DN				
	User Search Context					
	LDAP Group Scheme		group			
	LDAP Member Scheme		member			
	6					
Apply Cancel Test LDAP						
					×	

図 3.47 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory)(1/2)

図 3.48 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory)(2/2)

System Partition User Administration	N	letwork Configuration Maintenance						Logou	<u>.</u>
>User Administration >LDAP Configur	ratio	n >Directory Service Conliguration							
Change Password	D	irectory Service Confi	guration					He	lp
• Who		Backup LDAP Server	LDAP Port		389				
Directory Service Configuration			LDAP SSL Port		636				
□ LDAP User Group List		Domain Name							
		Base DN			DC=adfuji	itsu,DC=co,DC=jp			
		Groups directory as sub-tree from ba	ase DN						
		User Search Context							
	LDAP Group Scheme group LDAP Member Scheme member								
	D:								
	וע	LDAP Auth UserName	on						
		LDAP Auth Password							
		Confirm Password							
		Principal User DN							
		Append Base DN to Principal User I	DN		Enable	e 💿 Disable			
		Bind DN			cn=admin	nadmin,ou=1-1,ou=fct,DC=a	adfujitsu,DC=co,DC=jp		
		Enhanced User Login			• Enable	e ODisable			
		User Login Search Filter			(&(objecto	class=person)(cn=%s))			
									~
			Apply	Cancel	Test LI	DAP			^

b. [Directory Service Configuration] 画面の各項目を入力します。

■ Active Directory 用の設定

最初に Directory Server Type から Active Directory を選択して、それからその他の項目を設定します。

注意

設定値を入力した後で Active Directory 以外の Directory Server Type を選択すると、各設定値が初期値に戻ります。

2 5 Directory Service coninguidation and specific and the Directory

項目		設定値および説明			
Global Directory Service (Configuration				
LDAP		LDAP 有効/無効を設定します。Enabled または Disabled を選択します。			
LDAP SSL		MMB とディレクトリサーバ間のデータ送信を SSL で暗号化する場合は			
		Enabled を選択します。			
Directory Server Type		使用する ディレクトリサービスを選択します。Active Directory を選択しま			
		す。選択している Directory Server Type とは別の Directory Server Type を			
		選択すると、各設定値が初期値になります。			
Primary LDAP Server	LDAP Server	使用する ディレクトリサーバを設定します。			
	LDAP Port	· LDAP Server :			
	LDAP SSL Port	ディレクトリ サーバの IP アドレスまたは DNS 名			
		· LDAP Port :			
		ディレクトリサーバの LDAP ポート(SSL 無効時に使用)			
		LDAP SSL Port :			
		ディレクトリサーバのセキュアな LDAP ポート(SSL 有効時に使用)			
Backup LDAP Server	LDAP Server	バックアップディレクトリサーバを設定します。バックアップディレクトリ			
	LDAP Port	サーバを指定する場合は設定してください。バックアップディレクトリサー			
	LDAP SSL Port	バを指定しない場合は、LDAP Server の欄は省略します。			
Domain Name		ディレクトリサーバの完全な DNS パス名を設定します。この値を元に自動			
		で BaseDN が設定されます。			
Base DN		設定不要です。DomainName を元に自動で設定されます。			
Groups directory as sub-t	ree from base DN	グループが格納されている組織単位(OU)のパス名を指定します。BaseDN			
		からのパスで指定します。			
		本項目を省略(未設定)した場合、Base DN の設定値が検索開始位置とな			
		ります。			
User Search Context		ユーザー検索の開始位置が指定できます。本項目を省略(未設定)した場			
		合、Apply 後に本項目には Base DN の設定値が設定されます。			
LDAP Group Scheme		LDAP グループのスキームが設定できます。 初期値は group です。ディレ			
		クトリサーバ上に構築したディレクトリ構成により設定値が変わります。			
LDAP Member Scheme		LDAP メンバのスキームが設定できます。初期値は member です。ディレ			
		クトリサーバ上に構築したディレクトリ構成により設定値が変わります。			
Directory Service Access Configuration					
LDAP Auth UserName		LDAP サーバにログオンするときの ユーザー名を設定します。			
LDAP Auth Password		LDAP サーバにログオンするときの ユーザーのパスワードを設定します。			
Confirm Password		LDAP Auth Password 欄に入力したパスワードを確認するため、LDAP Auth			
		Password 欄に入力したパスワードを再度入力します。			

項目	設定値および説明
Principal User DN	設定不要です。
Append Base DN to Principal User DN	設定不要です。
Bind DN	設定不要です。
Enhanced User Login	拡張ユーザーログインの有効/無効が設定できます。Enabled または
	Disabled を選択します。有効にすると、ユーザーがログインする際の柔軟
	性を拡張するため、ユーザーログイン検索フィルターの指定ができます。
User Login Search Filter	ユーザーログイン検索フィルターが設定できます。
	標準の検索フィルター"(&(objectclass=person)(cn=%s))"が表示されます。
	ログイン時に、プレースホルダ"%s"は対応するグローバルログインに置
	き換えられます。ディレクトリサーバ上に構築したディレクトリ構成により
	設定値が変わります。

以下に設定例を示します。

図 3.49 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory) (設定例 1)

<u>Partition</u> User Administration Administration >LDAP Configu	n <u>Network Configuration</u> Maintenat ration >Directory Service Configuration	nce on			Logout
List ige Password	Directory Service Co	onfiguration			Help
P Configuration rectory Service Configuration DAP User Group List	Click the Apply Button to apply all c	hanges.			^
	Global Directory Service Configu	iration	97		
	LDAP		• Enab	le 🔿 Disable	
	LDAP SSL		• Enab	le 🔿 Disable	
	Directory Server Type Active Directory 🗸			lirectory V	
	LDAP Server		10.24.17	.199	
	Primary LDAP Server	LDAP Port	389		
		LDAP SSL Port	636		
		LDAP Server	adfujitsu	.co.jp	
	Backup LDAP Server	LDAP Port	389		
		LDAP SSL Port	636		
	Domain Name		adfujitsu	.co.jp	
	Base DN DC=adfujitsu,DC=co,DC=jp				
	Groups directory as sub-tree fro	om base DN	OU=Gro	ups	
	User Search Context		CN=Use	rs,DC=adfujitsu,DC=co,DC=jp	
	LDAP Group Scheme		group		
	LDAP Member Scheme		member		
		Apply Cancel	Test	LDAP	^

図 3.50 [Directory Service Configuration] 画面 (Active Directory) (設定例 2)

Partition User Administration Administration >LDAP Configurat	Network Configuration Maintenance				Logout
List 1ge Password	Directory Service Config	guration			Help
DC C	Backup LDAP Server	LDAP Port	389		
P Configuration		LDAP SSL Port	636		^
DAP User Group List	Domain Name		adfujitsu	co.jp	
	Base DN		DC=adfu	ıjitsu,DC=co,DC=jp	
	Groups directory as sub-tree from bas	e DN	OU=Gro	ups	
	User Search Context		CN=Use	ers,DC=adfujitsu,DC=co,DC=jp	
LDAP Group Scheme group LDAP Member Scheme member					
				member	
L	I DAP Auth UserName	n	Adminis	trator	
	LDAP Auth Deserverd		Adminis		
	LDAP Auth Password				
	Confirm Password		•••••		
	Principal User DN		0.5.1		
	Append Base DN to Principal User DN			Enable Disable	
	Bind DN		Cn=Adm	cn=Administrator,CN=Users,DC=adfujitsu,DC=co,DC=jp	
	Enhanced User Login		• Enab		
	User Login Search Filter		(&(objec	cclass=person(cn=%s))	
					~
		Apply (Cancel Test I	LDAP	^

■ Novell eDirectory/OpenLDAP/OpenDS/Open DJ 用の設定

最初に Directory Server Type から使用する Directory Service(Novell eDirectory, OpenLDAP, OpenDS/Open DJ)を選択して、それからその他の項目を設定します。

注意

設定値を入力した後で現在選択しているものとは別の Directory Server Type を選択すると、各設定値が初期 値に戻ります。

表 3.10 [Directory Service Configuration]画面の設定項目(Novell eDirectory/OpenLDAP/OpenDS/OpenDJ)

項目		設定値および説明
Global Directory Service	Configuration	
LDAP		LDAP 有効/無効を設定します。Enabled または Disabled を選択します。
LDAP SSL		MMB とディレクトリサーバ間のデータ送信を SSL で暗号化する場合は
		Enabled を選択します。
Directory Server Type		使用する ディレクトリサーバを選択します。
		選択している Directory Server Type とは別の Directory Server Type を選択
		すると、各設定値がデフォルト値になります。
Primary LDAP Server	LDAP Server	使用する ディレクトリサーバを設定します。
	LDAP Port	· LDAP Server :
	LDAP SSL Port	ディレクトリ サーバの IP アドレスまたは DNS 名
		· LDAP Port :
		ディレクトリサーバの LDAP ポート(SSL 無効時に使用)
		· LDAP SSL Port :
		ディレクトリサーバのセキュアな LDAP ポート(SSL 有効時に使用)
Backup LDAP Server	LDAP Server	バックアップディレクトリサーバを設定します。バックアップディレクトリ
	LDAP Port	サーバを指定する場合は設定してください。バックアップディレクトリサー
	LDAP SSL Port	バを指定しない場合は、LDAP Server の欄は省略します。
Domaine Name		設定不要です。
Base DN		BaseDN を指定します。
Groups directory as sub-t	ree from base DN	グループが格納されている組織単位(0U)のパス名を指定します。
		BaseDN からのパスで指定します。 省略はできません。
User Search Context		ユーザー検索の開始位置を指定します。
LDAP Group Scheme		LDAP グループのスキームを設定します。
		初期値は groopOfNames です。
		※ディレクトリサーバ上に構築したディレクトリ構成により設定値が変わり
		ます。
LDAP Member Scheme		LDAP メンバのスキームを設定します。
		初期値は member です。
		※ディレクトリサーバ上に構築したディレクトリ構成により設定値が変わり
		ます。
Directory Service Access	Configuration	
LDAP Auth UserName		LDAP サーバにログオンするときの ユーザー名を設定します。
LDAP Auth Password		LDAP サーバにログオンするときの ユーザーのパスワードを設定します。
Confirm Password		LDAP Auth Password 欄に入力したパスワードを確認するため、LDAP Auth
		Password 欄に入力したパスワードを再度入力します。
Principal User DN		Principal User DN を設定します。

百日	設定値お上び説明
	設た他のより就明
Append Base DN to Principal User DN	Principal User DN に Base DN を追加するかしないかを指定します。
	追加する場合は Enable を選択します。
	追加しない場合は Disable を選択します。
Bind DN	設定不要です。
	設定を保存した後に、LDAP 認証で使用される Principal User DN が表示さ
	れます。
Enhanced User Login	拡張ユーザーログインの有効/無効を設定します。Enabled または Disabled
	を選択します。有効にすると、ユーザーがログインする際の柔軟性を拡張す
	るため、ユーザーログイン検索フィルターの指定ができます。
User Login Search Filter	ユーザーログイン検索フィルターを設定します。
	標準の検索フィルター"(&(objectclass=person)(cn=%s))"が表示されます。
	ログイン時に、プレースホルダ"%s"は対応するグローバルログインに置
	き換えられます。
	※ディレクトリサーバ上に構築したディレクトリ構成により設定値が変わり
	ます。

以下に設定例を示します。

四 J.JI [DIECTOR JEINCE CONTINUIDUOUDI] 回回 (OPENLDAI /(政在P) 1)

System Partition User Administrati	ion <u>Network Configuration</u> <u>Mai</u>	ntenance		Logout	
>User Administration >LDAP Configuration >Directory Service Configuration					
Change Password	Directory Service Configuration			Help	
Who	v	8			
LDAP Configuration	Click the Apply Button to apply a	ll changes.		^	
□ LDAP User Group List					
	Global Directory Service Conf	iguration			
	LDAP		● Enable ○ Disable		
	LDAP SSL		○ Enable		
	Directory Server Type		Open LDAP V		
	LDAP Server		10.26.102.197		
	Primary LDAP Server	LDAP Port	389		
		LDAP SSL Port	636		
		LDAP Server			
	Backup LDAP Server	LDAP Port	389		
		LDAP SSL Port	636		
	Domain Name	·			
	Base DN		dc=CASdomain,dc=local		
	Groups directory as sub-tree	from base DN	ou=mmbAuth		
	User Search Context		ou=mmbUser,dc=CASdomain,dc=local		
	LDAP Group Scheme		groupOfNames		
	LDAP Member Scheme		member		
	Apply Cancel Test LDAP				
< >>				~	

System Partition User Administra >User Administration >LDAP Confi	ition igura	Network Configuration Mainten tion >Directory Service Configura	nance tion		<u> </u>	.ogout
User List Change Password	D	Directory Service Configuration				Help
□ Who □ LDAP Configuration	Backup LDAP Server		LDAP Port	389		_
Directory Service Configuration			LDAP SSL Port	636		
LDAP User Group List		Domain Name				
		Base DN		dc=CASd	omain,dc=local	
		Groups directory as sub-tree from base DN		ou=mmbA	uth	
		User Search Context		ou=mmbUser,dc=CASdomain,dc=local		
		LDAP Group Scheme		groupOfNames		
		LDAP Member Scheme		member		
	Di	rectory Service Access Configu	ration			
		LDAP Auth UserName				
		LDAP Auth Password		•••••	••	
		Confirm Password		•••••	••	
		Principal User DN		cn=mmbadmin,ou=mmbUser,dc=CASdomain,dc=local		
		Append Base DN to Principal Us	ser DN	○Enable		
	Bind DN		cn=mmbadmin,ou=mmbUser,dc=CASdomain,dc=local			
Enhanced User Login User Login Search Filter			○ Enable			
		User Login Search Filter		(&(objecto	lass=person)(cn=%s))	
			Apply	Cancel Test	LDAP	~ ~ ~

図 3.52 [Directory Service Configuration] 画面 (OpenLDAP)(設定例 2)

- c. 設定項目入力後、[Apply]ボタンを押します。 →確認のダイアログボックスが表示されます。
- d. [OK]ボタンをクリックします。
 →設定が反映されます。
- 4. MMBの Web-UI で、LDAP 接続テストをします。

注意

- LDAP の設定を有効化した後は、現在の MMB Web-UI のセッションをクローズする前に必ず接続テストを実施 してください。
- [Directory Service Configuration]画面の設定値を変更した際は、必ず[Apply]ボタンを押し、設定を反映させ てから接続テストを実施してください。[Apply]ボタンを押さず、設定が反映されていない状態で接続テストを 行った場合は、以前に設定を反映させた設定値で接続テストが行われます。
- LDAP 有効化後、LDAP の設定値が誤ったまま、または接続テストに失敗したままの状態でセッションをクローズすると、その後 MMB にはローカルユーザーID でもグローバルユーザーID でもログインできなくなります。
 その場合は、スペシャルアカウントで MMB にログインし、LDAP を正しく設定してください。
 - a. [Directory Service Configuration]画面で[TestLDAP]ボタンを押します。接続テストが実施されます。

1 <mark>Partition</mark> User Administration Administration >LDAP Configure	Network Configuration Maintenau ration >Directory Service Configuration	ace on			
List 1ge Password	Directory Service Configuration			Help	
P Configuration rectory Service Configuration DAP User Group List	Click the Apply Button to apply all changes.				
	Global Directory Service Configu	ration			
	LDAP		● Enable ○ Disable		
	LDAP SSL		● Enable ○ Disable		
	Directory Server Type	Directory Server Type			
LDAP Server		LDAP Server	10.24.17.199		
	Primary LDAP Server	LDAP Port	389		
		LDAP SSL Port	636		
		LDAP Server	adfujitsu.co.jp		
	Backup LDAP Server	LDAP Port	389		
		LDAP SSL Port	636		
	Domain Name		adfujitsu.co.jp		
	Base DN		DC=adfujitsu,DC=co,DC=jp		
	Groups directory as sub-tree fro	m base DN	OU=Groups		
	User Search Context	User Search Context		o,DC=jp	
	LDAP Group Scheme	LDAP Group Scheme			
	LDAP Member Scheme member				
		Apply	ncel Test I DAP	~	

図 3.53 [Directory Service Configuration] 画面 (Test LDAP)

b. 接続テストの結果を確認します。

・接続テストに成功した場合は、以下のダイアログが表示されます。

図 3.54 LDAP 接続テスト成功時のダイアログ表示



- ・接続テストに失敗した場合は、以下のダイアログが表示されます。LDAPの設定値を確認してください。
 - 図 3.55 LDAP 接続テスト失敗時のダイアログ表示

Web ペーう	ジからのメッセージ 🗾	3
Â	W_00620 The Test LDAP failed.	
	ок	

3.7 構成情報の保存

ここでは、導入時に設定した情報の保存について説明します。MMBの構成情報は、必ずバックアップを取ってください。

備考

MMB 構成情報のバックアップは、運用開始後、定期的に実施してください。掲載している画面はすべて表示例であり、 システム構成などによって表示される内容は異なります。

3.7.1 MMB 構成情報のバックアップ

ここでは MMB 構成情報のバックアップについて説明します。

備考

バックアップした構成情報は、実行した PRIMEQUEST 筐体でだけリストアできます。MMB 構成情報のリストアについ て詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「8.1.2 MMB 構成情報のバック アップ・リストア」を参照してください。

■ 操作手順

 [Maintenance] - [Backup/Restore Configuration] - [Backup/Restore MMB Configuration] をクリックします。
 → [Backup/Restore MMB Configuration] 画面が表示されます。[Backup/Restore MMB Configuration]画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.7.2 [Backup/Restore Configuration] メニュー」の「[Backup/Restore MMB Configuration] 画面」を参照してください。

図 3.56 [Backup/Restore MMB Configuration] 画面例

System Partition User Administrati >Maintenance >Backup Restore Cor	ion Network Configuration Millionen accuration	Logout
Finnware Update Backup Restore Configuration Backup Restore MMB Configuration Backup BIOS Configuration Restore BIOS Configuration	Backup MMB Configuration To backup the MMB Configuration, click "Backup" button.	Help
Maintenance Wigard REMCS	Restore MMB Configuration	
	To restore the MMB Configuration, select a file and click "Restore" button.	
	Restore	

2. [Backup] ボタンをクリックします。

→ブラウザの格納先ダイアログボックスが表示されます。

3. 格納パスを選択して[OK] ボタンをクリックします。

→構成情報ファイルのダウンロードが開始されます。 バックアップする MMB 構成情報ファイルの初期値名は次の とおりです。

MMB_(バックアップした日付)_(MMB バージョン).dat

第4章 OS および添付ソフトウェアのインストール

ここでは、OS および添付ソフトのインストール方法について説明します。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

4.1 OS および添付ソフトウェアのインストール手順

OS をインストールする前に Boot Watchdog を解除します。解除の方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリー ズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件の設定」を参照してください。 PRIMEQUEST 3000 シリーズのパーティションに OS をインストールするには、SVIM を使用します。 SVIM は以下の操作を一括して行うセットアップ支援ツールです。

- OSのインストール
- OS が必要とするドライバのインストール
- 添付ソフトウェアのインストール

PRIMEQUEST 3000 シリーズに添付されるソフトウェアは、「付録 B 添付ソフトウェアについて」を参照してください。

ご使用の環境に合わせて、インストールするソフトウェアを SVIM 内で選択してください。SVIM の概要については、 『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。また、SVIM に対する留意事項がありま

す。『PRIMEQUEST 3000/2000/1000 シリーズ ServerView Suite 留意事項一覧』および「FUJITSU Server PRIMEQUEST 3000 Series 制限・留意事項一覧」(CA92344-1932)をあわせて参照してください。

注意

SAN ブート環境でのインストール、VMware のインストールは以下も確認してください。

- SAN ブート環境の構築
 SAN ブート環境を導入する場合は、OS のインストールを行う前に SAN ブート環境を構築します。SAN ブート
 環境の構築については、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。
- VMware をインストールする場合は手順が異なります。VMware インストール時の留意事項については 「付録 D VMware インストール時の留意事項」を参照してください。

注意

OS をインストールする際はセキュアブートを無効にしてください。 セキュアブートの設定は UEFI メニューで行います。 初期設定値は無効になっています。セキュアブート有効化・無効化設定の詳細については、『PRIMEQUEST 3000 シリー ズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.3.1 [Secure Boot Configuration]メニュー」を参照 してください。

注意

VMware で NVM/LRDIMM を使用する場合、必ず UEFI メニューの MWait for Memory Mode on 4/8 socket 設定を Enabled にしてください。MWait for Memory Mode on 4/8 socket 設定の詳細については、『PRIMEQUEST 3000 シリ ーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.2.3 [CPU Configuration] メニュー」を参照して ください。

なお、VMware 以外の OS を使用する場合、MWait for Memory Mode on 4/8 socket 設定は必ず Disabled (初期値) に してください。

4.2 拡張パーティションへの OS インストール

ここでは、拡張パーティションへ OS インストールする際の留意点について説明します。

- OS をインストールする際は、その拡張パーティションに一時的に VGA/USB/rKVMS を割り当てる必要があります。ある拡張パーティションで OS インストールした後、同じ物理パーティション上の別の拡張パーティション で OS をインストールする場合、一度拡張パーティションを電源切断した後で OS インストールする拡張パーティションに VGA/USB/rKVMS を割り当て直す必要があります。
 OS および必要なドライバやツールのインストールが完了したら VGA/USB/rKVMS の割り当てを解除し、どの拡張パーティションにも割り当てていない状態にしてください。
- VGA を割り当てていない拡張パーティションで OS を起動するには、シリアルインターフェースを使用するための設定が必要です。
 - 例)

RHEL の場合、以下を実施してください

(1) 設定ファイルの変更

/etc/default/grub を以下のように修正します

- GRUB_CMDLINE_LINUX の行に"console=ttyS0,115200"を追加
- (2) 変更の反映
 - 以下のコマンドを実行します
 - RHEL7, RHEL8 の場合
 - grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
 - RHEL9 の場合
 - grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
- OSのカーネルオプションで"notsc"や"clocksource=hpet"を追加しないでください。
- RHEL では OS 起動時に"Fast TSC calibration failed "のメッセージが出ることがあります。本メッセージは OS 起動時の TSC(Time Stamp Counter)調整処理において PIT(Programmable Interval Timer)へのアクセス性能が 期待値に満たない場合に出力されるものです。Extended Partitioning Firmware で行っている PIT の仮想化オ ーバヘッドが原因ですが、OS はこの場合 HPET(High Precision Event Timer)に自動的に切り替えるため、シ ステムへの影響はありません。
- FC カードを PCI ボックスで使用する場合は、「活性保守交換時にファームウェアの版数合わせを行うモジュール」をインストールする必要があります。以下の URL から使用する FC カードに合わせてどちらかを入手し、 OS インストールの後にインストールしてください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/3000-bios/peripheral.html

- QLogic ファイバチャネルカード活性保守交換後のファームウェア アップデート手順およびアップデ ートモジュール
- Emulex ファイバチャネルカード活性保守交換後の Firmware / Boot Code アップデート手順および アップデートモジュール
- kdump は、Extended Socket を経由して他のホストに出力することはできません。Extended Socket を経由しない出力先を設定してください。
- 拡張パーティションの UEFI メニューで LAN カードの Personality 設定を変更した場合、拡張パーティションの 再起動では設定が反映されません。設定を反映させるためには、物理パーティションのリセットを実施するか、 物理パーティションで Personality の設定変更を行ってください。

- Extended Socket 機能を有効にして kdump を使用する場合、kdump に必要なメモリ量が標準値のままでは不 足する場合があります。Linux のユーザーズマニュアルに従い、crashkernel パラメータをチューニングしてく ださい。
- ハードウェア RAID を使用すると、OS 起動時に「Adapter PRAID EP420x: Controller encountered a fatal error and was reset」とエラーが登録されることがありますが、動作上の問題はありません。
- RAID ソフトウェアライセンスのアクティベーション処理を ServerViewRAID Manager から行う場合は、アク ティベーションキーを入力後は拡張パーティションのリブートではなく、物理パーティションの電源を OFF/ON してください。

4.3 Windows を SAN ストレージ装置にインストールする手

順

ここでは、Windows を SAN ストレージ装置にインストールする手順を簡潔に説明します。MMB の接続と設定が完了 していることを確認してから、作業を開始してください。SAN ストレージ装置、FC カード、 コンバージドネットワー クアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定について詳しくは各ブート環境構築マニュアルを参照してくださ い。

4.3.1 事前設定

必要に応じて、以下の設定をします。

- 1. SAN ストレージ装置の LUN を設定します。
- 2. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration] - [CSM Configuration] - [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSを Legacy モードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration] [CSM Configuration] [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。
- 3. FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の LUN を認識させるため、BIOS を設定します。FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定については、 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。
- 4. PRIMEQUEST の内蔵 HDD/SSD を取り外した後、MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOUの構成を設定
 「3.4.1 パーティションの構成設定」参照
 - Console Redirection を設定
 「3.4.6 Console Redirection の設定」参照
 ビデオリダイレクション: Enable
 バーチャルメディア: Enable
 - 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 5. SAN ストレージ装置のインストール対象となる LUN だけ、PRIMEQUEST のパーティションへ接続します。 SAN ストレージ装置の設定については、SAN ストレージ装置に添付のマニュアルを参照してください。
- 6. Windows Server 2022 をインストールする場合は、UEFI メニューで PCR Bank:SHA1 を無効にします。 UEFI メニューの[Configuration]- [Security Configuration]- [PCR Bank: SHA1]の設定を「[]」にします。

4.3.2 インストールの準備

以下の準備を行います。

- 以下のディスクイメージを準備します。
 Windows OS のメディア
- 2. FC ケーブルをシングルパス(FC ケーブル1本だけの結線)にします。

4.3.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

表 4.1 SVIM による OS インストール

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード セットアップ情報をウィザードに従って設定し		RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。
 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

手順内で UEFI モードまたは Legacy モードでのインストールを選択することができます。

- a. MMB Web-UI の Power Control 画面内 Boot Selector で「Force boot into EFI Boot Manager」を選択してパ ーティションの電源を投入します。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。
 ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (UEFI)』 (CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してください。

Ι	nformation	Configuration	Security Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
	Change the d	order	<red hat<br=""><red hat<br=""><windows <uefi ha<br=""><uefi fu<br=""><uefi fu<="" th=""><th>: Enterprise Linux> : Enterprise Linux> : Boot Manager> urd Drive> ujitsu Virtual CDROM0 ujitsu Virtual CDROM1</th><th>1.00> 1.00></th></uefi></uefi></uefi></windows </red></red>	: Enterprise Linux> : Enterprise Linux> : Boot Manager> urd Drive> ujitsu Virtual CDROM0 ujitsu Virtual CDROM1	1.00> 1.00>
	Commit Chang Discard Chan	ges and Exit nges and Exit			
	以下にメニュー - UEFI: UEFI ⁻ - Fujits Legao	-の意味について説明し ドライブ名 モードで起動するとき! u Virtual CDROMx xxx y モードで起動するとう	、ます。 こ指定します。 く きに指定します。		
d.	[F10]キーを押	した後に[y]キーを押す 度押します	と変更が保存されます。		

図 4.1 [Change Boot Order] 画面例

- e. [ESC]キーを3度押します。
- f. [Exit] – [Boot Override]を選択します。
- UEFI 対応 OS (UEFI モードでのインストール)の場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。 q. Legacy OS(Legacy モードでのインストール)の場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。

注意

SAN ストレージ装置にインストールする場合、必ず[Boot Override]から CDROM を手動で選択し SVIM を起動して ください。Reset や PartitionOFF/ON で自動的に CDROM から SVIM を起動すると SAN ストレージが認識されませ h.

- 3. Windows Boot Manager が表示されます。先頭のメニューを選択して進めます。
- 4. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 5. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 6. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 7. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OS の設定では LAN の IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

8. [インストール開始]をクリックします。

インストールが開始されます。

9. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。

4.3.4 インストール完了後の添付ソフトウェア設定

OS インストール完了後、添付ソフトウェアを設定します。

- 1. 以下の場合に OneCommand Manager をインストールします。
 - Emulex 社製 FC カード/CNA カードを実装している場合

かつ

- OneCommand Manager がインストールされていない場合

OneCommand Manager のインストール状況は[すべてのアプリ] 配下に[Emulex]-[OneCommand Manager] が存在するかどうかで判断できます。

備考

[すべてのアプリ]は、スタート画面で背景を右クリックまたは画面下から上にスワイプして表示したメニュー内にあ ります。

a. 以下の URL から実装している FC カード/CNA カードのドライバ/ユーティリティをダウンロードします https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

注意

ダウンロードしたバイナリには PRIMERGY の記述がありますが、ドライバ/ユーティリティは PRIMEQUEST 3000 シリーズで利用できます。

- b. ダウンロードファイルをダブルクリックして実行します。
 cmd.exeのプロンプト画面(黒いウィンドウ)がしばらく表示され、ファイルが解凍されます。
- c. 解凍が終わると自動的にウィンドウが閉じます。 ダウンロードファイルが解凍され、フォルダまたはファイル が新規に作成されます。

備考

ウィンドウのタイトルバーに「完了」と表示されてもウィンドウが閉じない場合は、[閉じる] ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

d. 解凍で作成された「FC_vXXXXX」ディレクトリ内の「elxocm-windows-x64-XXXXX.exe」をダブルクリックし て実行します。

備考

「XXXXX」は版数を表します。適宜読み替えてください。

- 2. QLogic 社製 FC カードを実装している場合には、QLogic Converge Console を用いて FC カードのファームをアップ デートします。
 - a. 以下の URL から実装している FC カードのアップデートモジュール / アップデート手順書をダウンロードします。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

- b. アップデート手順書に従い、FC カードのファームをアップデートします。
- 3. インストールが完了したら、パーティションをリブートします。
- 4. 管理 LAN の設定を確認します。

STP 機能をサポートするスイッチに MMB との通信に使用する管理 LAN を接続する場合は、接続するポートの STP 機能を OFF にします。

- 5. MMB 経由のトラップ送信先とメール送信先を設定します。 運用管理ソフトウェアとの連携など、必要な場合にだけ 実施してください。
 - a. MMB 画面で[SNMP 設定] を表示し、[SNMP]を有効にします。
 - b. MMB 経由での、SNMP のトラップ送信先を設定します。
 「6.5.2 SNMP の設定」
- 6. ダンプ領域を設定します。

メモリダンプを取得する前に、ハードディスクの空き容量が十分あるかを確認してください。 詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「11.4.3 ダンプ環境の設定(Windows)」 を参照してください。

NTP クライアントを設定します。
 OS 側の NTP サーバを設定します。詳しくは「6.2 NTP の設定」を参照してください。

- 管理情報・構成情報を保存します。
 詳しくは「5.7 管理情報・構成情報の保存」を参照してください。
- UPSのバッテリーの寿命を監視する場合、 公開ドキュメント「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」の「6 ゲスト OS が"Windows Server 2008/2012 (R2 含む)"の場合の設定例」の手順に従って設定してください。 「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」は以下よりダウンロードできます。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/quide/vmware/
- Software Watchdog を設定します。
 何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となった場合を回避するために、Watchdog Timer による監視 を設定することができます。設定時間を経過すると、MMB により Hard Reset が実行され、OS のリブートが実行さ れます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656) の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してください。

4.3.5 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続

インストール完了後の、SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 接続については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構 築マニュアル』を参照してください。

1. FC カードの詳細情報の設定変更および確認をします。

詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。

- 2. OneCommand Manager を起動します。以下のドライバパラメーターを設定します。 設定値の詳細については SAN ストレージ装置のマニュアルを参照してください。
 - Topology
 - Queue Depth
 - Queue Target
 - Link Speed
- 3. レジストリ情報を確認します。

確認の方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。 設定値の詳細については SAN ストレージ装置のマニュアルを参照してください。

- TimeOutValue
4.4 Windows を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順

ここでは、Windows を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順を簡潔に説明します。 MMB の接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。

4.4.1 事前設定

必要に応じて、以下の設定をします。

- 1. インストール先でない、内蔵 HDD/SSD を取り外します。
- 2. MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定
 「3.4.1 パーティションの構成設定」参照
 - Console Redirection を設定
 「3.4.6 Console Redirection の設定」参照
 - ビデオリダイレクション:Enable
 - バーチャルメディア: Enable
 - 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 3. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSをLegacyモードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。

注意

Legacy モードでは M.2 への OS インストールはサポートしていません。

4. Windows Server 2022 をインストールする場合は、UEFI メニューで PCR Bank:SHA1 を無効にします。 UEFI メニューの[Configuration]- [Cecurity Configuration]- [PCR Bank: SHA1]の設定を「[]」にします。

4.4.2 インストールの準備

以下の準備を行います。

- 以下のディスクイメージを準備します。
 Windows OS のメディア
- 2. FC ケーブルをすべて外します。
- 3. ビデオリダイレクション接続でディスクイメージをマウントします。

4. ブートオーダーを変更し、DVD Boot を起動順の最優先に設定します。

詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.1 [Power Control] 画面」を参照してください。

4.4.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

表 4.2 SVIM による OS インストール

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

MMB Web-UI Power Control 画面内の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択し起動するか、または UEFI でブートオーダーを DVD に変更することでバーチャルメディアから起動することができます。なお、MMB Web-UI の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動した場合は、Legacy モードでの起動となり ます。

- a. パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に[F2]キーを押し、UEFI メニューを表示させます。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。

ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』 (CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(ChangeBoot Order)」を参照し てください。

Information	Configuration	Security	Boot	Exit		<f1:help></f1:help>
Change the o	order	ני קי ע ע	Red Hat Red Hat Jindows JEFI Har JEFI Fuj JEFI Fuj	Enterprise Enterprise Boot Manage d Drive> itsu Virtua itsu Virtua	Linux> Linux> r> 1 CDROM0 1 CDROM1	1.00>
Commit Chang Discard Chan	ges and Exit nges and Exit					
以下にメニュー - UEFI:	-の意味について説明し ドライブ名	ます。				
UEFI =	モードで起動するときに	こ指定します。				
- Fujits	u Virtual CDROMx xxx					
Legac	y モードで起動するとる	きに指定します。	0			

図 4.2 [Change Boot Order] 画面例

- d. [ESC]キーを3度押します。
- e. [Exit]-[Commit settings and Exit]を指定し、パーティションをリブートします。
- 3. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 4. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 6. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- [インストール開始] をクリックします。
 インストールが開始されます。
- 8. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。

4.4.4 インストール完了後の添付ソフトウェア設定

OS インストール完了後、添付ソフトウェアを設定します。

- 1. 以下の場合に OneCommand Manager をインストールします。
 - Emulex 社製 FC カード/CNA カードを実装している場合

かつ

OneCommand Manager がインストールされていない場合
 OneCommand Manager のインストール状況は[すべてのアプリ] 配下に[Emulex]-[OneCommand Manager]
 が存在するかどうかで判断できます。

備考

[すべてのアプリ]は、スタート画面で背景を右クリックまたは画面下から上にスワイプして表示したメニュー内にあ

ります。

以下の URL から搭載している FC カード/CNA カードのドライバ/ユーティリティをダウンロードします。 а. https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primeguest/download/

注意

ダウンロードしたバイナリには PRIMERGY の記述がありますが、ドライバ/ユーティリティは PRIMEQUEST 3000 シリーズで利用できます。

- ダウンロードファイルをダブルクリックして実行します。 b. cmd.exe のプロンプト画面(黒いウィンドウ)がしばらく表示され、ファイルが解凍されます。
- 解凍が終わると自動的にウィンドウが閉じます。 ダウンロードファイルが解凍され、フォルダまたはファイル C. が新規に作成されます。

備考

ウィンドウのタイトルバーに「完了」と表示されてもウィンドウが閉じない場合は、[閉じる] ボタンをクリッ クしてウィンドウを閉じてください。

d. 解凍で作成された「FC vXXXXX」ディレクトリ内の「elxocm-windows-x64-XXXXX.exe」をダブルクリックし て実行します。

備考

「XXXXX」は版数を表します。適宜読み替えてください。

- 2. QLogic 社製 FC カードを実装している場合には、QLogic Converge Console を用いて FC カードのファームをアップ デートします。
 - 以下の URL から実装している FC カードのアップデートモジュール/アップデート手順書をダウンロードしま a. す。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

- アップデート手順書に従い、FC カードのファームをアップデートします。 b.
- 3. インストールが完了したら、パーティションをリブートします。
- 4. 管理 LAN の設定を確認します。 STP 機能をサポートするスイッチに MMB との通信に使用する管理 LAN を接続する場合は、接続するポートの STP 機能を OFF にします。
- 5. MMB 経由のトラップ送信先とメール送信先を設定します。 運用管理ソフトウェアとの連携など、必要な場合にだけ 実施してください。
 - MMB 画面で[SNMP 設定] を表示し、[SNMP] を有効にします。 a.
 - b. MMB 経由での、SNMP のトラップ送信先を設定します。 「6.5.2 SNMPの設定」参照
- 6. ダンプ領域を設定します。

メモリダンプを取得する前に、ハードディスクの空き容量が十分あるかを確認してください。 詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「11.4.3 ダンプ環境の設定(Windows)」 を参照してください。

- 7. NTP クライアントを設定します。 OS 側の NTP サーバを設定します。詳しくは「6.2 NTP の設定」を参照してください。
- 8. 管理情報・構成情報を保存します。 詳しくは「5.7 管理情報・構成情報の保存」を参照してください。
- 9. UPSのバッテリーの寿命を監視する場合、公開ドキュメント「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」 の「8 ゲスト OS が"RedHat Enterprise Linux"の場合の設定例」の手順に従って設定してください。「定期交換部品 の交換予告/交換時期通知を行う方法」は以下よりダウンロードできます。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/guide/vmware/

10. Software Watchdog を設定します。

何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となった場合を回避するために、Watchdog Timer による監視を設定することができます。設定時間を経過すると、MMB により Hard Reset が実行され、OS のリブートが実行されます。

Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してください。

4.4.5 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続

インストール完了後の、SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 接続については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構 築マニュアル』を参照してください。

- 1. FC カードの詳細情報の設定変更および確認をします。
 - 詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。
- 2. OneCommand Manager を起動します。以下のドライバパラメーターを設定します。 設定値の詳細については SAN ストレージ装置のマニュアルを参照してください。
 - Topology
 - Queue Depth
 - Queue Target
 - Link Speed
- レジストリ情報を確認します。
 確認の方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。
 設定値の詳細については SAN ストレージ装置のマニュアルを参照してください。
 - TimeOutValue

4.5 RHEL を SAN ストレージ装置にインストールする手順

ここでは、RHELを SAN ストレージ装置にインストールする手順を説明します。 MMB の接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。SAN ストレージ装置、 FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定の詳細については、各ブート環境構築マニュアルを参照してください。

4.5.1 事前設定

必要に応じて、以下を設定します。

- 1. SAN ストレージ装置の LUN を設定します。
- 2. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSをLegacyモードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。
- 3. FC カード、コンバージドネットワークアダプおよび iSCSI ブートに利用する NIC の LUN を認識させるため、BIOS を 設定します。

FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定については、

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。

- 4. PRIMEQUEST の内蔵 HDD/SSD を取り外した後、MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定

「3.4.1 パーティションの構成設定」参照

- Console Redirection を設定
 - 「3.4.6 Console Redirectionの設定」参照
 - ビデオリダイレクション: Enable
 - バーチャルメディア:Enable
- 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 5. SAN ストレージ装置のインストール対象となる LUN だけ、PRIMEQUEST のパーティションへ接続します。 SAN ストレージ装置の設定については、SAN ストレージ装置に添付のマニュアルを参照してください。

4.5.2 インストールの準備

RHEL をインストールする場合、RHEL のディストリビューション DVD は事前提供されないため、RHEL のサブスクリ プションを購入された利用者ご自身で作成する必要があります。また、富士通 SupportDesk サービスの契約をされた利 用者は、富士通 Linux サポートパッケージ (FJ-LSP) DVD も使用します。 RHEL のディストリビューション DVD イメー ジと FJ-LSP の DVD イメージを、以下の手順で作成してください。

■ RHEL ディストリビューション DVD イメージの作成

他のシステムにて Red Hat 社のカスタマーポータル(https://access.redhat.com/)にログインして、ディストリビュ ーション DVD のイメージファイルをダウンロードします。

注意

ディストリビューション DVD のイメージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー(for Intel64)ごとに異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

備考

ファイルをダウンロードするには、Red Hat 社のカスタマーポータルへのサブスクリプション登録が必要です。

■ FJ-LSP DVD イメージの作成(富士通 SupportDesk サービス契約者に限定)

他のシステムにて、UpdateSite Web サイト(https://eservice.fujitsu.com/updatesite/)より、富士通 Linux サポート パッケージ(FJ-LSP)DVD のイメージファイルをダウンロードします。

UpdateSite Web サイトについてはご案内(http://www.fmworld.net/biz/common/update/update_site.html) を参 照してください。

注意

FJ-LSP DVD のイメージファイルは、マイナーリリースごとに異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロー ドしてください。

備考

FJ-LSP のダウンロードには富士通との SupportDesk 契約が必要です。

■ ブートの準備

FC ケーブルをシングルパス(FC ケーブル1本だけの結線)にします。

4.5.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

注意

FJ-LSP の詳細については、『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してください。Linux ユーザーズマニュアルの入手には、SupportDesk サービスの契約が必要です。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

表 4.3 SVIM による OS インストール

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。
 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。なお、MMB Web-UI の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動 した場合は、Legacy モードでの起動となります。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

手順内で UEFI モードまたは Legacy モードでのインストールを選択することができます。

- a. MMB Web-UI の Power Control 画面内 Boot Selector で「Force boot into EFI Boot Manager」を選択してパ ーティションの電源を投入します。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。
 ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (UEFI)』(CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してください。

Information	Configuration	Security	Boot	Exit		<f1:help></f1:help>
Change the o	order		Red Hat Red Hat Windows UEFI Har UEFI Fu UEFI Fu	Enterpr Enterpr Boot Ma rd Drive jitsu Vi jitsu Vi	ise Linux> ise Linux> nager> > rtual CDROMO rtual CDROM1	1.00> 1.00>
Commit Chang Discard Chan	ges and Exit nges and Exit					
以下にメニュー - UEFI:	・の意味について説明し ドライブ名	ます。				

図 4.3 [Change Boot Order] 画面例

- UEFI モードで起動するときに指定します。
- Fujitsu Virtual CDROMx xxx
- Legacy モードで起動するときに指定します。
- [F10]キーを押した後に[y]キーを押すと変更が保存されます。 d.
- [ESC]キーを3度押します。 e.
- [Exit] [Boot Override]を選択します。 f.
- UEFI 対応 OS (UEFI モードでのインストール)の場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。 q. Legacy OS(Legacy モードでのインストール)の場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。

注意

SAN ストレージ装置にインストールする場合、必ず[Boot Override]から CDROM を手動で選択し SVIM を起動して ください。Reset や PartitionOFF/ON で自動的に CDROM から SVIM を起動すると SAN ストレージが認識されませ h_{\circ}

- 3. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 4. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 6. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- 7. [インストール開始]をクリックします。 インストールが開始します。
- 8. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。
- 9. OS のインストール終了後に FJ-LSP DVD のセットを求められます。SupportDesk サービスを契約している場合は、 指示に従って FJ-LSP の DVD をバーチャルメディアにセットします。 FJ-LSP はリモートインストールに対応していません。リモートインストールの場合は、FJ-LSP の DVD をバーチャル メディアにセットせず、『Linux ユーザーズマニュアル』に従って手動で適用してください。

4.5.4 インストール完了後の添付ソフトウェア設定

OS インストール完了後、添付ソフトウェアを設定します。

- 1. 運用管理ソフトウェアとの連携などに必要な場合には、MMB 経由のトラップ送信先とメール送信先を設定します。
 - MMB 経由での、SNMP のトラップ送信先を設定 「6.5.2 SNMP の設定」参照
 - Alarm E-Mail を設定する場合は、通報先およびフィルターを設定
 [3.3.10 Alarm E-Mail の設定]参照
- 2. FC カードを実装している場合は、OneCommand Manager が必要です。OneCommand Manager がインストール されていない場合はインストールします。
 - a. OneCommand Manager を使用するには libnl パッケージが必要です。 以下のコマンドを実行して libnl のパ ッケージ情報を表示し、libnl がインストールされていることを確認します。

rpm -qi libnl

libnl がインストールされていない場合は、ディストリビューションのインストール媒体で libnl パッケージを検索し、以下のコマンドを実行してインストールしてください。

rpm -ivh libnl-<version>-<release>.<arch>.rpm

備考

<version>、<release>、<arch>の部分は、適宜読み替えてください。

b. 以下の URL から実装している FC カードのドライバ/ユーティリティをダウンロードします。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

注意

ダウンロードしたバイナリには PRIMERGY の記述がありますが、ドライバ/ユーティリティは PRIMEQUEST 3000 シリーズで利用できます。

c. ダウンロードファイルを PRIMEQUEST 3000 シリーズの任意のディレクトリにコピーし、展開します。

tar xvzf F1010350.tar.gz

d. 以下のファイルが展開されます。

図 4.4 ファイル構成



備考

「SNIA HBA API ライブラリ」のインストール方法については、HBA_API_LIB 配下に展開された readme.txt を参照してください。

e. インストールが完了したら、パーティションをリブートしてください。

- 3. QLogic 社製 FC カードを実装している場合には、QLogic Converge Console を用いて FC カードのファームをアップ デートします。
 - a. 以下の URL から実装している FC カードのアップデートモジュール / アップデート手順書をダウンロードします。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

- b. アップデート手順書に従い、FC カードのファームをアップデートします。
- 4. ダンプ領域を設定します。

メモリダンプを取得する前に、ハードディスクの空き容量が十分あるかを確認してください。

- 富士通と OS のサポート契約をされたお客様
 『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してダンプの設定を行ってください。
- 富士通と OS のサポート契約をされていないお客様 以下の手順を参考にしてダンプの設定を行ってください。
- a. crashkernel パラメーターに 256M を基準に、お客様の環境に合わせて値を設定します。 設定例) /etc/grub.conf ファイルの crashkernel パラメーターに 256M を設定します。

```
default=0

timeout=5

splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz

hiddenmenu

title Red Hat Enterprise Linux Server (<カーネル版数>.x86_64)

root (hd0,0)

kernel /vmlinuz-<カーネル版数>.x86_64 ro \

root=UUID=xxxxxxx-xxxxxxxxxxxxxxx ro

rd_NO_LUKS LANG=ja_JP.UTF-8 rd_NO_MD SYSFONT=latarcyrhebsun16 \

KEYBOARDTYPE=pc KEYTABLE=jp106

rd_NO_LVM rd_NO_DM crashkernel=256M

initrd /initramfs-<<カーネル版数>.x86_64.img

行末の\は、改行しないことを表す。
```

b. grub2-mkconfig コマンドを使って grub.cfg ファイルに設定を反映します。
 - RHEL7・RHEL8 の UEFI モードで起動する場合

grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
 - RHEL9の場合、または、RHEL7・RHEL8のLegacyモードで起動する場合

grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg

c. OS を再起動します。

- NTP クライアントを設定します。
 OS 側の NTP サーバを設定します。詳しくは「6.2 NTP の設定」を参照してください。
- 管理情報・構成情報を保存します。
 詳しくは「5.7 管理情報・構成情報の保存」を参照してください。
- UPSのバッテリーの寿命を監視する場合、
 公開ドキュメント「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」の「6 ゲスト OS が"Windows Server
 2008/2012 (R2 含む)"の場合の設定例」の手順に従って設定してください。「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」は以下よりダウンロードできます。
 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/guide/vmware/
- Software Watchdog を設定します。
 何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となった場合を回避するために、Watchdog Timer による監視 を設定することができます。設定時間を経過すると、MMB により Hard Reset が実行され、OS のリブートが実行 されます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してください。

4.5.5 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続

インストール完了後の、SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 接続については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構 築マニュアル』を参照してください。 また、ドライバパラメーターについて詳しくはドライバ添付の readme を参照し てください。

4.6 RHEL を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順

ここでは、RHELを内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順を簡潔に説明します。 MMB の接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。

4.6.1 事前設定

必要に応じて、以下を設定します。

- 1. インストール先でない、内蔵 HDD/SSD を取り外します。
- 2. MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定
 「3.4.1 パーティションの構成設定」参照
 - Console Redirection を設定
 [3.4.6 Console Redirection の設定」参照
 - ビデオリダイレクション:Enable
 - バーチャルメディア: Enable
 - 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 3. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSをLegacyモードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。

注意

Legacy モードでは M.2 への OS インストールはサポートしていません。

4.6.2 インストールの準備

RHEL をインストールする場合、RHEL のディストリビューション DVD は事前提供されないため、RHEL のサブスクリ プションを購入された利用者ご自身で作成する必要があります。また、富士通 SupportDesk サービスの契約をされた利 用者は、富士通 Linux サポートパッケージ (FJ-LSP) DVD も使用します。 RHEL のディストリビューション DVD イメー ジと FJ-LSP の DVD イメージを、以下の手順で作成してください。

■ RHEL ディストリビューション DVD イメージの作成

他のシステムにて Red Hat 社のカスタマーポータル(https://access.redhat.com/)にログインして、ディストリビュ ーション DVD のイメージファイルをダウンロードします。

注意

ディストリビューション DVD のイメージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー (for Intel64)ごとに 異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

備考

ファイルをダウンロードするには、Red Hat 社のカスタマーポータルへのサブスクリプション登録が必要です。

■ FJ-LSP DVD イメージの作成(富士通 SupportDesk サービス契約者に限定)

他のシステムにて、UpdateSite Web サイト(https://eservice.fujitsu.com/updatesite/)より、富士通 Linux サポート パッケージ (FJ-LSP) DVD のイメージファイルをダウンロードします。

UpdateSite Web サイトについてはご案内(http://www.fmworld.net/biz/common/update/update_site.html) を参 照してください。

注意

FJ-LSP DVD のイメージファイルは、マイナーリリースごとに異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロー ドしてください。

備考

FJ-LSP のダウンロードには富士通との SupportDesk 契約が必要です。

■ ブートの準備

FC ケーブルをすべて外します。

4.6.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

注意

FJ-LSP の詳細については、『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してください。Linux ユーザーズマニュアルの入手には、SupportDesk サービスの契約が必要です。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

表 4.4 SVIM による OS インストール

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。
 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

MMB Web-UI Power Control 画面内の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択し起動するか、または UEFI でブートオーダーを DVD に変更することでバーチャルメディアから起動することができます。なお、MMB Web-UI の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動した場合は、Legacy モードでの起動となり ます。

- a. パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に[F2] キーを押し、UEFI メニューを表示させます。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。
 ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (UEFI)』(CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してください。

		- ,	-			
Information	Configuration	Security	Boot	Exit		<f1:help></f1:help>
Change the o	order		Red Hat Red Hat Windows UEFI Ha UEFI Fu UEFI Fu	Enterprise Enterprise Boot Manage rd Drive> jitsu Virtua jitsu Virtua	Linux> Linux> er> 1 CDROM0 1 CDROM1	1.00> 1.00>
Commit Chang Discard Chan	ges and Exit nges and Exit					
以下にメニュー - UEFI:	-の意味について説明し ドライブ名	ます。				

図 4.5 [Change Boot Order] 画面

- UEFI モードで起動するときに指定します。
- Fujitsu Virtual CDROMx xxx

Legacy モードで起動するときに指定します。

- d. [ESC]キーを3度押します。
- e. [Exit] [Commit settings and Exit]を指定し、パーティションをリブートします。
- 3. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 4. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 6. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- [インストール開始] をクリックします。
 インストールが開始します。
- 8. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。
- OS のインストール終了後に FJ-LSP DVD のセットを求められます。SupportDesk サービスを契約している場合は、 指示に従って FJ-LSP の DVD をバーチャルメディアにセットします。
 FJ-LSP はリモートインストールに対応していません。リモートインストールの場合は、FJ-LSP の DVD をバーチャル メディアにセットせず、OS インストール後に『Linux ユーザーズマニュアル』に従って手動で適用してください。

4.6.4 インストール完了後の添付ソフトウェア設定

OS インストール完了後、添付ソフトウェアを設定します。

- 1. MMB 経由のトラップ送信先とメール送信先を設定します。 運用管理ソフトウェアとの連携など、必要な場合にだけ 実施してください。
 - MMB 経由での、SNMP のトラップ送信先を設定 「6.5.2 SNMP の設定」参照
 - Alarm E-Mail を設定する場合は、通報先およびフィルターを設定
 「3.3.10 Alarm E-Mail の設定」参照
- 2. FC カードを実装している場合は、OneCommand Manager が必要です。OneCommand Manager がインストール されていない場合は OneCommand Manager をインストールします。
 - a. OneCommand Manager を使用するには libnl パッケージが必要です。 以下のコマンドを実行して libnl のパ ッケージ情報を表示し、libnl がインストールされていることを確認します。

rpm -qi libnl

libnl がインストールされていない場合は、ディストリビューションのインストール媒体で libnl パッケージを検索 し、以下のコマンドを実行してインストールしてください。

rpm -ivh libnl-<version>-<release>.<arch>.rpm

備考

<version>、<release>、<arch>の部分は、適宜読み替えてください。

b. 以下の URL から実装している FC カードのドライバ/ユーティリティをダウンロードします。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

注意

ダウンロードしたバイナリには PRIMERGY の記述がありますが、ドライバ/ユーティリティは PRIMEQUEST 3000 シリーズで利用できます。

c. ダウンロードファイルを PRIMEQUEST 3000 シリーズの任意ディレクトリにコピーし展開します。

tar xvzf F1010350.tar.gz

d. 以下のファイルが展開されます。

図 4.6 ファイル構成



備考

「SNIA HBA API ライブラリ」のインストール方法については、HBA_API_LIB 配下に展開された readme.txt を参照してください。

- e. インストールが完了したら、パーティションをリブートします。
- 3. QLogic 社製 FC カードを実装している場合には、QLogic Converge Console を用いて FC カードのファームをアップ デートします。
 - a. 以下の URL から実装している FC カードのアップデートモジュール/アップデート手順書をダウンロードします。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/

- b. アップデート手順書に従い、FC カードのファームをアップデートします。
- ダンプ領域を設定します。
 メモリダンプを取得する前に、ハードディスクの空き容量が十分あるかを確認してください。
 - 富士通と OS のサポート契約をされたお客様 『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してダンプの設定を行ってください。
 - 富士通と OS のサポート契約をされていないお客様 以下の手順を参考にしてダンプの設定を行ってください。
 - a. crashkernel パラメーターに 256M を基準に、お客様の環境に合わせて値を設定します。 設定例) /etc/grub.conf ファイルの crashkernel パラメーターに 256M を設定します。

default=0				
timeout=5				
<pre>splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz</pre>				
hiddenmenu				
title Red Hat Enterprise Linux Server (<カーネル版数>. x86_64)				
root (hd0,0)				
kernel /vmlinuz- <カーネル版数>. x86_64 ro \				
root=UUID=xxxxxxxx-xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx				
rd_NO_LUKS LANG=ja_JP.UTF-8 rd_NO_MD SYSFONT=latarcyrhebsun16 \				
KEYBOARDTYPE=pc KEYTABLE=jp106				
rd_NO_LVM rd_NO_DM crashkernel=256M				
initrd /initramfs- <カーネル版数> .x86_64.img				

行末の\は、改行しないことを表します。

b. grub2-mkconfig コマンドを使って grub.cfg ファイルに設定を反映します。

- RHEL7・RHEL8のUEFIモードで起動する場合

grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg

- RHEL9 の場合、または、RHEL7・RHEL8 の Legacy モードで起動する場合

grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg

- c. OS を再起動します。
- NTP クライアントを設定します。
 OS 側の NTP サーバを設定します。詳しくは「6.2 NTP の設定」を参照してください。
- 管理情報・構成情報を保存します。
 詳しくは「5.7 管理情報・構成情報の保存」を参照してください。
- UPS のバッテリーの寿命を監視する場合、
 公開ドキュメント「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」の「8 ゲスト OS が"Red Hat Enterprise Linux"の場合の設定例」の手順に従って設定してください。「定期交換部品の交換予告/交換時期通知を行う方法」 は以下よりダウンロードできます。
 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/guide/vmware/
- Software Watchdog を設定します。
 何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となった場合を回避するために、Watchdog Timer による監視を設定することができます。設定時間を経過すると、MMB により Hard Reset が実行され、OS のリブートが実行されます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してください。
- 9. シリアルポート(/dev/ttyS1) を 115200 bps に設定します

- a. root アカウントでログインします
- b. /etc/rc.d/rc.local ファイルに以下を追加します setserial /dev/ttyS1 baud_base 115200 stty -F /dev/ttyS1 115200
- c. /etc/rc.d/rc.local ファイルに実行権を追加します chmod u+x /etc/rc.d/rc.local
- d. rc-local service を起動します systemctl start rc-local
- e. OS を再起動します

4.6.5 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続

インストール完了後の、SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 接続については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構 築マニュアル』を参照してください。また、ドライバパラメーターについて詳しくはドライバ添付の readme を参照し てください。

4.7 VMware を SAN ストレージ装置にインストールする手順

ここでは、VMware を SAN ストレージ装置にインストールする手順を簡潔に説明します。MMBの接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。SAN ストレージ装置、FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定の詳細については、各ブート環境構築マニュアルを参照してください。

4.7.1 事前設定

必要に応じて、以下の設定をします。

- 1. SAN ストレージ装置の LUN を設定します。
- 2. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSを Legacy モードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。
- 3. FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の LUN を認識させるため、BIOS を設定します。

FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定については、

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。

- 4. PRIMEQUEST の内蔵 HDD/SSD を取り外した後、MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定

「3.4.1 パーティションの構成設定」参照

- Console Redirection を設定
 - 「3.4.6 Console Redirectionの設定」参照
 - ビデオリダイレクション: Enable
 - バーチャルメディア: Enable
- 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 5. SAN ストレージ装置のインストール対象となる LUN だけ、PRIMEQUEST のパーティションへ接続します。 SAN ストレージ装置の設定については、SAN ストレージ装置に添付のマニュアルを参照してください。

4.7.2 インストールの準備

インストールの準備時には、あわせて VMware 情報も参照してください。VMware 情報は以下のサイトから閲覧できます。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/os/vmware/ インストール直前に以下の準備を行います。

- 1. 以下のディスクイメージを準備します。 VMware のメディア
- 2. FC ケーブルをシングルパス (FC ケーブル1本だけの結線) にします。

4.7.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

表 4.5 SVIM による OS インストール

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。
 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。なお、MMB Web-UI の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動し た場合は、Legacy モードでの起動となります。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

手順内で UEFI モードまたは Legacy モードでのインストールを選択することができます。

- a. MMB Web-UI の Power Control 画面内 Boot Selector で「Force boot into EFI Boot Manager」を選択してパ ーティションの電源を投入します。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS の場合、 Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。 ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス

(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してください。

Information Configuration Securi	ty Boot Exit	<f1:help></f1:help>
Change the order	<red enterprise="" hat="" linux=""> <red enterprise="" hat="" linux=""> <windows boot="" manager=""> <uefi drive="" hard=""> <uefi cdromo<br="" fujitsu="" virtual=""><uefi cdrom1<="" fujitsu="" th="" virtual=""><th>1.00></th></uefi></uefi></uefi></windows></red></red>	1.00>
Commit Changes and Exit Discard Changes and Exit		
以下にメニューの意味について説明します。 - UEFI:ドライブ名		
UEFI モードで起動するときに指定しま	す。	
Fuilten Virtual CDPOMy yyy		

図 4.7 [Change Boot Order] 画面例

- Fujitsu Virtual CDROMx xxx
- Legacy モードで起動するときに指定します。
- d. [F10]キーを押した後に[y]キーを押すと変更が保存されます。
- e. [ESC]キーを3度押します。
- f. [Exit]-[Boot Override]を選択します。
- g. UEFI 対応 OS (UEFI モードでのインストール)の場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。 Legacy OS(Legacy モードでのインストール)の場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。

注意

SAN ストレージ装置にインストールする場合、必ず[Boot Override]から CDROM を手動で選択し SVIM を起動して ください。Reset や Partition OFF/ON で自動的に CDROM から SVIM を起動すると SAN ストレージが認識されません。

- 3. Windows Boot Manager が表示されます。先頭のメニューを選択して進めます。
- 4. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 5. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 6. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 7. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- [インストール開始] をクリックします。
 インストールが開始します。
- 9. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。

4.7.4 システム無応答時の通知の設定

システム無応答時の通知に必要な設定を行います。何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となったこと を検出するために、Watchdog Timer による監視(Software Watchdog)を設定します。設定時間を経過すると、MMB の SEL への記録、および通報が実行されます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用 管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してください。

4.7.5 インストールの完了

設定が完了したら、PRIMEQUEST 3000 シリーズのパーティションをリブートしてください。

注意

VMware を UEFI モードでインストールした場合は、インストール時に作成されたブートオプションでは自動的に起動しないため、ブートマネージャを新しく作成し登録する必要があります。『PRIMEQUEST 3000/2000/1000 シリーズ ServerView Suite 留意事項一覧』の「7. ServerView Installation Manager (SVIM)の留意事項」内の (12)[PRIMEQUEST 3000/2000/1000 シリーズ]を参照してください。

4.7.6 添付ソフトウェアのインストール

添付ソフトウェアのインストールについては「D.2 VMware 添付ソフトウェアのインストール」を参照してください。

4.8 VMware を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順

ここでは、VMware を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順を説明します。 MMB の接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。

4.8.1 事前設定

必要に応じて、以下の設定をします。

- 1. PRIMEQUEST の内蔵 HDD/SSD を取り外した後、MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定
 - 「3.4.1 パーティションの構成設定」参照
 - Console Redirection を設定
 - 「3.4.6 Console Redirectionの設定」参照
 - ビデオリダイレクション: Enable
 - バーチャルメディア:Enable
 - 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 2. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSを Legacy モードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。

注意

Legacy モードでは M.2 への OS インストールはサポートしていません。

4.8.2 インストールの準備

インストールの準備時には、あわせて VMware 情報も参照してください。VMware 情報は以下のサイトから閲覧できます。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/os/vmware/ 以下の準備を行います

- 1. 以下のディスクイメージを準備します。 VMware のメディア
- 2. FC ケーブルをすべて外します。
- 3. ビデオリダイレクション接続でディスクイメージをマウントします。
- ブートオーダーを変更し、DVD Boot を起動順の最優先に設定します。
 詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.1 [Power Control] 画面] 画面」を参照してください。

4.8.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

表 4.6 SVIM による OS インストール

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。なお、MMB Web-UIの Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動 した場合は、Legacy モードでの起動となります。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

MMB Web-UI Power Control 画面内の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択し起動するか、または UEFI でブートオーダーを DVD に変更することでバーチャルメディアから起動することができます。なお、MMB Web-UI の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動した場合は、Legacy モードでの起動となり ます。

OS が UEFI モードに対応している場合は次の手順によりブートオーダーを変更することにより、UEFI モードでイン ストールをすることができます。

- a. パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に[F2]キーを押し、UEFI メニューを表示させます。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。
 Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。 ブートオーダーの
 設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』 (CA92344 1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してくだ
 さい。

Ι	Information Configuration Security Boot Exit	<f1:help></f1:help>
	Change the order <red enterprise="" hat="" linux=""> <red enterprise="" hat="" linux=""> <windows boot="" manager=""> <uefi drive="" hard=""> <uefi cdromo<br="" fujitsu="" virtual=""><uefi cdrom1<="" fujitsu="" th="" virtual=""><th>1.00> 1.00></th></uefi></uefi></uefi></windows></red></red>	1.00> 1.00>
	Commit Changes and Exit Discard Changes and Exit	
	以下にメニューの意味について説明します。 - UEFI:ドライブ名 UEFI モードで起動するときに指定します。 - Legacy DVDROM	
	Legacy モードで起動するときに指定します。	
d. e. g.	 [F10]キーを押した後に[y]キーを押すと設定が保存されます。 [ESC]キーを 3 度押します。 UEFI 対応 OS (UEFI モードでのインストール)の場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を Legacy OS(Legacy モードでのインストール)の場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択り 	を選択します。 します。

図 4.8 [Change Boot Order] 画面例

- 3. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 4. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 6. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- [インストール開始] をクリックします。
 インストールが開始します。
- 8. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。

4.8.4 システム無応答時の通知の設定

システム無応答時の通知に必要な設定を行います。何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となったこと を検出するために必要な設定として、Watchdog Timer による監視(Software Watchdog)を設定します。設定時間を経 過すると、MMB の SEL への記録、および通報が実行されます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してくだ さい。

4.8.5 インストールの完了

設定が完了したら、PRIMEQUEST 3000 シリーズのパーティションをリブートしてください。

注意

VMware を UEFI モードでインストールした場合は、インストール時に作成されたブートオプションでは自動的に起動しないため、ブートマネージャを新しく作成し登録する必要があります。『PRIMEQUEST 3000/2000/1000 シリーズ ServerView Suite 留意事項一覧』の「7. ServerView Installation Manager (SVIM)の留意事項」内の (12)[PRIMEQUEST 3000/2000/1000 シリーズ]を参照してください。

4.8.6 添付ソフトウェアのインストール

添付ソフトウェアのインストールについては「D.2 VMware 添付ソフトウェアのインストール」を参照してください。

4.9 Hyper-V 導入の手順

OS(Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2 いずれか)を インストール後、Hyper-V を導入します。

4.10 KVM 導入の手順

OS(Linux)をインストール後、KVMを導入します。

KVM の導入手順については、Red Hat 社および SUSE 社の以下のドキュメントを参照してください。 RHEL

- Red Hat Enterprise Linux Virtualization Deployment and Administration Guide
- Red Hat Enterprise Linux Virtualization Getting Started Guide
- Virtualization Security Guide

SLES

- Virtualization Guide

4.11 SLES を SAN ストレージ装置にインストールする手

順

ここでは、SLES を SAN ストレージ装置にインストールする手順を説明します。 MMB の接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。SAN ストレージ装置、FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定の詳細については、各ブート環境構築マニュアルを参照してください。

4.11.1 事前設定

必要に応じて、以下を設定します。

- 1. SAN ストレージ装置の LUN を設定します。
- 2. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OS を Legacy モードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。
- 3. FC カード、コンバージドネットワークアダプおよび iSCSI ブートに利用する NIC の LUN を認識させるため、BIOS を 設定します。

FC カード、コンバージドネットワークアダプタおよび iSCSI ブートに利用する NIC の設定については、

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。

- 4. PRIMEQUEST の内蔵 HDD/SSD を取り外した後、MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定
 「3.4.1 パーティションの構成設定」参照
 - Console Redirection を設定
 「3.4.6 Console Redirection の設定」参照
 ビデオリダイレクション: Enable
 バーチャルメディア: Enable
 - 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 5. SAN ストレージ装置のインストール対象となる LUN だけ、PRIMEQUEST のパーティションへ接続します。 SAN ストレージ装置の設定については、SAN ストレージ装置に添付のマニュアルを参照してください。

4.11.2 インストールの準備

SLES をインストールする場合、SLES のディストリビューション DVD は事前提供されないため、SLES のサブスクリプ ションを購入された利用者ご自身で作成する必要があります。ディストリビューション DVD のイメージファイルは SUSE 社のサイト(https://www.suse.com/download/sles/)からダウンロードしてください。

注意

ディストリビューション DVD のイメージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー (for Intel64)ごとに 異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

備考

ファイルをダウンロードするには、SUSE アカウント登録が必要です。

■ ブートの準備

FC ケーブルをシングルパス(FC ケーブル1本だけの結線)にします。

4.11.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

表 4.	7 SVIM	による OS	インストール
------	--------	--------	--------

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。
 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。なお、MMB Web-UIの Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動 した場合は、Legacy モードでの起動となります。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

手順内で UEFI モードまたは Legacy モードでのインストールを選択することができます。

- a. MMB Web-UI の Power Control 画面内 Boot Selector で「Force boot into EFI Boot Manager」を選択してパ ーティションの電源を投入します。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、EFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。
 ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (UEFI)』(CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してください。

Information Configuration Securit	y <mark>Boot</mark> Exit	<f1:help></f1:help>
Change the order	<red enterprise="" hat="" linux=""> <red enterprise="" hat="" linux=""> <windows boot="" manager=""> <uefi drive="" hard=""></uefi></windows></red></red>	
	<uefi cdromo<br="" fujitsu="" virtual=""><uefi cdrom1<="" fujitsu="" th="" virtual=""><th>1.00> 1.00></th></uefi></uefi>	1.00> 1.00>
Commit Changes and Exit Discard Changes and Exit		
以下にメニューの意味について説明します。 - UEFI:ドライブ名 UFFI モードで起動するときに指定します	<u>.</u>	

図 4.9 [Change Boot Order] 画面例

- Fujitsu Virtual CDROMx xxx
 - Legacy モードで起動するときに指定します。
- d. [F10]キーを押した後に[y]キーを押すと変更が保存されます。
- e. [ESC]キーを3度押します。
- f. [Exit]-[Boot Override]を選択します。
- g. UEFI 対応 OS (UEFI モードでのインストール)の場合、EFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。 Legacy OS(Legacy モードでのインストール)の場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を選択します。

注意

SAN ストレージ装置にインストールする場合、必ず[Boot Override]から CDROM を手動で選択し SVIM を起動して ください。Reset や PartitionOFF/ON で自動的に CDROM から SVIM を起動すると SAN ストレージが認識されません。

- 3. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 4. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 6. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- [インストール開始] をクリックします。
 インストールが開始します。
- 8. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。

4.11.4 システム無応答時の通知の設定

システム無応答時の通知に必要な設定を行います。何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となったこと を検出するために必要な設定として、Watchdog Timer による監視(Software Watchdog)を設定します。設定時間を経 過すると、MMB の SEL への記録、および通報が実行されます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してくだ さい。Software Watchdog の設定項目[Action when watchdog expires]は[Continue]を設定してください。

4.11.5 インストール完了後の添付ソフトウェア設定

OS インストールが完了したら、添付ソフトウェアの設定を行ってください。

- ダンプ領域を設定します。
 メモリダンプを取得する前に、ハードディスクの空き容量が十分あるかを確認してください。
 - 富士通と OS のサポート契約をされたお客様 『メモリーダンプ機能運用管理マニュアル』を参照してダンプの設定を行ってください。

4.11.6 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続

インストール完了後の、SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 接続については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構 築マニュアル』を参照してください。 また、ドライバパラメーターについて詳しくはドライバ添付の readme を参照し てください。

4.12 SLES を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順

ここでは、SLES を内蔵 HDD/SSD/M.2 にインストールする手順を簡潔に説明します。 MMB の接続と設定が完了していることを確認してから、作業を開始してください。

4.12.1 事前設定

必要に応じて、以下を設定します。

- 1. インストール先でない、内蔵 HDD/SSD を取り外します。
- 2. MMB でパーティションの設定を確認します。
 - SB/IOU の構成を設定
 「3.4.1 パーティションの構成設定」参照
 - Console Redirection を設定
 「3.4.6 Console Redirection の設定」参照
 - ビデオリダイレクション:Enable
 - バーチャルメディア: Enable
 - 各種モードを設定 「3.4.5 各種モードの設定」参照
- 3. UEFI メニューで[Other PCI device ROM priority]の設定をします。
 - OS を UEFI モードでインストールする場合 UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を「UEFI only」にします。
 - OSをLegacyモードでインストールする場合
 - UEFI メニューの[Configuration]- [CSM Configuration]- [Other PCI device ROM priority]の設定を 「Legacy only」にします。
 - また、UEFIメニューの[Configuration]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM Scan Configuration]で OS を起動するデバイスの OpROM だけを"Enabled"に設定します。OS を起動するデバイス以外の OpROM は"Disabled"に設定してください。

注意

Legacy モードでは M.2 への OS インストールはサポートしていません。

4.12.2 インストールの準備

SLES をインストールする場合、SLES のディストリビューション DVD は事前提供されないため、SLES のサブスクリプ ションを購入された利用者ご自身で作成する必要があります。ディストリビューション DVD のイメージファイルは SUSE 社のサイト(https://www.suse.com/download/sles/)からダウンロードしてください。

注意

ディストリビューション DVD のイメージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー (for Intel64)ごとに 異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

備考

ファイルをダウンロードするには、SUSE アカウント登録が必要です。

4.12.3 インストールの実行

SVIM による OS インストールについて説明します。

SVIM による OS インストールには、以下の種類があります。それぞれのモードの詳細な手順については、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』を参照してください。

表 4.8 SVIM による OS インストール

モード	機能概要	目的
クイックモード	必要最小限の設定を行うだけで、富士通推奨の状態	手軽に OS をインストールする場合に
	で OS をインストールできます。	使用します。
ガイドモード	セットアップ情報をウィザードに従って設定してい	RAID や OS の詳細設定をする場合に
	きます。設定した情報は、コンフィグレーションフ	使用します
	ァイルに保存し、再インストール時に使用できま	
	す。	

■ 操作手順

- パーティションに対してバーチャルメディアから ServerView Suite DVD をブートする設定を行います。
 設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「1.6.2 遠隔操作 (iRMC)」を参照してください。
- 2. バーチャルメディアで ServerView Suite DVD1 を connect し、パーティションの電源を投入します。

注意

MMB Web-UI Power Control 画面内の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択し起動するか、または UEFI でブートオーダーを DVD に変更することでバーチャルメディアから起動することができます。なお、MMB Web-UI の Boot Selector で「Force boot from DVD」を選択して起動した場合は、Legacy モードでの起動となり ます。

- a. パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に[F2]キーを押し、UEFI メニューを表示させます。
- b. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Boot] [Boot Maintenance Manager] [Boot Options] – [Change Boot Order] – [Change the order]
- c. UEFI モードでインストールする場合、UEFI:Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。Legacy OS Legacy モードでインストールする場合、Fujitsu Virtual CDROMx xxx を最上段にします。
 ブートオーダーの設定方法について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (UEFI)』(CA92344-1658)の「2.4.1.1 [Boot Options] メニュー」の「優先順位の変更(Change Boot Order)」を参照してください。

]	Information Configuration	Security Boot Exit	<f1:help></f1:help>
	Change the order	<red enterprise="" hat="" linux=""> <red enterprise="" hat="" linux=""> <windows boot="" manager=""> <uefi drive="" hard=""> <uefi cdrom0<br="" fujitsu="" virtual=""><uefi cdrom1<="" fujitsu="" th="" virtual=""><th>1.00> 1.00></th></uefi></uefi></uefi></windows></red></red>	1.00> 1.00>
	Commit Changes and Exit Discard Changes and Exit		
	以下にメニューの意味について説明し - UEFI:ドライブ名	っます。	
	UEH モートで起動するとき - Fujitsu Virtual CDROMx xx	に指定します。 x	
	Legacy モードで起動すると	きに指定します。	
d.	[ESC]キーを 3 度押します。		
e.	[Exit] – [Commit settings and Exit]	を指定し、パーティションをリブートします。	

図 4.10 [Change Boot Order] 画面

- 3. しばらくすると言語選択画面が表示されます。日本語の場合は「Japanese」を選択します。
- 4. 初期表示画面では何も設定せずに[次へ] ボタンをクリックします。
- 5. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で[Deployment] を選択します。
- 6. インストールモードの選択、インストールする OS を選択し、OS の設定を行います。

備考

OSの設定では LANの IP アドレスの設定はできません。OS インストール後、IP アドレスを設定してください。

- [インストール開始] をクリックします。
 インストールが開始します。
- 8. SVIM の指示に従って OS のインストール媒体に入れ替えます。

4.12.4 システム無応答時の通知の設定

システム無応答時の通知に必要な設定を行います。何らかの理由によりシステムがフリーズなどの無応答となったこと を検出するために必要な設定として、Watchdog Timer による監視(Software Watchdog)を設定します。設定時間を経 過すると、MMB の SEL への記録、および通報が実行されます。Software Watchdog の設定手順は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.4 パーティションの自動再起動条件」を参照してくだ さい。Software Watchdog の設定項目[Action when watchdog expires]は[Continue]を設定してください。

4.12.5 インストール完了後の添付ソフトウェア設定

OS インストール完了後、添付ソフトウェアを設定します。

- ダンプ領域を設定します。
 メモリダンプを取得する前に、ハードディスクの空き容量が十分あるかを確認してください。
 - 富士通と OS のサポート契約をされたお客様 『メモリーダンプ機能運用管理マニュアル』を参照してダンプの設定を行ってください。

4.12.6 インストール後の SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 の接続

インストール完了後の、SAN および内蔵 HDD/SSD/M.2 接続については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構 築マニュアル』を参照してください。また、ドライバパラメーターについて詳しくはドライバ添付の readme を参照し てください。

第5章 OS のインストール後に実施する作業

ここでは、PRIMEQUEST 3000 シリーズの OS インストール後に必要な各種設定について説明しています。

5.1 作業の種類

OSのインストール後に実施する作業の種類と内容を、以下に示します。

作業名	作業内容	インストールした OS	参照先
ServerView Agents の設定	ServerView Agents の設	Linux、Windows	5.2 ServerView Agents の設定
	定		
sadump の設定	sadump の設定	Linux	5.3 sadump の設定
ダンプ環境の設定	ダンプ環境の設定	Windows	5.4 ダンプ環境の設定(Windows)
ダンプ環境の設定	ダンプ環境の設定	Linux	5.5 ダンプ環境の設定(Linux)
NTP クライアントの設定	NTP クライアントの設定	Linux、Windows	5.6 NTP クライアントの設定
管理情報・構成情報の保存	MMBの管理情報、BIOS	Linux、Windows	5.7 管理情報・構成情報の保存
	の構成情報の保存		
SAS アレイコントローラカ	SAS アレイコントローラ	Linux、Windows	5.8 SAS アレイコントローラカード
ードの Write Policy 推奨設	カードの Write Policy 推		の Write Policy 推奨設定
定	奨設定		
シリアルポートの設定	シリアルポートの設定	Linux	5.9 シリアルポートの設定

表 5.1 作業の種類

5.2 ServerView Agents の設定

SVIM での OS インストール中に SVS のインストールを選択した場合、ServerView Agents/ServerView Agentless Service の設定が必要です。設定について詳しくは、以下のマニュアルを参照してください。

- ServerView Agents :
 - ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Linux ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Windows
- ServerView Agentless Service: SUSE Linux Enterprise Server の場合、syslog-ng 設定ファイルの拡張設定が必要です

1. /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf に以下の行を追加します。

destination hwlog { pipe("/dev/HWLog/syslog_fifo"); }; log { source(src); destination(hwlog); };

2. YaSTを開始し、 [Novell AppArmor] - [Edit Profile]を選択します
- 3. 有効な syslog daemon (/sbin/syslog-ng または/sbin/syslogd)の名前を選択し[Next]をクリックします
- 4. /dev/HWLog/syslog_fifo を Enter するか、File-name フィールドを修正します
- 5. パーミッションの Read オプションと Write オプションを有効にします
- 6. このエントリーを保存します
- 7. AppArmorの設定ファイル /etc/apparmor.d/sbin.syslog-ng に含まれている記述を修正します。

下記の記述を

@{CHROOT_BASE} =

このように修正します。

@{CHROOT_BASE} = ""

この変更の後、AppArmor を以下コマンドにより再起動します。

/etc/init.d/boot.apparm restart

8. syslog サービスを以下コマンドにより再起動します。

/etc/init.d/syslog restart

5.2.1 ServerView Agents の管理 LAN 設定

以下の場合に、ServerView Agents が使用する管理 LAN (Operations Manager との通信に使用する LAN)を設定します。

- 1. ServerView Agents の初期インストール時
- 2. 別パーティションから複製したディスクを使用して新たなパーティションを構築した
- 3. 管理用 LAN の IP アドレスを変更した

■ Windows の場合

以下の手順で管理 LAN の設定を行います。

- 1.ServerView Server Control"サービスが起動している事を確認してください。起動していない場合は、下記の手順で、 ServerView Agents を起動してください。
 - a. [スタートメニュー] → [管理ツール] → [サービス] の順にクリックします。
 - b. 右側のウィンドウで [ServerView Server Control] を選択します。
 - c. メニューバーから [操作] → [起動] の順にクリックし、[ServerView Server Control]を起動します。
- 2. SVS の DVD メディアの下記ディレクトリに格納されている、"MgmtIP.exe"コマンドを Windows OS 上の任意のフ ォルダ(以下、"C:\Temp"とします)にコピーします。

\SVSLocalTools\Japanese\Svmanage\Tools\MgmtIP\

- 3. コマンドプロンプト(管理者用)を開き、下記コマンドを実行します。 <IP アドレス>は、OS 上の管理 LAN の IP アドレスです。
 - IPv4 で使用している場合 C:\Temp\MgmtIP.exe -i <IP アドレス>
 - IPv6 で使用している場合 C:\Temp\MgmtIP.exe -k <IP アドレス>

4. コマンド実行後、以下のメッセージが出力されれば完了です。

MgmtIP:new management IP address "管理 LAN 用 IP アドレス" stored

■ Linux の場合

以下の手順で管理 LAN の設定を行います。

1. eecd プロセスが起動している事を確認します。

```
# ps ax |grep eecd
```

起動していなかった場合には、ServerView Agents を起動します。

入力形式

/usr/sbin/srvmagt start

2. 下記コマンドを実行します。

/usr/sbin/eecdcp -c oc=E002 oe=000C \'\$IPADDRESS\'

例

/usr/sbin/eecdcp -c oc=E002 oe=000C \'192.168.0.1\'

5.3 sadumpの設定

sadump の出力先を設定します。出力先のダンプデバイスとしては内蔵ディスクと SAN ストレージの 2 つがあります。 ダンプデバイスは、ディスクおよびディスクパーティションを使用することができます。ダンプデバイスをディスクパ ーティションに作成する場合は、OS インストール時にディスクパーティションを作成しておいてください。

注意

- sadump は UEFI OS のみ対応しています。OS 導入モードを確認ください。
- 仮想 OS 上のゲスト OS として使用している RHEL と SLES では sadump は使用できません。
- メモリ搭載量が 2TB より大きいパーティション(Address Range Mirror 機能が無効の場合)、または Address Range Mirror 領域サイズが 2TB より大きいパーティション(Address Range Mirror 機能が有効の場合)では、 sadump 機能を使用することができないため、sadump 機能を無効にしてください。

5.3.1 ダンプ採取時間の目安

40分

メモリ搭載量が多いパーティションにおいて sadump を実行した際、メモリ搭載量に比例してダンプ情報の採取時間が 長くなります。

■ダンプ採取時間の目安

sadump のダンプ先が SAS アレイコントローラカードに接続するディスクデバイスの場合のダンプ採取時間の目安は以下になります。

表 5.2 SAS アレイコントローラカード接続時のダンプ採取時間の目安						
モリ搭載量	32GB	64GB	128GB	512GB	1TB	2TE

sadump のダンプ先が FC カードに接続するディスクデバイスの場合のダンプ採取時間の目安は以下になります。

80分

メモリ搭載量	32GB	64GB	128GB	512GB	1TB	2TB
採取時間目安	6分	12 分	24分	96分	3 時間	6 時間

表 5.3 FC カード接続時のダンプ採取時間の目安

3 時間

15 時間

30時間

60 時間

備考

X

採取時間目安

表 5.2、表 5.3 は Address Range Mirror を無効にした場合の全メモリ領域のダンプ採取時間の目安を示します。ダンプ 採取時間は、ダンプ先のディスクデバイスの種類(HDD/SSD)にかかわらず、表 5.2、表 5.3 に示したものになります。

■ダンプ採取時間の短縮方法

以下の方法でダンプ採取時間の短縮が可能です。

- sadump の"SKIPZEROPAGE"機能を使用する
 "SKIPZEROPAGE"機能については『FUJITSU Server PRIMEQUEST 3000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス (sadump, Dynamic Reconfiguration)(CA92344-1659)』の「2.3 sadump セットアップメニュー」を参照し てください。
- SAS アレイコントローラカード使用時には UEFI ドライバの設定を変更する SAS アレイコントローラカードの UEFI ドライバ設定変更については、「5.3.4 sadump デバイスの初期化 (UEFI)」を参照してください。

"Only Address Mirrored Region"機能を使用する
 sadump の"Only Address Mirrored Region" を使用することで、ダンプする範囲を絞りダンプ時間を短縮する
 ことができます。"Only Address Mirrored Region"機能については『FUJITSU Server PRIMEQUEST 3000 シリ
 ーズ 運用管理ツールリファレンス(sadump, Dynamic Reconfiguration)(CA92344-1659)』の「2.3 sadump
 セットアップメニュー」を参照してください。

"Only Address Mirrored Region"機能を使用した場合、ダンプ採取時間の目安は以下になります。

表 5.4 "Only Address Mirrored Region"機能を使用した場合の SAS アレイコントローラカード接続時のダン プ採取時間の目安

Address Range Mirror 領域サイズ	32GB	64GB	128GB	512GB	1TB	2TB
採取時間目安	40分	80分	3 時間	15 時間	30 時間	60 時間

表 5.5 "Only Address Mirrored Region"機能を使用した場合の FC カード接続時のダンプ採取時間の目安

Address Range Mirror 領域サイズ	32GB	64GB	128GB	512GB	1TB	2TB
採取時間目安	6分	12 分	24分	96分	3 時間	6 時間

備考

表 5.4、表 5.5 は Address Range Mirror を有効にした場合の Address Range Mirror 領域のダンプ採取時間の目安を示 します。ダンプ採取時間は、ダンプ先のディスクデバイスの種類(HDD/SSD)にかかわらず、表 5.4、表 5.5 に示したも のになります。

sadump が動作した際、ダンプ採取時間はシステムが立ち上がるまでの待ち時間となりますので、システムの再起動時間を優先する場合は、以下の手順で sadump 機能を無効にしてください。

- 1. UEFI メニューの[Configuration]メニューを表示します。
- 2. [sadump Configuration] を選択し、[Enter] キーを押します。
- 3. [Set up Manager] を選択し、[Enter] キーを押します。
- 4. [sadump] で[Disable] を選択します。
- 5. [Commit Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。

5.3.2 事前準備

sadump 出力先として、SAS アレイコントローラカードまたは FC カードを登録する必要があります。

■内蔵ディスクに出力する場合

内蔵 Disk に sadump 出力する際は、出力先デバイスを SAS アレイコントローラカードに登録する必要があります。設 定手順について詳しくは『LSI MegaRAID SAS 12G Software』を参照してください。

■SAN ストレージに出力する場合

ETERNUS 上のデバイスをダンプデバイスに設定する場合、事前に SAN ブート環境を構築する必要があります。 事前に UEFI ドライバの設定を実施して、出力先デバイスを FC カードに登録する必要があります。 SAN ブート環境構築手順および FC カードの設定手順について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境 構築マニュアル』を参照してください。

sadump の設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(sadump,Dynamic Reconfiguration)』 (CA92344-1659) の「第2章 sadump 環境の設定」を参照してください。

複数の SAN 経路で sadump デバイスを登録する場合は、該当する全て FC カードに対して設定を行います。sadump 出 力先は最大 3 パスまで設定可能です。

5.3.3 sadump デバイスの初期化 (OS)

Support Desk 契約をしているお客様は OS 上から sadump デバイスの初期化が可能です。OS 上から sadump デバイス を初期化する手順は、OS が RHEL の場合は『Linux ユーザーズマニュアル』を、OS が SLES の場合は『メモリーダンプ 機能運用管理マニュアル』を参照してください。OS 上から sadump デバイスを初期化することを推奨します。 Support Desk 契約をしていないなどの事情により UEFI から sadump の設定を行う必要がある場合は、「5.3.4 sadump デバイスの初期化 (UEFI)」を参考にして UEFI から sadump の設定をしてください。

5.3.4 sadump デバイスの初期化 (UEFI)

sadump では、パーティションごとに以下の項目を設定します。

- sadump の有効化
- ダンプの採取先
- ダンプ採取時の圧縮
- ダンプ採取後の動作
- ダンプの採取先の再利用

sadump の設定は、UEFI セットアップメニューから行います。 設定を行う前に、ダンプの採取先となるダンプデバイ スの領域を確保する必要があります。ダンプデバイスには、システム異常が発生したときのレジスタ情報やメモリの内 容を出力します。このため、ダンプ出力されるデバイスの容量は、メモリのサイズに合わせて決定します。以下の見積 もりで必要な領域を求め、 確保してください。

搭載メモリ量+ 固定値(*)

(*)搭載メモリ量が 6TB 未満の場合、固定値は 1.25GB になります。
 搭載メモリ量が 6TB 以上の場合には、固定値は 2.85GB になります。
 なお、Dynamic Reconfiguration を有効にした場合には、搭載メモリ量が 6TB 未満でも
 固定値は常に 2.85GB になります。

ここで設定した変更は、パーティションのリセット実施後に有効となります。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

■ 操作手順

 UEFI メニューの[Configuration]メニューを表示します。[Configuration]メニューの表示について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』 (CA92344-1658)の「第2章 UEFIのメニ ュー操作」を参照してください。

Information Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
 Onboard Devices Configuration PCI Subsystem Configuration CPU Configuration Memory Configuration SATA Configuration CSM Configuration USB Configuration USB Configuration Network Device Listtion UEFI Network Stack Configuration SCSI Configuration iSCSI Configuration Driver Health 	m tion			
 sadump Configuration Network Device List 				

図 5.1 Configuration メニュー例

[sadump Configuration] を選択し、[Enter] キーを押します。
 →メインメニュー (sadump) が表示されます。

図 5.2 メインメニュー (sadump)

Information Configuration	Security Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Available sadump functions			
▶ Set up Manager			
▶ Dump device Manager			
Exit			
	を押します。		

[Set up Manager] を選択し、[Enter] キーを押します。
 →sadump セットアップメニューが表示されます。

図 5.3 sadump セットアップメニュー

Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Set up of sa	adump				
Item sadump COMPRESS RECYCLE REBOOT SKIPZEROPAGI TIMEOUT Only Address Restore to f	E s Mirrored Regic Factory settings	Setting m	(Disable (Uncompr (Enable> [0] (Enable> [0] (Disable	> ess>	
 Commit Chang Discard Chan 	ges and Exit nges and Exit				

4. [sadump] で[Enable] を選択します。



Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Set up of e	dum				
Set up of Se	ռուահե				
Item		Setting			
sadump		 	Enable>		
COMPRESS		<	Uncompre	ess≻	
RECYCLE		<	Enable>		
REBOOT		[0]		
SKIPZEROPAGI	5	<	Enable>		
TIMEOUT		D	0]		
Only Address	s Mirrored Regio	m <	Disable)	>	
Postora to d	Contoru cottingo				
► Commit Chan	res and Exit				
 Discard Chai 	mes and Exit				

備考

[SKIPZEROPAGE] を [Enable] に設定することで、ダンプ採取時間を短縮できます。ただし、どれだけ短縮できるか は OS でのメモリ使用量に依存し、メモリ上に O データが多いほどダンプ時間をより短縮できます。詳細は 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス (sadump, Dynamic Reconfiguration)』(CA92344-1659)の「2.3 sadump セットアップメニュー」を参照してください。

5. [Commit Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。 →設定が確定され、メインメニュー(sadump)に戻ります。

Information	Configuration	Securitu	Boot	Exit	<f1:helv></f1:helv>
Available sa	adump functions	y			
 Set up Manag Dump device Exit 	yer Manager				

図 5.5 メインメニュー(sadump)

- 6. メインメニュー(sadump)で[Dump device Manager] を選択し、[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイスメンテナンスメニューが表示されます。
 - 図 5.6 ダンプデバイスメンテナンスメニュー

Information Configuration Security Boot Exit	<f1:help></f1:help>
Maintain the dump device	
Number of created dump device:0 Number of dump device in use:0	
 Create a dump device Select a dump device Discard a dump device Exit 	

「5.3.3 sadump デバイスの初期化 (OS)」で OS 上から sadump デバイスを初期化した場合は、7~11 の手順をスキッ プしてください。

7. [Create a dump device] を選択し、[Enter] キーを押します。
 →ダンプデバイス構築メニューが表示されます。





8. [Disk selection] を選択し、[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイス選択メニューが表示されます。

Information Configuration Security Boot Exit	<f1:help></f1:help>
Select device	
▶ Exit	
PcieRoot (0x2) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x8,0x0) /Pci (0x0,0x0) / x0) /Scsi (0x1,0x0)	Ctr1(0
PcieRoot (0x2) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x8,0x0) /Pci (0x0,0x0) / x0) /Scsi (0x1,0x0) /HD (1,GPT,391D5224-7467-49C1-86EB-D7FFCBD20CD3,0x E1000)	Ctrl(0 800,0x
PcieRoot (0x2) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x8,0x0) /Pci (0x0,0x0) / x0) /Scsi (0x1,0x0) /HD (2,GPT,05C06B79-36FC-4DB4-9A45-E7A4D8D67AFB,0x 0x31800)	Ctrl(0 E1800,
PcieRoot (0x2) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x8,0x0) /Pci (0x0,0x0) / x0) /Scsi (0x1,0x0) /HD (3,GPT,4932E5F9-A44D-48DE-B00A-AC9AB476E84D,0x ,0x8000)	Ctrl(0 113000
PcieRoot (0x2) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x8,0x0) /Pci (0x0,0x0) / x0) /Scsi (0x1,0x0) /HD (4,GPT,4993FB3D-13C7-4F80-8DD6-63702F9F411B,0x ,0x22CA4800)	Ctrl(0 11B000

図 5.8 ダンプデバイス選択メニュー

9. ディスクまたはディスクパーティションを選択し、ダンプデバイスを構築するディスクまたはディスクパーティションを設定します。

⚠注意

(データ破壊)

ダンプデバイスを選択する際、ディスクの選択が正しいか、再確認してください。選択を誤ったまま 実行すると、データが破壊されます。

備考

ディスクまたはディスクパーティションを表す ACPI 名については、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運 用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.6 デバイスパス」を参照してください。

図 5.9 ダンプデバイス選択メニュー						
Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>	
Select dump	device					
▶ Exit						
▶ PcieRoot (0x) x0) /Scsi(0x)	2)/Pci(0x0,0x0)/] 1,0x0)	Pci(0x0,0x0)) /Pci (0:	x8,0x0)/F	ci (0x0,0x0) /Ctrl (0	

10. [Enter] キーを押します。

→ダンプデバイスが作成されます。ダンプデバイス構築メニューに戻ります。

注意

ダンプデバイスを作成する際、ダンプデバイスが初期化されます。選択したディスクまたはディスクパーティションの 大きさに応じて、初期化に必要な時間は異なります。場合によっては、初期化に時間がかかり、次の画面へ切り替わる のに数分以上かかることがあります。

図 5.10 ダンプデバイス構築メニュー

Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Create a du	mp device				
Create mode • Disk select: • Exit	ion	2>	ingle>		

11. [Exit] を選択して[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイスメンテナンスメニューに戻ります。

備考

ダンプデバイスを複数作成する場合は、手順7~11をダンプデバイスの数だけ繰り返してください。



12. ダンプデバイスメンテナンスメニューで[Select a dump device] を選択して[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイス設定メニューが表示されます。



Information Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Select the dump device used				
► <u>111</u>				
▶ [2]				
▶ [3]				
Clear setting • Commit changes and Exit • Discard changes and Exit				

13. ダンプデバイスを指定します。

指定したいダンプデバイスの番号を選択し、[Enter] キーを押します。 例:1番目のダンプデバイスを指定する場合は[1]を選択し、[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイス一覧メニューが表示されます。

図 5.13 ダンプデバイス一覧メニュー						
Information Configuration Security Boot Exit	<f1:help></f1:help>					
Select dump device						
▶ Exit						
PcieRoot (0x2) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x8,0x0) /Pci (0x0,0x0) x0) /Scsi (0x1,0x0)	/Ctr1(0					

14. ダンプデバイスに使用するディスクまたはディスクパーティションを選択し、[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイスが確定され、ダンプデバイス設定メニューに戻ります。

備考

SAN ストレージ上にダンプデバイスを作成した場合、1 つのダンプデバイスが SAN のパス毎に表示されます。 パス毎にダンプデバイスを指定する必要があります(最大 3 パスまで) SAN ストレージ上にダンプデバイスを複数設定する場合は、手順 13~14 をダンプデバイスの数だけ繰り返してください。 ダンプデバイスは最大 3 つまで設定可能です。

図 5.14 ダンプデバイス設定メニュー



15. [Commit Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。 →ダンプデバイスが確定され、ダンプデバイスメンテナンスメニューに戻ります。



図 5.15 ダンプデバイスメンテナンスメニュー

[Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。
 →メインメニュー(sadump)に戻ります。

図 5.16 メインメニュー (sadump)

Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Available sa	adump functions				
 ▶ Set up Manag ▶ Dump device Exit 	ger Manager				

- 17. [Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。 →sadump Configuration の設定が完了します。
- 18. SAS アレイコントローラカード配下に搭載した HDD/SSD をダンプデバイスにする場合は、以降に進んでください。 SAS ストレージ上のデバイスをダンプデバイスに設定する場合、19 はスキップし、20 に進んでください。
- 19. 以下に示す条件を確認した上で、ダンプデバイスを接続している SAS アレイコントローラカードの"Write Cache Policy"を"Force Write Back"または"Always Write Back"に変更してください(SAS アレイコントローラカードのファ ームウェア版数によって" Force Write Back"と"Always Write Back"のどちらかが設定画面に表示されます)。この設 定を変更することで、表 5.2、表 5.3、表 5.4、表 5.5 に示す時間でダンプをおこなうことができます。ただし、以 下の条件を満たす場合のみ、設定変更を行ってください。運用システムで予期しないデータ破壊が発生することがあ ります。設定を変更しない場合には表 5.2、表 5.3、表 5.4、表 5.5 に示すダンプ採取時間が約 4 倍に伸びます。

【条件】

- 運用システムで使用する HDD とダンプデバイスとして使用する HDD が別の SAS アレイコントローラカードの

配下に搭載している。

または

 運用システムで使用する HDD とダンプデバイスとして使用する HDD を同じ SAS アレイコントローラカードの 配下に搭載していて、かつその SAS アレイコントローラカードにフラッシュバックアップユニットが取り付け られている。

設定方法については、以下のドキュメントを参照してください。

- LSI MegaRAID SAS 12G Software
- 20. パーティションをリセットします。

[Boot]を選択し、[Boot Maintenance Manager]を選択して[Enter] キーを押します。 [Reset System]を選択して[Enter] キーを押します。 →パーティションがリセットされ、設定が反映されます。

図 5.17 [Boot]メニュー

Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
Bootup NumL Quiet Boot	ock State	<)ff> Disable	d>	
Check Contr	ollers Health Sta	itus <	Enabled	>	
Boot error	handling	<(Continu	e>	
PXE Boot Op	tion Retry	<	Disable	d>	
Boot Remova	ble Media	<	Enabled	>	
▶ Boot Mainte	nance Manager				

図 5.18 [Boot Maintenance Manager]メニュー

Information	Configuration	Security	Boot Exit	<f1:help></f1:help>
► Boot Options	3			
► Boot From Fi	ile			
▶ Set Time Out	t Value			
Reset System	1			

5.4 ダンプ環境の設定(Windows)

Windows では、OS の標準機能でダンプを取得できます。ダンプを取得するためには事前にディスク領域を確保してお く必要があります。ダンプ環境の設定について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』 (CA92344-1656)の「11.4.3 ダンプ環境の設定(Windows)」を参照してください。

5.4.1 メモリダンプ/ページングファイルについて

メモリダンプファイルとは、システムで STOP エラー(致命的なシステムエラー)が発生した場合に、デバッグ情報が 保存されるファイルです。メモリダンプ取得のための設定は、運用に使用する OS やアプリケーションをインストール した後で実施します。ページングファイルは、使われていないメモリ領域を一時的に保存しておくためにハードディス ク上に作られるファイルです。ページングファイルは、メモリダンプファイル作成時にも使用されます。メモリダンプ ファイル作成時には、すべてのメモリダンプ情報が一時的にページングファイルに格納されます。メモリダンプおよび ページングファイルについて詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の 「11.4.3 ダンプ環境の設定(Windows)」および『Windows Server 2008/2008 R2/2012/2012 R2/2016/2019 大容量

メモリダンプファイル設計ガイド』

(http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/technical/construct/pdf/win2008-memory-dump.pdf)を参照してく ださい。

5.5 ダンプ環境の設定(Linux)

RHEL および SLES では、OS の標準機能である kdump 機能とハードウェアの sadump 機能を組み合わせて、より確実 にダンプが取得できる環境を用意することができます。

RHELのダンプ環境の設定については『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してください。

SLES のダンプ環境の設定については『メモリーダンプ運用管理マニュアル』を参照してください。

RHEL における『Linux ユーザーズマニュアル』および、SLES における『メモリーダンプ運用管理マニュアル』の入手 には SupportDesk サービスの契約が必要です。

5.6 NTP クライアントの設定

NTP クライアントの設定については「6.2 NTP の設定」を参照してください。

5.7 管理情報・構成情報の保存

ここでは、以下の情報の保存について説明します。BIOS 構成情報は必ず保存してください。

- 5.7.1 MMB 構成情報の保存
- 5.7.2 BIOS 構成情報の保存

備考

BIOS 構成情報は、以下の場合に保存してください。

- OS インストール後
- 運用開始後に BIOS の設定を変更した場合

BIOS 構成情報の保存については、「5.7.2 BIOS 構成情報の保存」を参照してください。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

5.7.1 MMB 構成情報の保存

MMB 構成情報をリモート PC にバックアップする方法について説明します。MMB 構成情報の保存には、MMB Web-UI の[Maintenance] メニューを使用します。

■ 操作手順

1. [Maintenance] - [Backup/Restore Configuration] - [Backup/Restore MMB Configuration] を選択します。 →[Backup/Restore MMB Configuration] 画面が表示されます。

図 5.19 [Backup/Restore MMB Configuration] 画面例

System Partition User Administrati >Maintenance >Backup Restore Con	on Network Configuration Management alignation >Backup Restore MMB Configuration	Logout
Timmure Update Backup Restore Configuration Backup Restore MMB Configuration Backup BIOS Configuration Restore BIOS Configuration Magnematics Wuard	Backup MMB Configuration To backup the MMB Configuration, click "Backup" button.	Help
D REMOS	Restore MMB Configuration To restore the MMB Configuration, select a file and click "Restore" button.	
	Restore	

- [Backup] ボタンをクリックします。
 →ブラウザの格納先ダイアログボックスが表示されます。
- 格納パスを選択して、[OK] ボタンをクリックします。
 →構成情報ファイルのダウンロードが開始されます。 バックアップする MMB 構成情報ファイルの初期値名は、以下のとおりです。
 MMB_(バックアップした日付)_(MMB バージョン).dat

5.7.2 BIOS 構成情報の保存

BIOS 構成情報をリモート PC にバックアップする方法について説明します。 BIOS 構成情報の保存には、MMB Web-UI の[Maintenance] メニューを使用します。

■ 操作手順

- 1. [Maintenance] [Backup/Restore Configuration] [Backup BIOS Configuration] を選択します。
 - → [Backup BIOS Configuration] 画面が表示されます。

図 5.20 [Backup BIOS Configuration] 画面例

System Partition User Administrat >Maintenance >Backup/Restore Co	ion Netwo	ork Cor >Backu	aguration (Maintenance) 9 BIOS Configuration	Logout
Finnware Update Backup Restore Configuration Backup Restore MMB Configuration Backup BIOS Configuration Restore BIOS Configuration	Back Select a p	up B	IOS Configuration	Help
Maintenance Wizard		Ħ	Partition Name	
🙂 REMCS	0	0	kato	
	0	1	kato2	
	0	2	hayashida	
	0	3	kikkawa	

- 構成情報をバックアップするパーティションのラジオボタンを選択し、[Backup] ボタンをクリックします。
 →格納先を指定するダイアログボックスが表示されます。
- 格納パスを選択して[OK] ボタンをクリックします。
 バックアップする BIOS 構成ファイルの初期値名は次のとおりです。
 パーティション番号_バックアップした日付_BIOS バージョン.dat

5.7.3 LAN カード・CNA カードの設定情報の保存

LAN カード、および CNA カードで Option ROM 機能(拡張 BIOS、UEFI ドライバ)(※)を設定して使用する場合は、各 カードの「環境設定シート」に設定内容を控えて保管してください。

故障による交換が発生した場合等、再度設定を行う必要があります。

「環境設定シート」は以下のサイトから閲覧・ダウンロードできます。

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/manual/3000/

※ 拡張 BIOS 機能

SR-IOV 設定, UMC(Universal Multi-Channel)機能設定, 各種ブート設定など。

5.8 SAS アレイコントローラカードの Write Policy 推奨設定

SAS アレイコントローラカード(デュアルチャネル含む)にはフラッシュバックアップユニットを取り付けることができます。

このフラッシュバックアップユニットの有無により、Write Policy の推奨設定は下記のとおりとなります。詳細な機能、 設定方法については、以下のドキュメントを参照してください。

- SAS アレイコントローラが PRAID EP420i (D3216), PRAID EP420e, EP540i, EP580i, EP540e の場合 LSI MegaRAID SAS 12G Software

表 5.6 SAS アレイコントローラカードの Write Policy 推奨設定

フラッシュバックアップユニット	Write Policy 推奨設定
フラッシュバックアップユニット無し	Write Through
フラッシュバックアップユニット有り	Write Back

5.9 シリアルポートの設定

シリアルポート(/dev/ttyS1)を115200 bps に設定します。

5.9.1 シリアルポートの設定(RHEL)

1. root アカウントでログインします

2. /etc/rc.d/rc.local ファイルに以下を追加します

```
setserial /dev/ttyS1 baud_base 115200
```

stty -F /dev/ttyS1 115200

- 3. /etc/rc.d/rc.local ファイルに実行権を追加します
- # chmod u+x /etc/rc.d/rc.local
- 4. rc-local service を起動します
- # systemctl start rc-local
- 5. OS を再起動します

5.9.2 シリアルポートの設定(SLES)

- 1. root アカウントでログインします
- 2. もしインストールされていなければ、setserial パッケージをインストールします
- 3. /etc/rc.d/rc.local ファイルに以下を追加します

setserial /dev/ttyS1 baud_base 115200

4. OS を再起動します

5.10 PRAID EP540i/EP580i/EP540eの設定

UEFI モード

HII Configuration Utility を使用できます。 HII Configuration Utility の起動方法は、" 付録 F HII Configuration Utility の起動方法"を参照してください。

Legacy モード

HII Configuration Utility を使用できます。Legacy モードで HII Configuration Utility を使用する場合は、以下の手順 で Launch Storage OpROM policy を UEFI Only に設定してください。

- a. UEFI メニューで次の順にメニューを選択します。[Configuration] [CSM Configuration]
- b. Launch Storage OpROM policy を UEFI Only に設定します。

OS インストール、OS ブートする場合は、Launch Storage OpROM policy を Legacy Only に戻してください。Legacy Only に設定しないと、OS インストール、OS ブートが失敗します。

詳細な設定方法は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.2.6 [CSM Configuration]メニュー」を参照してください。

HII Configuration Utility の起動方法は、" 付録 F HII Configuration Utility の起動方法"を参照してください。

5.11 PRAID EP400i/EP420i/EP420eの設定

UEFI モード

HII Configuration Utility を使用できます。 HII Configuration Utility の起動方法は、" 付録 F HII Configuration Utility の起動方法"を参照してください。

Legacy モード

Ctrl-R Utility を使用できます。 Ctrl-R Utility の起動方法は、"付録 H Ctrl-R Utility の起動方法"を参照してください。

第6章 **導入後の作業**

ここでは、NTPの設定やセキュリティの設定など、PRIMEQUEST 3000 シリーズの導入後に実施する作業について説明します。

6.1 ネットワークアダプターの二重化構成

導入後のネットワーク構築のために、各ネットワークアダプターに対応したユーティリティを使用して、 以下のような チーミング(マルチパス)を設定します。

■ ネットワークアダプター(Intel Gigabit Ethernet (GbE))の設定

管理 LAN および業務 LAN についてネットワークの冗長化設定を行います。対象とするネットワークは、次頁の図の(2)の箇所です。

- Windows :

Windows Server 2012 R2 では OS の標準機能と Intel PROSet (R)を使用してチーミングを構成できます。Intel PROSet (R) の詳細についてはヘルプを参照してください。

Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016 では OS の標準機能を使用してチーミ ングを構成できます。なお、OS の標準機能には Load Balancing and Failover (LBFO) と Switch Embedded Teaming (SET) の 2 種類があります。このうち LBFO は Windows Server 2022 では Hyper-V 仮想スイッチ に 使用することができなくなりました。

備考

Intel PROSet(R)は Windows Server 2022、Windows Server 2019 および Windows Server 2016 をサポート していません。

- Linux :

RHEL は、『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してください。

SLES は、SUSE 社の『Administration Guide』を参照してください。

PRIMECLUSTER GLS(Global Link Services)を使用すると冗長を構築できます。PRIMECLUSTER GLSを使用した業務 LAN の冗長について詳しくは、PRIMECLUSTER 関連のドキュメントを参照してください。



図 6.1 外部ネットワーク構成

番号	説明
(1)	Switching Hub 冗長化
(2)	チーミング (GLS など) による冗長化
(3)	Standby 側は無効

注意

Intel PROSet(R)を使用したチーミングに関して、留意事項があります。留意事項については、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「G.8 NIC(ネットワークインターフェースカード)」を参照してく ださい。

6.2 NTP の設定

ここでは、Network Time Protocol(NTP)を利用した時刻補正の運用について、PRIMEQUEST 3000 シリーズでの運用 方法を説明します。 NTP とは、コンピュータ同士が時刻情報を交換する方法を定めたプロトコルです。システムの起動 時に、正確な時刻を有するほかのシステムの時刻を参照して時刻を設定し、その後、時刻の誤差を一定範囲内で維持す るための機能です。

このとき、元となる時刻を持つシステムを NTP サーバ、参照するシステムを NTP クライアントと呼びます。NTP サーバには、NTP クライアントからの要求に応答するための NTP サービスが起動されている必要があります。

OS が RHEL の場合の NTP を利用した時刻補正の運用については、『Linux ユーザーズマニュアル』を参照してください。 OS が SLES の場合の NTP を利用した時刻補正の運用については、SUSE 社の『Administration Guide』を参照してくだ さい。

OS が Windows の場合の NTP を利用した時刻補正の運用については、「付録 E NTP サーバの指定および設定 (Windows)」を参照してください。

注意

Extended Partitioning 機能の使用条件および留意事項については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』 (CA92344-1656)の「3.2.1 Extended Partitioning」を参照してください。 掲載している画面はすべて表示例であり、 システム構成などによって表示される内容は異なります。

6.2.1 PRIMEQUEST 3000 シリーズでの NTP の運用方法

PRIMEQUEST 3000 シリーズでの NTP を利用した各パーティションの時刻の補正方法について説明します。 PRIMEQUEST 3000 シリーズでは、時刻を設定する対象は以下の 2 種類です。

- MMB
- 各パーティション

MMB の NTP クライアント設定について詳しくは「6.2.2 NTP サーバの指定」を参照してください。 各パーティション の時刻は、インストールされた OS の NTP クライアント設定によって補正します。安定した NTP 運用をするために、各 NTP クライアントからは複数台(RHEL の場合は 3 台以上)の NTP サーバを指定してください。

MMB 以外の NTP サーバを利用した場合の運用の概要図を、「図 6.2 外部 NTP サーバを利用する場合の運用図(NTP サーバ 3 台の場合)」に示します。

注意

- 複数台の NTP サーバを利用する場合は、stratum(階層)を合わせてください。
- NTP サーバ自体も更に上位階層の NTP サーバとの同期が必要です。
- NTP サーバの優先順位は指定できません。





NTP サーバを1台だけ指定することも可能です。ただしこの場合、NTP クライアントは指定した NTP サーバへ通信でき なくなると、ほかに同期対象が存在しないため、NTP サーバを失ってしまいます。NTP クライアントは NTP サーバとの 通信が復旧するまでの間、NTP による時刻補正を行うことができず、システムクロックの精度で時刻を刻むことになり ます。システムクロックの精度には個体差があるため、NTP による時刻補正が行えない場合、システム間での時刻ずれ が拡大し、ミドルウェアやアプリケーションにおいて不具合が発生する可能性があります。

備考

NTP サーバ 1~NTP サーバ 3 は、インターネットまたはイントラネット上の高精度な時刻を持つ NTP サーバです。

6.2.2 NTP サーバの指定

MMBの NTP クライアント機能を利用し、時刻の同期をとる別の NTP サーバを設定します。

注意

MMBの時刻とパーティション側の時刻は、それぞれ独立した時計で管理されています。 MMBの時計は、パーティションの時計への時刻通知・補正は行いません。MMBとパーティションの時刻は、以下の対応で必要になるため、一致もしくは近時に保ってください。

- ハード障害などで MMB 側ログとパーティション上の OS 側ログを突き合わせるとき

- システム監査やセキュリティ監査を実施するとき

- パーティション側の時刻保持バッテリーに異常が発生したとき

MMB の時刻を合わせるには、以下のどちらかを実施してください。

- MMB Web-UI から手動で時刻を合わせる
- MMBの NTP クライアント機能を使って時刻を合わせる

備考

パーティションの時計で NTP を使用しない場合は、OS 上で時刻の設定を行ってください。

■ 操作手順(MMB の NTP 設定)

1. [Network Configuration] - [Date/Time] をクリックします。

→[Date/Time] 画面が表示されます。[Date/Time] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツ ールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.1 [Date/Time] 画面」を参照してください。

Senten Destition Horse A.1	Internal Carl	Maintananaa	Terrent I
System Partition User Add	ate/Time	Maintenance	
Date/Time Network Interface	Date/Time		Refresh Help
Management I AN Port C	Date/ I lille		Trendent Theip
Network Protocols			
Refresh Rate	Click the Apply Button to apply al	I changes.	
	D.		
± SSL	Date	2013 - 4 - 16	
± SSH	Time	☐ Modify the Time	
Remote Server Manageme	Thic	9 <u>:</u> 53 <u>:</u> 26	
Access Control	Time zone	Asia 🗸 / Tokyo 🗸	
🖸 Alarm E-Mail	NTP	○Enable	
	NTP Time Correction Mode	Step Slew	
	NTP Server1		
		,	
	NTP Server2		
	NTP Server3	::	
	Current Sync Status		
		Apply Cancel	^

図 6.3 [Date/Time] 画面例

- 2. [NTP] の[Enable] をクリックします。
- 3. [NTP Time Correction Mode] を選択します。
- 別の NTP サーバの IP アドレスを入力します。
 NTP Server1: Primary NTP サーバを指定します。
 NTP Server2: Secondary NTP サーバを指定します。
 NTP Server3: Other (Tertiary) NTP サーバを指定します。
- 5. [Apply] ボタンをクリックします。 MMB は[NTP Server1] ~ [NTP Server3] に設定した NTP サーバと時刻の同期をとります。
- 6. 数分後、[Refresh] ボタンをクリックし、正しい時刻が表示されることを確認してください。

6.3 DNS サーバの設定

DNS サーバの設定については、「3.3.9 DNS サーバの設定」を参照してください。

6.4 SMTP の設定

SMTP の設定については、「3.3.10 Alarm E-Mail の設定」を参照してください。

6.5 セキュリティの設定

セキュリティを確保するために必要な設定や、運用中に異常が起きたときの通知方法について説明します。運用を考慮 して必要なセキュリティを設定してください。下記の設定が完了したときには、設定情報のバックアップを取ることを 推奨します。設定した情報のバックアップについては「3.7 構成情報の保存」を参照してください。

- 6.5.1 アクセスコントロールの設定
- 6.5.2 SNMP の設定
- 6.5.3 SSH の設定
- 6.5.4 HTTPS の設定

掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

6.5.1 アクセスコントロールの設定

MMBのセキュリティを確保するために、ネットワークプロトコルに対するアクセスコントロールを設定します。セキュリティ確保のため、導入時に設定することを推奨します。導入後に設定することもできます。

■ 編集対象のフィルターの選択

●操作手順

1. [Network Configuration] - [Access Control] をクリックします。

→[Access Control] 画面が表示されます。[Access Control] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリ ーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.10 [Access Control] 画面」 を参照し てください。

System Partition User Administrat	ion Network Configuration Maintenance	Logout
Network Configuration >Access C Date Time Network Interface Masagement LAN Part Configure Network Protocols Refresh Rate SNMP Configuration	Access Control Click Add Filter button to add a new filter. Select a filter from the list then click Edit Remove Filter button to edit or remove the filter.	Help
SSL SSH Remote Server Management Access Control Alorm E-Mail	Select Protocol IP Address Subset Mask Prefix Length O \$SBH 192.168.10.20 255.255.255.0	
	Add Filter Edit Filter Cancel Cancel	

2. ラジオボタンで編集対象のフィルターを選択します。

■ フィルターの追加・編集

●操作手順

- フィルターを追加する場合は[Add Filter] ボタンを、編集する場合は編集対象フィルターを選択し[Edit Filter] ボタンをクリックします。
 →追加の場合は[Add Filter] 画面、編集の場合は[Edit Filter] 画面が表示されます。[Add Filter] 画面および [Edit Filter] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』 (CA92344-1657) 「2.6.10 [Access Control] 画面」の「[Add Filter]/[Edit Filter] 画面」を参照してくださ い。
- System Partition User Administration >Network Configuration >Access Control Date To Add Filter Network Interface Help Management LAN Port Configu Management LAN Port Configu Network Protocols Click the Apply Button to apply all changes. D Refresh Rate SNMP Configuration Protocol SSH 💌 Access Control ⊙ Enable ○ Disable O SSH 192.168.10.30 IP Address Access Control Subnet Mask Prefix Length 255 255 255 0 Apply Cancel
- 図 6.5 [Add Filter] 画面例

2. 必要な項目を入力します。フィルターは最大 64 個設定できます。

備考

PC やワークステーションの Web ブラウザでプロキシ設定をしている場合、指定する IP アドレスはプロキシ 設定を考慮したものにしてください。

3. [Apply] ボタンをクリックします。

■ フィルターの削除

●操作手順

- フィルターを選択して[Remove Filter] ボタンをクリックします。
 →削除確認の画面が表示されます。
- 2. 削除する場合には[OK] ボタンをクリックします。
 →[Access Control] 画面に戻ります。削除されたことをリスト上で確認します。削除を取り消す場合は、
 [Cancel] ボタンをクリックします。

6.5.2 SNMP の設定

Simple Network Management Protocol(SNMP)を設定します。SNMPの設定は、Administrator 権限で実施してください。 運用中に異常が起きたときに外部に通知するかどうか、通知する場合の通知先などを設定します。以下の設定ができます。

- SNMP を有効にする
- SNMPの詳細を設定する
- SNMP トラップの送信先を設定する
- SNMP v3 の設定をする

■ SNMP を有効にする

●操作手順

1. [Network Configuration] - [Network Protocols] をクリックします。

→[Network Protocols] 画面が表示されます。[Network Protocols] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.4 [Network Protocols] 画 面」を参照してください。

図 6.6 [Network Protocols] 画面例

System Partition User Administration Ne	twork Configuration Maintenance		Logout
>Network Configuration >Network Protoco	ls		~
Date/Time			
Network Interface	Network Protocols		Help
IPv4 Interface			
IPv6 Interface	Click the Apply Button to apply all changes.		
Management LAN Port Configuration			
Network Protocols			
Refresh Rate	Web (HTTP/HTTPS)		
SNMP Configuration	HTTP	Enable O Disable	
SSL SSL	HTTP Port#[80,1024-65535]	8081	
Remote Server Management	HTTPS	● Enable ○ Disable	
Access Control	HTTPS Port#[432,443,1024-65535]	432	
Alarm E-Mail	Timeout (sec) [0.60-9999]		
	Telnet		
	Telnet	● Enable ○ Disable	
	Telnet Port#[23,1024-65535]	23	
	Timeout (sec) [0,60-9999]	0	
	SSH		
	SSH		
	SSH Port#[22,1024-65535]	22	
	Timeout (sec) [0,60-9999]	0	
	SNMP		
	SNMP Agent	Enable Disable	
	Agent Port#[161.1024-65535]	161	
	SNMP Trap	● Enable ○ Disable	
	Trap Port#[162,1024-65535]	162	
	<u> </u>		
		Apply Cancel	^
/			×.

- 2. [SNMP] の項目を入力します。
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

備考

SNMP Trap を送信するには、SNMP Agent と SNMP Trap を両方とも Enable にして、ポート番号を設定してください。

■ SNMPの詳細を設定する

●操作手順

[Network Configuration] - [SNMP Configuration] - [Community] をクリックします。
 →[SNMP Community] 画面が表示されます。[SNMP Community] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST
 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.6 [SNMP Configuration]
 メニュー」の「[SNMP Community] 画面」を参照してください。

図 6.7	[SNMP Comn	nunity] 画面例
-------	------------	-------------

SNMP Con	munity				
Click the Apply But	ton to apply all changes				
System Informa	ation				
System Name	PRIMEQUEST				
System Location	1				
System Contact					
Note)System N	ame can be configured	in System->System Information page.			
V02646072-5-5568	5075.0305.0000.000				
Community Community Use	r	IP Address MASK	SNMP	Access	Auth
		1	1.4	Read Only	nearth
1			1 .	Read Only V	Intauth
-			1.0	Read Only	[manufe
			1 4	Read Only	non th
			1.4	Read Only	(nearth
1			1.4	Read Only	(mithight
-			1.	Read Only	ntauth
			1.*	Read Only	Findauth
			1 ~	Read Only	Incauth
			1 -	Read Only	Credith
			1 -	Read Only	(toput)
			1 ~	Read Only	mauch
			1.	Read Only	noauth
1			1.	Read Only 👻	noauth
100			1.	Dead Only	-
				incon only	(DOM INT)
	SNMP Con Click the Apply Bat System Inform: System Name System Location System Contact Note)System N Community Community Use	SNMP Community Click the Apply Button to apply all changes System Information System Name PRIMEQUEST System Contact Note)System Name can be configured Community Community/User	SSMIP Community Click the Apply Button to apply all changes. System Information System Name PRIMEQUEST System Contact	SNMP Community Click the Apply Button to apply all changes. System Information System Name PRINEQUEST System Contact Note/System Name can be configured in System->System Information page. Community User IP Address/MASK Version 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 × 1 ×	SSMP Community Cick the Apply Button to apply all changes. System Information System Name PRIMEQUEST System Contact

必要な項目を入力します。
 最大 16 個の Community を設定できます。設定する Community、アクセスを許す IP アドレス、SNMP バージョン、アクセス権限、認証について入力します。削除する場合は、[Community/User] および[IP アドレス]の項目をクリアします。

3. [Apply] ボタンをクリックします。

■ SNMP トラップの送信先を設定する

●操作手順

[Network Configuration] - [SNMP Configuration] - [Trap] をクリックします。

 →[SNMP Trap] 画面が表示されます。[SNMP Trap] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)」(CA92344-1657)の「2.6.6 [SNMP Configuration]メニュー」の
 「[SNMP Trap] 画面」を参照してください。

System Partition User Administration Network Configuration Maintenance							
>Network Configuration >SNMP Configuration >Trap							
 Date/Time Network Interface Management LAN Port Configura 	SNMP Trap						Help
 Network Protocols Refresh Rate SNMP Configuration 	Click the Apply Button to	Click the Apply Button to apply all changes.					^
Community	Trap Destination						
Trap SNMPv3 Configuration	Community/User	IP Address	SNMP Version	Auth	Auth Type	Auth passphrase Priv passphrase	
 SSL SSH Remote Server Management 			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
 Access Control Alarm E-Mail 			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
		57	1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 🗸		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 V		
			1 🗸	noauth 🗸	MD5 V		Ŷ
>		Apply Cancel	Test	Ггар	-		$\langle \rangle$

図 6.8 [SNMP Trap] 画面例

送信先を入力します。
 最大 16 個までトラップ送信先を設定できます。 コミュニティまたはユーザー名と、トラップ送信先の IP アドレス、SNMP バージョン、および認証レベルを設定します。

 [Apply] ボタンをクリックします。
 [Test Trap] ボタンをクリックすると、現在設定されているトラップ送信先に対してテスト用のトラップを送信 できます。

備考

SNMP Trap を送信するには、[Network Configuration] - [Network Protocols]で、SNMP Agent と SNMP Trap を 両方とも Enable にして、ポート番号を設定してください。

■ SNMP v3 の設定をする

SNMP v3 に固有のエンジン ID およびユーザーを設定します。

備考

エンジン ID または IP アドレスを変更した場合、SNMP v3 アクセス用に設定したユーザーは最初からすべて設定しなお さなければなりません。設定したユーザーを有効にするためには、いったん SNMP サービスを停止させてから再起動す る必要があります。そのため、ここで[Apply] ボタンをクリックした場合、一時的に SNMP サービスが停止します。

●操作手順

 [Network Configuration] - [SNMP Configuration] - [SNMP v3 Configuration] をクリックします。
 →[SNMP v3 Configuration] 画面が表示されます。[SNMP v3 Configuration] 画面について詳しくは 『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.6 [SNMP Configuration]メニュー」の「[SNMP v3 Configuration] 画面」を参照してください。

System Partition User Administration Network Configuration Maintenance Logout					
>Network Configuration >SNMP Configuration >SNMPv3 Configuration					
 Date/Time Network Interface Management LAN Port Configura 	SNMP v3 Configuration			Не	lp
 Network Protocols Refresh Rate SNMP Configuration 	Click the Apply Button to apply all changes.				^
Community Trap	Engine ID				
SSH SSH	User User Name	Auth	Auth passphrase	Priv passphrase Priv passphrase (confirm)	
 Remote Server Management Access Control Alarm E-Mail 		MD5 SHA			
		● MD5 ○ SHA			
		● MD5 ○ SHA			
		● MD5 ● SHA			
		● MD5 ● SHA			
		● MD5 ○ SHA			
		● MD5 ○ SHA			
		● MD5 ○ SHA			
		● MD5 ○ SHA			~
< >>			Apply Cancel		\sim

図 6.9 [SNMP v3 Configuration] 画面例

2. Engine ID を入力します。

3. SNMP v3 ユーザーを入力します。 最大 16 ユーザーまで登録できます。

[Apply] ボタンをクリックします。
 選択したユーザーを反映するために、SNMP サービスが再起動します。

6.5.3 SSH の設定

MMBの SSH を設定します。Administrator 権限で設定できます。

備考

SSH の設定を行う前に SSH サーバが Disable になっていることを確認してください。Enable になっている場合は、 Disable に設定してください。

■ 操作手順

1. [Network Configuration] - [SSH] - [Create SSH Server Key]をクリックします。

→[Create SSH Server Key]画面が表示されます。[Create SSH Server Key]画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「1.6.8 [Create SSH Server Key] 画面」 を参照してください。

System Partition User Administration	Network Configuration Maintenance		Logout
>Network Configuration >SSH >SSH	Server K ey		*
Date/Time Network Interface Management LAN Port Configuration	Create SSH Server Key		Нер
Network Protocols Refresh Rate Refresh Rate	SSH server key status:SSH server key is NOT installed.		
■ SNMP Connguration ■ SSL ■ SSH			
SSH Server Key Remote Server Management Access Control			
🗅 Alarm E-Mail			
		Create SSH Server Key	¢
× /			

図 6.10 [SSH Server Key] 画面例

- [Create SSH Server Key] ボタンをクリックします。
 →プライベートキーが作成されます。作成には数分かかることがあります。作成が完了すると確認ダイアログボック スが表示されます。
- 3. [OK] ボタンをクリックします。
- 4. [Network Configuration] [Network Protocols] をクリックします。
 →[Network Protocols] 画面が表示されます。[Network Protocols] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.4 [Network Protocols] 画面」 を参照

してください。



System Partition User Administration Net	twork Configuration Maintenance		Logout
>Network Configuration >Network Protocol	ls		~
Date/Time			
Network Interface	Network Protocols		Help
IPv4 Interface IPv6 Interface			
Management I AN Port Configuration	Click the Apply Button to apply all changes.		
Network Protocols			
Refresh Rate	Web (HTTP/HTTPS)		
SNMP Configuration	HTTP	Enable Disable	
SSL	HTTP Port#[80,1024-65535]	8081	
SSH	HTTPS	Enable Disable	
Access Control	HTTPS Port#[432 443 1024-65535]	432	
Alarm E-Mail	Timeout (sec) [0.60,0000]		
	Telnet		
	Telnet	● Enable ○ Disable	
	Telnet Port#[23,1024-65535]	23	
	Timeout (sec) [0,60-9999]	0	
	SSH		
	SSH	Enable Disable	
	SSH Port#[22,1024-65535]	22	
	Timeout (sec) [0,60-9999]	0	
	SND ID		
	SNMP Agent	Fnable O Dicable	
	Agant Dort#[161 1024 65525]	161	
	SNM Tree	Ereble Disable	
	Tree Dest#[162.1024.65525]		
	Irap Port#[162,1024-65535]	162	
		Apply Cancel	~
			~ I

- 5. [SSH] の項目を設定します。
- 6. [Apply] ボタンをクリックします。

6.5.4 HTTPS の設定

MMBの HTTPS を設定します。Administrator 権限で設定できます。

HTTPS を[Enable] にするには、有効な SSL 証明書が登録されている必要があります。有効な SSL 証明書が登録されて いない場合に、HTTPS を[Enable] にしようとした場合は、エラー表示されます。有効な SSL 証明書は「認証済み証明書」 または、MMB 画面で生成する「自己署名証明書」を指定してください。

■ 操作手順

1. [Network Configuration] - [Network Protocols] をクリックします。

→[Network Protocols] 画面が表示されます。[Network Protocols] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.6.4 [Network Protocols] 画面」 を参照 してください。



図 6.12 [Network Protocols] 画面例

- 2. [Web(HTTP/HTTPS)]のHTTPSに関する項目を設定します。
- 3. [Apply] ボタンをクリックします。

6.6 スケジュール運転

スケジュール運転については、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「9.3 スケジ ュール運転」を参照してください。

第7章 パーティションの電源投入と切断

ここでは、パーティションの電源投入と電源切断の操作手順について説明します。

7.1 パーティションの電源投入と切断について

パーティションの電源投入と切断について説明します。

- 7.1.1 パーティションの電源投入
- 7.1.2 パーティションの電源切断

なお、パーティションの電源投入と切断は、Administrator、Operator、操作するパーティションの Partition Operator のアカウントで操作できます。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は 異なります。

7.1.1 パーティションの電源投入

パーティションの電源投入の手順を説明します。

■ 操作手順

- 1. MMB Web-UI にログインします。
 - → [MMB Web-UI] 画面が表示されます。
- 2. [Partition] [Power Control] をクリックします。

→ [Power Control] 画面が表示されます。[Power Control] 画面について詳しくは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運 用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.1 [Power Control] 画面」 を参照してください。
System Partition User Adv	ninistra	atiz	n i	Network Config	uration Maint	mance			Logout
>Partition >Power Control	musur	aut	<u>, m</u>	verwork Comig		enance			Logour
Power Control Schedule Console Redirection Setup	Р	' 0 '	we	r Control					Refresh Help
Partition Configuration Extended Socket Configur	Sel	ect	t a P	ower Control op	ption for one of	more partitions, t	hen click the Apply I	outton to take effect.	
Reserved SB Configuration Power Management Setup	1	#	P#	Partition Name	Power Status	System Progress	Power Control	Force Power Off Dela Boot Selector	ay
Partition#0 Information ASR Control		0	-	free	Standby	Power Off	(Not specified)	No Override	~
Console Redirection Mode		1	-	free	Standby	Power Off	(Not specified)		\sim
Partition#1									
						Apply	Cancel		$\hat{}$

図 7.1 [Power Control] 画面例

- 3. 電源を投入するパーティション番号の[Power Control] を[Power On] にし、[Apply] ボタンをクリックします。
- 確認のダイアログボックスが表示されます。実行する場合は[OK] ボタンを、キャンセルする場合は
 [Cancel] ボタンをクリックします。

備考

- パーティションの電源がすでに投入されている場合や、電源が切断されているため指定した制御が失敗した場合は、警告が表示されます。
- 全パーティションの電源を切断した後は、一定時間電源を投入することができません。

7.1.2 パーティションの電源切断

パーティションの電源切断の手順を説明します。

以下のような状態の場合は、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「11.2.9 パー ティション操作時のトラブル」を参照し、内容を確認してください。

- 以下のどちらかを行って、MMB Web-UI(インフォメーション領域)の[Status] が[Error] となった場合
 - パーティションの[Power Off]、[Reset]、または[Force Power Off]
 - OS 上でシャットダウン
- [MMB Web-UI] 画面で各コンポーネントの状態を表示すると、Part Number、Serial Number が「Read Error」 と表示される場合

■ 操作手順

1. MMB Web-UI にログインします。

→ [MMB Web-UI] 画面が表示されます。

2. MMB のメニューから [Partition] - [Power Control] をクリックします。

→ [Power Control] 画面が表示されます。[#] の欄はパーティション番号です。[Power Control] 画面について詳し くは『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「2.4.1 [Power Control] 画面」を参照してください。

図 7.2 [Power Control] 画面例

Sustan Destring Haar Admi	nintro	tion	Naturals Config	wation Maint					Logout
>Partition >Power Control	msu a	uon	Network Coming		enance				Logout
Power Control									
Schedule	P	w	er Control						Refresh Help
Console Redirection Setup									
Partition Configuration	Sele	ecta	Power Control o	ption for one o	r more partitions t	hen click the Apr	olv b	utton to take effect.	
Extended Socket Configuration					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
Reserved SB Configuration		" п	# Destition News	D	S	Deres Control		Force Power Off Dela	ıy
Power Management Setup		# P	# Partition Ivame	Power Status	System Progress	Power Control		Boot Selector	
Partition#0		_		c. *	D 000	(a)		🗌 🗌 📶 min	
□ ASR Control		0 -	free	Standby	Power Off	(Not specified)	~	No Override	~
Console Redirection	ŀ								
🖸 Mode		1 -	free	Standby	Power Off	(Not specified)	~		\sim
Partition#1	L								
					Apply	Cancel			^
									~

3. 電源を切断するパーティション番号の「Power Control」を[Power Off] にし、[Apply] ボタンをクリックします。 →指定したパーティションの電源が切断されます。

備考

OS が ACPI に対応している場合は、[Power Off] を選択すると、OS をシャットダウンしてからそのまま電源を切断でき ます。ただし、OS が ACPI に対応していても OS で動作しているアプリケーションが対応していない場合は、電源を切 断できない場合があります。これは OS およびアプリケーションの仕様によるものです。詳細は OS またはアプリケーシ ョンのマニュアルを参照してください。

OS が ACPI に対応していない場合は、電源切断操作によって、OS をシャットダウンしないで電源を切断することになります。

上記の理由から、パーティションは OS 上でシャットダウンしてください。

付録 A 設定項目の一覧

A.1 MMBの設定項目

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「A.1 MMB Web-UI の設 定項目」を参照してください。

A.2 UEFIの設定項目

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「付録 A UEFI 設定項目の一 覧」を参照してください。

A.3 iRMC の設定項目

『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(MMB)』(CA92344-1657)の「A.2 ビデオリダイレクションの設定項目」および「A.3 ビデオリダイレクション(HTML5)の設定項目」を参照してください。

付録 B 添付ソフトウェアについて

PRIMEQUEST 3000 シリーズに添付されるソフトウェアを以下に示します。

No	名称	Windows	RHEL	SLES	備考
1	DSNAP	0	-	-	
2	ソフトウェアサポートガイド	0	-	-	
3	ServerView Operation Manager(SVOM)				PRIMERGY を含め、複数台のサーバ を集中監視する場合に任意で選択し ます。
4	ServerView Agents	0	0	0	SVOM を使用してサーバを監視する 場合にインストールが必要です。
5	ServerView RAID Manager (SV RAID)				インストール後に RAID の設定を行 う必要がある場合に必要です。 Windows で PCIe-SSD を監視する場 合は、ServerView Agents とともに インストールが必要です。
6	HBA 閉塞機能	-	O	-	
7	ServerView Installation Manager (SVIM)		\bigtriangleup	\bigtriangleup	
8	ServerView Agentless Service (SVAS)	0	0	0	
9	Dynamic Reconfiguration utility	-			Dynamic Reconfiguration 機能を使 用する場合に必要です。
10	富士通 Linux サポートパッケ ージ(FJ-LSP)	_		-	富士通 SupportDesk サービスを使 用する場合に必要です。

◎:インストールが必要です

○:どちらか一つを選択してインストールが必要です

△:必要に応じてインストールします

- :未サポートです

備考

- SVOM を使用してサーバを監視する場合、ServerView Agents のインストールが必要です。
- SVOM で RAID を監視する場合、ServerView Agents と ServerView RAID Manager のインストールが必要です。
- SLES の Dynamic Reconfiguration utility は OS の SupportDesk 契約に基づき提供致します。

付録 C SAN ブート環境の構築

SAN ブート環境の構築については『PRIMEQUEST 3000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』を参照してください。

付録 D VMware インストール時の留意事項

ここでは、内蔵 HDD/SSD に RAID 環境を構築している場合の VMware vSphere のインストールおよびインストール時の留意事項について説明します。以降、VMware vSphere を VMware と表記します。

D.1 VMware 内蔵ディスクでの RAID 環境の構築

PRIMEQUEST 3000 シリーズでは、内蔵 HDD/SSD で RAID 0、RAID 1、RAID 1E、RAID 5、RAID 6、RAID 10、RAID 50 をサポートします。内蔵 HDD/SSD での RAID 環境の構築について詳しくは以下のドキュメントを参照してください。

- SAS アレイコントローラが PRAID EP420i (D3216), EP420e, EP540i, EP580i, EP540e の場合 LSI MegaRAID SAS 12G Software

D.2 VMware 添付ソフトウェアのインストール

添付ソフトウェアは『ServerView Suite DVD2』に格納されています。『ServerView SuiteDVD2』からファイルをコピー して使用します。なお、VMware vShpere に必要な添付ソフトウェアは以下のとおりです。

表 D.1 VMware 添付ソフトウェアのインストール

添付ソフトウェア	インストール先
ServerView ESXi CIM Provider	VMware ESXi

D.3 Address Range Mirror の設定

VMware vSphere 6.5 以降は Address Range Mirror に対応しています。Address Range Mirror は UEFI メニューから 設定します。詳細な設定方法は、『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理ツールリファレンス(UEFI)』(CA92344-1658)の「2.2.4 [Memory Configuration] メニュー」を参照してください。

付録 E NTP サーバの指定および設定 (Windows)

ここでは、NTP サーバの指定および設定について、Windows OS ごとに説明します。Windows のワークグループ環境 の場合、OS の標準値では時刻同期の周期が長すぎるため、NTP サーバの指定および設定が必要となります。 Active Directory 環境の場合は、自動的にドメインコントローラと時刻同期が行われますので、本付録の設定を行う必要 はありません。

E.1 NTP 設定の概要

ここでは、以下の OS において、NTP サーバとの時刻同期方法について説明します。

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2

備考

PRIMEQUEST 3000 シリーズは、Home SB にパーティションの時刻が保持されています。そのため Reserved SB 機能 や、SB の保守交換によって Home SB が切り替わった際に、パーティションのシステム時刻がずれる可能性があります。 時刻のずれがすぐに修正されるように、以下の設定を行ってください。

設定項目	設定内容
NTP サーバの指定	コントロールパネルの[日付と時刻] から、同期先の NTP サーバを設定します。
時刻同期間隔の設定	15 分間隔で時刻同期が行われるように、レジストリエディターを使用して以
	下のレジストリ値を設定します。
	HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\ CurrentControlSet\Services\W32Time\ TimeProvide
	rs\NtpClient*HKEY_LOCAL_MACHINE から NtpClient は 1 行。
	名前:SpecialPollInterval 種類:REG_DWORD データ:900(10 進数)
サービスの起動設定	[コンピュータの管理]の[サービスとアプリケーション] - [サービス] から、Windows
	Time サービスが自動起動するように設定を行います。
イベントタスクの設定	NTP サーバから時刻が取得できたとき、必ずシステム時刻に反映されるように
	タスクスケジューラに以下のように登録します。対象:"システムログ"、ソース:
	"Time-Service" ID:37 が記録されたとき、"w32tm /resync"コマンドを実行する

表 E.1 時刻ずれ対策のための設定

詳細な手順は、以下を参照してください。

[E.2 Windows Server 2022/2019/2016の設定手順] [E.3 Windows Server 2012 R2の設定手順]

なお、Windows Server 2016 以降は、従来の OS に比べて短い間隔で時刻同期が行われるように標準値が変更されました。しかし、NTP サーバの指定を変更した場合、時刻同期間隔が長くなる仕様になっています。設定変更後も時刻同期

間隔を短くするには、NTP サーバの指定にあわせて時刻同期間隔も設定する必要があります。

E.2 Windows Server 2022/2019/2016の設定手順

以降の手順は、管理者権限のあるユーザーで行ってください。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

E.2.1 NTP サーバの指定

1. スタートメニューの[コントロールパネル] - [日付と時刻の設定] を選択し、[日付と時刻] 画面を開きます。

📸 日付と時刻	×
日付と時刻 追加の時計 インターネット時刻	
日付: 2021年6月23日 時刻:	
9:55:18 9:55:18 タイムゾーン	
(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京 タイムゾーンの変更(Z)	
このタイム ゾーンでは夏時間は実施されていません。	
OK キャンセル 適用(A	.)

図 E.1 [日付と時刻]画面(1)

2. [インターネット時刻] タブの[設定の変更] ボタンをクリックします。

図 E.2 [日付と時刻]画面(2)

💣 日付と時刻	nder Gelene - Gelene, March, der Belerne stellene Selden.	×
日付と時刻 追加の時計 イ	ンターネット時刻	
'time.windows.com'と自動	的に同期するように設定されています。	
次回の同期: 2021/06/23 10:	08	
time.windows.comと同期の	中にエラーが発生しました。ビアは解決されていません。	
	●設定の変更(C)]
	OK キャンセル 適用(A)	

[インターネット時刻設定] ダイアログボックスで、以下のように設定します。
 インターネット時刻サーバと同期する:チェックボックスをオン
 サーバー:NTP サーバを指定

図 E.3 [インターネット時刻設定] 画面

📸 インターネット時刻設定		×
インターネット時刻設定を構成します:		
☑ インターネット時刻サーバーと同期する(S)		
サーバー(E):	~	今すぐ更新(U)
時計は正常に 2021/06/23 9:57 に	と同期	しました。

- 4. [OK] ボタンをクリックして、[インターネット時刻設定] ダイアログボックスを閉じます。
- 5. [OK] ボタンをクリックして、[日付と時刻] 画面を閉じます。

E.2.2 同期間隔およびサービス起動の設定

1. スタートメニューの[Windows を検索]に「regedit」と入力し、レジストリエディターを起動します。

図 E.4	[レジストリエディター]	選択画面
-------	--------------	------

	ø						
最も一致する	検索結果						
酸 レジ アプ!	ストリ エディク	7-					
,∕⊂ regedi	ł		Ħ	0		9 個	

2. 以下のレジストリ値を設定します。 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\W32Time\TimeProviders\NtpClient

名前:SpecialPollInterval、種類:REG_DWORD、データ:900(10 進数)

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ヘルブ(H) コンピューター¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥W32Time¥Time volmgrx ヘ volsnap ヘ volsnap ヘ volme へ volme へ volme へ volme へ volme へ volme へ volme volme v	eProviders¥NtpClient 頁 データ 5_SZ (値の 5_DWORD 0x00	7 0設定なし)
コンピューター¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥W32Time¥Time volmgrx volsnap volsnap volume vpri vsmraid VSS VSTXRAID vwifbus vwifbus vsmraid vSS VSTXRAID vwifbus vsmraid vSS VSTXRAID vwifbus vibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibus vmibu	eProviders¥NtpClient 夏 データ ら_SZ (値の ら_DWORD 0x00	7 D設定なし)
volmgrx ◆ 名前 種類 volsnap ◆ (原定) REG volume ◆ (限定) REG vpri ● (限定) REG vsmraid ● (R定) REG vSS ● ○ ○ ○ vsifbus ● ● ● ● vwifbus ● ● ● ● ● Onnig ● ● ● ● Parameters ● ● ● > SecureTimeLimits ● ● ● ● SignatureAuthAllowed REG	頁 データ 5_SZ (値の 5_DWORD 0x00	7 D設定なし)
- NtpClient - NtpServer - NtpServer - NtpServer - NtpServer - NtpServer - NtpServer - WaSMedicSvc - WasMedicSvc - WaletService wanarp	5_DWORD 0x80 5_DWORD 0x00 5_EXPAND_SZ %sys 5_DWORD 0x00 5_DWORD 0x00	0000001 (1) 0000000 (2147483648) 0000002 (2) stemroot%¥system32¥w32t 0000001 (1) 0000001 (1) 0000007 (7) 0000007 (7) 0000007 (15) 0000001 (1) 0000001 (1) 0000084 (900) windows.com,0
Wanarpvo		

図 E.5 [レジストリエディター] 画面

3. レジストリエディターを終了します。

4. スタートメニューの[Windows 管理ツール] - [サービス] を起動します。

🔍 サービス						- 0	\times
ファイル(F) 操作(A)	表示(V) ヘルプ(H)						
(+ -> 📰 🖾 🖸	à 🛃 🚺 📷 🕨 🔲 II 🕪						
🤍 サービス (ローカル)	○ サービス (ローカル)						
	Windows Time	名前 ^	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン	^
	and the second se	🥋 Windows Insider サービス	Window		無効	Local System	
	サービスの停止	Windows Installer	Window		手動	Local System	
	サービスの共起動	Windows Management Inst	オペレーテ	実行中	自動	Local System	
		Windows Media Player Net	ユニバーサ		手動	Network Service	
	説明:	Windows Modules Installer	Window		手動	Local System	
	ネットワーク上のクライアントとサーバーの日 時の同期を維持します。このサービフを信い	Windows Push Notification	このサービ	実行中	自動	Local System	
	すると、日時の同期は行われなくなります。	🥋 Windows PushToInstall サー	Microsof		無効	Local System	
	このサービスを無効にすると、このサービスに	🏟 Windows Remote Manage	Window	実行中	自動	Network Service	
	依存しているサービスは起動できなくなりま	🖏 Windows Search	ファイル、		無効	Local System	
	9.	🖏 Windows Time	ネットワー	実行中	自動 (トリガー開始)	Local Service	
		🍓 Windows Update	Window	実行中	手動 (トリガー開始)	Local System	
		🍓 Windows Update Medic Ser	Window		手動	Local System	
		🧠 Windows カメラ フレーム サーバー	複数のク		手動 (トリガー開始)	Local Service	
		🔍 Windows カメラ フレーム サーバ	Window		手動 (トリガー開始)	Local System	
		🤐 Windows セキュリティ サービス	Window		手動	Local System	
		🧠 Windows プッシュ通知システム	このサービ	実行中	自動	Local System	
		🤐 Windows ライセンス マネージャ	Microsof	実行中	手動 (トリガー開始)	Local Service	
		WinHTTP Web Proxy Auto	WinHTT	実行中	手動	Local Service	
		🔍 Wired AutoConfig	Wired A		手動	Local System	
		🍓 WMI Performance Adapter	Window		手動	Local System	
		Workstation	SMB プロ	実行中	自動	Network Service	~
		<					>

図 E.6 [サービス] 画面

5. [Windows Time] サービスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ] を選択します。

6. [Windows Time のプロパティ] 画面で、[スタートアップの種類] を[自動(遅延開始)] に設定します。

図 E.7 [Windows Time のプロパティ] 画面

主般	ログオン	回復	依存闄係	
サービ	ス名:	W	2Time	
表示	名:	Wi	idows Time	
説明:		ネッキャー	トワーク上のクライアントとサーバーの日時のド このサービスを停止すると、日時の同期は、 このサービスを無効にオスレーズのサービスに	司期を維持し へ 行われなくなり く
実行	ファイルのパン	λ:		
C:¥W	/indows¥sy	stem32	svchost.exe -k LocalService	
スター 種類(トアップの (E):	Ē	勆 (遅延開始)	~
サービ	スの状態:	実行	īΦ	
	開始(S)		停止(T) 一時停止(P)	再開(R)
220	サービスを開	始すると	きに適用する開始パラメーターを指定してくださ	ξU.,
開始」	パラメーター(M):		

- 7. W32Time サービスが停止している場合は、[開始] ボタンをクリックします。W32Time サービスがすでに開始している場合は、[停止] ボタンをクリックして一度停止状態にしてから、[開始] ボタンをクリックします。
- 8. [OK] ボタンをクリックして[Windows Time のプロパティ] 画面を閉じます。

E.2.3 イベントタスクの設定

1. スタートメニューの[Windows 管理ツール] - [タスクスケジューラ] を起動します。

🕑 タスク スケジューラ			– 🗆 X
ファイル(F) 操作(A) 表示(V)	ヘルプ(H)		
🗢 🔿 🗖 🔽 🗖			
タスクスケジューラ (ローカル)	タスクスケジューラの要約(最終更新日時: 2017/01/13 11:58:59)		操作
	タスクの状態・		■ すべてのタスク履歴を有効にする
	次の期間に開始したタスクの状態: 過去 24 時間以内 ~		AT サービスのアカウントの構成
	要約:合計 0 - 実行中 0、成功 0、停止 0、失敗 0		表示 🕨
			 ・ ・ ・
			R NJJ
	<i>Pクティブなタスク</i> - - - - - - - - - - - - -	≻ fi	

図 E.8 [タスクスケジューラ] 画面

2. 右の [操作] ペインから、[基本タスクの作成] を選択し、[基本タスクの作成ウィザード] を開きます。

3. [基本タスクの作成ウィザード] 画面で、[名前] に任意のタスク名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。例) 画面では名前を ntp-sync としています。

図 E.9 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(基本タスクの作成)

基本タスクの作成ウィザード		×
1 基本タスクの作成		
基本タスクの作成 トリガー 操作 完了	このウィザードでは、よく使うなスクをすばやくスケジュールします。複数のタスク対衆作ややりガーなどの語 ョンや設定は、時来作1 ペインの [なスクの作成] コマンドを使ってください。 名前(A) [ntp-sync] 説印用(D):	£細オプシ
	< 戻る(B) 次へ(N) > キ	ャンセル

4. [タスクトリガー] 画面で、[特定イベントのログへの記録時] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

図 E.10 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(タスクトリガー)

基本タスクの作成ウィザード	X
値 タスク トリガー	
基本タスクの作成 <mark>トリカー</mark> イベントのログへの記録時 操作 完了	 いつなスクを開始しますか? 毎日(D) 毎週(W) 毎月(M) 1回取り(O) コンピューターの起動時(H) ログオン時(L) 特定イベントのログへの記録時(E)
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[特定イベントのログへの記録時] 画面が開きます。以下のように指定します。
 ログ:システム
 ソース: Time-Service
 ID: 37

図 E.11 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(特定イベントのログへの記録時)

基本タスクの作成ウィザード		>	×
100 特定イベントのログへ	の記録時		
基本タスクの作成 トリガー イベントのログへの記録時 操作 完了	ログ(0): ソース(S): イベント ID(T):	ジステム ~ Time-Service ~ 37] < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル	

- 6. [次へ] ボタンをクリックします。
- 7. [操作] 画面で、[プログラムの開始] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

図 E.12 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(操作)

基本タスクの作成ウィザード		×
🕑 操作		
基本タスクの作成 トリガー イベントのログへの記録時	タスクでどの操作を実行しますか?	
操作	● プログラムの開始(T)	
完了	○ 电子メールの送信 (非推奨)(S)	
	○ メッセージの表示 (非推奨)(M)	
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセ	L

[プログラムの開始] 画面で、以下のように指定します。
 プログラム/スクリプト:%SystemRoot%\System32\w32tm.exe
 引数の追加(オプション):/resync

図 E.13 [基本タスクの作成ウィザード] 画面 (プログラムの開始)

基本タスクの作成ウィザード				×
迿 プログラムの開始				
甘ナカフカホルに式				
基本ウスクリカFDX				
	709567X997F(P):			
イベントのロクへの記録時	%SystemRoot%¥System32¥w32tm.exe		参照	(R)
操作	引数の追加 (オプション)(A):		/resync	
ノロクラムの開始				
元了				
		=7.00		العام ال
		< 戻る(B)	/(N) >	キャンセル

- 9. [次へ] ボタンをクリックします。
- 10. [要約] 画面で、[[完了] をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ] ダイアログを開く] チェックボックスを オンにします。

基本タスクの作成ウィザード		×
1 要約		
基本タスクの作成		
トリガー	名前:	ntp-sync
イベントのログへの記録時	■見 ¹ 日月:	
操作		
プログラムの開始		
完了		
	トリガー:	イベント時, イベント時 - ログ: System、ソース: Microsoft-Windows-Time-Service、イベン
	操作:	プログラムの開始; %SystemRoot%¥System32¥w32tm.exe /resync
	☑ 庑7	「」をクリックしたときに、このタスクの「プロパティ」 ダイアログを開く
	[完了] 7	をクリックしたときに、新しいタスクが作成され、Windows スケジュールに追加されます。
		< 戻る(B) 完了(F) キャンセル

図 E.14 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(要約)

11. [完了] ボタンをクリックします。

12. [プロパティ] ダイアログボックスで、[ユーザーまたはグループの変更] ボタンをクリックします。

🕒 ntp-sync ගැ	プロパティ (ローカル コンピューター)	×
全般 トリガー	· 操作 条件 設定 履歴(無効)	
名前(M):	ntp-sync	
場所:	¥	
作成者:	=¥Administrator	
┋党8月(D):	1	
⊢セキュリティ オ:	プション	
タスクの実行問	時に使うユーザー アカウント:	
Administrato	or ユーザーまたはグループの変更(U)	
🖲 ユーザーが	バログオンしているときのみ実行する(R)	
○ ユーザーが	バログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)	
🗌 パスワー	ドを保存しない(P) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)	
□ 最上位の	特権で実行する(1)	
□ 表示しない((E) 構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008	\sim
	OK +++>	セル

図 E.15 [プロパティ] ダイアログボックス

13. [ユーザーまたはグループの選択] 画面が開きます。 以下のように指定します。 選択するオブジェクト名を入力してください: System

図 E.16 [ユーザーまたはグループの選択] 画面

ユーザー または グループ の選択	×
オブジェクトの種類の選択(S): ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種類(O)
場所の指定(F):	
	場所(L)
選択するオブジェクト名を入力してください (例)(<u>E</u>):	
SYSTEM	名前の確認(C)
詳細設定(A)	キャンセル

14. [OK] ボタンをクリックします。

15. [OK] ボタンをクリックして[プロパティ] ダイアログボックス画面を閉じます。

E.3 Windows Server 2012 R2の設定手順

以降の手順は、管理者権限のあるユーザーで行ってください。 掲載している画面はすべて表示例であり、システム構成などによって表示される内容は異なります。

E.3.1 NTP サーバの指定

1. スタートメニューの[コントロールパネル] - [日付と時刻の設定] を選択し、[日付と時刻] 画面を開きます。

ŕ	日付と時刻 ×
日付と時刻道加の時計(1)	少-ネット時刻 日付: 2012年9月24日 時刻: 14:28:51
タイム ソーン (UTC+09:00) 大阪、札幌、 このタイム ソーンでは夏時間(東京 タイム ソーンの変更(Z)… ま実施されていません。
	OK キャンセル 道用(A)

図 E.1 [日付と時刻] 画面(1)

2. [インターネット時刻] タブの[設定の変更] ボタンをクリックします。

図 E.2 [日付と時刻] 画面(2)

ピアン 日付と時刻	×
日付と時刻 追加の時計 インターネット時刻	
と自動的に同期するように設定されています。	
設定されているスケジュールに従って自動的に同期するように設定されてい	~ます。
1 設定の変更	E(<u>c</u>)
	通用(<u>A</u>)

[インターネット時刻設定] ダイアログボックスで、以下のように設定します。
 インターネット時刻サーバと同期する:チェックボックスをオン
 サーバー:NTP サーバを指定

図 E.3 [インターネット時刻設定] 画面

ゴインターネット時刻	N設定 ×
インターネット時刻設定を構成します:	
✓インターネット時刻サーバーと同期する(S)	
サーバー(<u>E</u>):	✓ 今すぐ更新(U)
時計は正常に 2012/10/05 14:20 に	と同期しました。
	0к キャンセル

- 4. [OK] ボタンをクリックして、[インターネット時刻設定] ダイアログボックスを閉じます。
- 5. [OK] ボタンをクリックして、[日付と時刻] 画面を閉じます。

regedit

E.3.2 同期間隔およびサービス起動の設定

1. スタートメニューの[検索]に「regedit」と入力し、レジストリエディターを起動します。

		1	
プリ	"regedit " の結果	検索 ^{アプリ}	

regedit

עלד 🕎

設定

ファイル

Internet Explorer

図 E.4 [レジストリエディター] 選択画面

2. 以下のレジストリ値を設定します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\W32Time\TimeProviders\NtpClient

名前:SpecialPollInterval、種類:REG_DWORD、データ:900 (10 進数)

B)		レジストリ エディター		_ 🗆 X
77+11/(F)	編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ヘルプ(- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・) 名前 ④(既定) ○AllowNonstandardModeC ○CompatibilityFlags ○CrossSiteSyncFlags ●DIName ■Enabled ■EventLogFlags ■InputProvider ■LargeSampleSkew ■ResolvePeerBackoffMax ■ResolvePeerBackoffMax ■ResolvePeerBackoffMinu ■ResolvePeerBackoffMinu	程頃 程長_SZ REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD REG_DWORD	データ (値の設定なし) 0x00000001 (1) 0x80000000 (21474 0x00000002 (2) %systemroot%¥sy: 0x00000001 (1) 0x00000001 (1) 0x00000001 (1) 0x00000003 (3) 0x00000007 (7) 0x00000007 (15) 0x00000000 (0)
	▶ - J Wanarp ▶ - J Wanarpv6 ▶ - J WcsPlugInService	BignatureAuthAllowed	REG_DWORD REG_DWORD REG_MULTI_SZ	0x00000001 (1) 0x00000384 (900) time.windows.com

図 [5 [」、ジフ トリエディター] 両面

- 3. レジストリエディターを終了します。
- 4. スタートメニューの[管理ツール] [サービス] を起動します。

図 E.6 [サービス] 画面

Q,			サービス	ζ			x
ファイル(E) 操作(A)	表示(Y) ヘルプ(日)						
♦ ➡ 🖬 🗎 Q	🗟 🛃 🖬 🕨 🖩 🕸 🖬						
🔍 サービス (ローカル)	名前 🔺	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン		^
	🔍 Windows Firewall	Win	実行中	自動	Local		
	🍳 Windows Font Cache Se	共通	実行中	自動	Local		
	🔍 Windows Installer	Win		手動	Local		
	🔍 Windows Licensing Moni	この	実行中	自動	Local		
	🔍 Windows Management I	オペ	実行中	自動	Local		
	🔍 Windows Modules Installer	Win		手動	Local		
	🔍 Windows Remote Manag	Win	実行中	自動	Netw		
	🔍 Windows Store Service (Win		手動 (トリガー開始)	Local		
	😋 Windows Time	ネット	実行中	自動 (トリガー開始)	Local		
	🍳 Windows Update	Win		手動	Local		
	🔍 WinHTTP Web Proxy Aut	Win		手動	Local		
	🔍 Wired AutoConfig	Wir		手動	Local		
	🔍 WMI Performance Adapter	Win		手動	Local		≡
	🔍 Workstation	SM	実行中	自動	Netw		\sim
	∖拡張〉標準						

5. [Windows Time] サービスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ] を選択します。

6. [Windows Time のプロパティ] 画面で、[スタートアップの種類] を[自動(遅延開始)] に設定します。

図 E.7	[Windows Time のプロパティ]	画面
-------	-----------------------	----

(ローカ	ルコンピューター) Windows Time のプロパティ
全般 ログオン	回復(依存関係)
サービス名:	W32Time
表示名:	Windows Time
説明:	ネットワーク上のクライアントとサーバーの日時の同期を維持し ^ ます。このサービスを停止すると、日時の同期は行われなくなり >
実行ファイルのパス C:¥Windows¥s	: ystem32¥svchost.exe -k LocalService
スタートアップの 種類(E):	自動 (遅延開始) >
サービスのスタートフ	ヘップオプションの構成の詳細を表示します
サービスの状態:	停止
開始(S)	停止(T) —時停止(P) 再開(R)
ここでサービスを開か 開始パラメーター(N	皆するときに適用する開始パラメーターを指定してください。 ∥):
	OK キャンセル 適用(A)

- 7. W32Time サービスが停止している場合は、[開始] ボタンをクリックします。W32Time サービスがすでに開始して いる場合は、[停止] ボタンをクリックして一度停止状態にしてから、[開始] ボタンをクリックします。
- 8. [OK] ボタンをクリックして[Windows Time のプロパティ] 画面を閉じます。

E.3.3 イベントタスクの設定

1. スタートメニューの[管理ツール] - [タスクスケジューラ] を起動します。

0	タスク スケジューラ		_ 0 ×
ファイル(F) 操作(A) 表示(V)	∧ <i>lJ</i> (H)		
7771((*) 1841(*) 60.(1) (*) 40.(1) (*) 470.2752-5 (0-700) (*) 470.2752-5 (200 2002-00度的 (最終 目前日日 2012/02/4 152310) タスク スケジューラの概要 ・	E	 タスク スケジューラ (□ーカル) 別のコンピューターへ接続 別のコンピューターへ接続 タスクの作成 タスクの作成 タスクの作成 タスクの作成 タスクの作成 タスクの作成 マスでのすべんのクスクの作成 マスでのケスペート 家行中の多スでのタスクの表示 マイへのタスク爆然を有効にする AT リービスのアカットの構成 最新の情報に更新
	タスク名 第行結果 第行法 第合 第目 アクティブなタスク • アクティブなタスク • アクティブなタスク • アクティブなり、 ・ ・ 第目 ・ ・ ・ 第目 ・ ・ 第目 ・ ・ ・ 第目 ・ ・ ・ 第目 ・ 1 第目 第目 ・ 1 第目 第目 ・ ・ 1 第目 第目 第目 第目 ・ 1 第目 1 第目		☑ ∧u,7

図 E.8 [タスクスケジューラ] 画面

2. 右の [操作] ペインから、[基本タスクの作成] を選択し、[基本タスクの作成ウィザード] を開きます。

[基本タスクの作成ウィザード] 画面で、[名前] に任意のタスク名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
 例) 画面では名前を ntp-sync としています。

	基本タスクの作成ウィザード	x
1 基本タスクの作成		
<u>基本タスクの作成</u> トリガー 操作 完了	このウィザードでは、よく使うタスクをすばやくスケジュールします。複数のタスク操作やトリガーなどの詳細オ ョンや設定は、目操作目、ペインの「クスクの作成」コマンドを使ってください。 名前(点) [ntp=sync] 説明(D)	Ĵ
	< 戻る(B) 次へ(M) > キャンt	216

図 E.9 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(基本タスクの作成)

4. [タスクトリガー] 画面で、[特定イベントのログへの記録時] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

図 E.10 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(タスクトリカ	<i>т</i> —)

	基本タスクの作成ウィザード
10 タスク トリガー	
基本タスクの作成 トリガー イベントのログへの記録時 操作 完了	 (いつタスクを開始しますか? 毎日(D) 毎週(W) 毎月(M) 1回取り(Q) コンピューターの起動時(H) ログオン時(L) ログオン時(L) ● 特定イベントのログへの記録時(E)
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- [特定イベントのログへの記録時] 画面が開きます。以下のように指定します。
 ログ:システム
 ソース: Time-Service
 ID:37
 - 図 E.11 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(特定イベントのログへの記録時)

- 6. [次へ] ボタンをクリックします。
- 7. [操作] 画面で、[プログラムの開始] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

図 E.12 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(操作)

	基本タスクの作成ウィザード	x
🙋 操作		
基本タスクの作成 トリガー イベントのログへの記録時 <mark>操作</mark> 完了	タスクでどの操作を実行しますか? ● プログラムの開始① ● 電子メールの送信 (非推奨)(2) ● メッセージの表示 (非推奨)(<u>M</u>)	
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャン	121L

[プログラムの開始] 画面で、以下のように指定します。
 プログラム/スクリプト: %SystemRoot%\System32\w32tm.exe
 引数の追加(オプション): /resync

図 E.13 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(プログラムの開始)

	基本タスクの作成ウィザート	٩		x
🧑 プログラムの開始				
基本タスクの作成 トリガー イベントのログへの記録時 操作 プログラムの開始 完了	プログラム/スクリプト(<u>P</u>): %SystemRoot%#System32¥w32tm.exe 引数の追加 (オプション)(<u>A</u>): 開始 (オプション)(<u>T</u>):		参照(B) /resync	
		< 戻る(B)	次へ(1) > 「キャ:	ンセル

- 9. [次へ] ボタンをクリックします。
- 10. [要約] 画面で、[[完了] をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ] ダイアログを開く] チェックボックスを オンにします。

		其本タスクの作成ウィザード ×
1 要約		
基本タスクの作成 トリガー イベントのログへの記録時 操作 プログラムの開始 完了	名前: 説明:	ntp-sync
	トリガー: 操作: ☑ 院7 院7]を	イベント時、イベント時 - ログ: System、ソース: Microsoft-Windows-Time-Service、イベン プログラムの開始: %SystemRoot%FSystem32¥w32tm <i>exe /resync</i>] をクリックしたときに、このタスクの「プロパティ] ダイアログを開く とクリックしたときに、新しいタスクが作ら成され、Windows スケジュールに2追加されます。
		< 戻る(B) 完了(E) キャンセル

図 E.14 [基本タスクの作成ウィザード] 画面(要約)

11. [完了] ボタンをクリックします。

12. [プロパティ] ダイアログボックスで、[ユーザーまたはグループの変更] ボタンをクリックします。

•	ntp-sync のプロパティ (ローカル コンピューター)
全般 川ガー 名前(M):	操作 条件 設定 履歴(無効)
場所:	¥
作成者:	SV11¥Administrator
፤党 ⁸ 用(<u>D</u>):	
セキュリティ オフ タスクの実行時	がション
SV11¥4	Administrator ユーザーまたはグループの変更(U)
 ・ ユーザーが ・ ユーザーが ・ ユーザーが ・ パスワー 	ログオンしているときのみ実行する(E) ログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W) ドを保存しない(E)(タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)
□ 最上位の特	寺権で実行する(1)
□ 表示しない()	E) 構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008 ✓
	OK キャンセル

図 E.15 [プロパティ] ダイアログボックス

13. [ユーザーまたはグループの選択] 画面が開きます。 以下のように指定します。 選択するオブジェクト名を入力してください: System

図 E.16 [ユーザーまたはグループの選択] 画面

選択 ? ×
オブジェクトの種類(0)
場所(<u>L)</u>
名前の確認(<u>C</u>)
0K ====

14. [OK] ボタンをクリックします。

15. [OK] ボタンをクリックして[プロパティ] ダイアログボックス画面を閉じます。

付録 F HII Configuration Utility の起動方法

ここでは、HII Configuration Utilityの起動方法について説明します。

備考

- Legacy モードでは、PRAID EP400i/EP420i/EP420e に対して HII Configuration Utility を使用できません。
 Legacy モードで PRAID EP400i/EP420i/EP420e の設定を行う場合は、Ctrl-R Utility を使用します。Ctrl-R
 Utility の起動方法は、"付録 H Ctrl-R Utility の起動方法"を参照してください。
- PRAID EP540i/EP580i/EP540e の設定には、Legacy モードでも HII Configuration Utility を使用します。
 Legacy モードで HII Configuration Utility を使用する場合、本章の手順を実施する前に、Launch Storage
 OpROM policy を UEFI Only に設定してください。設定方法は、" 5.10 PRAID EP540i/EP580i/EP540e の設定"
 を参照してください。

F.1 HII Configuration Utility の起動手順

HII Configuration Utility の起動手順を説明します。

1. UEFI メニューの[Configuration]メニューを表示します。

図 F.1 [Configuration]メニュー

Onboard Devices Configuration	e.th
 PCI Subsystem Configuration CPU Configuration Memory Configuration SATA Configuration CSM Configuration USB Configuration Super IO Configuration UEFI Network Stack Configuration Power Configuration iSCSI Configuration Driver Health 	
 sadump Configuration Network Device List 	

2. [Configuration]メニューで HII Configuration Utility を起動したいアレイコントローラを選択することで起動します。

備考

パーティション内に同じ SAS アレイコントローラを複数枚搭載している場合、[Configuration]画面では、それらが 同じ項目で表示されます。この場合、[Configuration]画面に表示されている各 SAS アレイコントローラの搭載位置 を順に確認して、設定対象の SAS アレイコントローラを特定します。[Configuration]画面に表示される SAS アレイ コントローラの搭載位置の確認方法については「F.2 SAS アレイコントローラの搭載位置確認方法」を参照して ください。

	図 F.2	[Confic	[uration]	メニ	<u>л</u> —
--	-------	---------	-----------	----	------------

Information Configuration Security Boot Exit <f1:help></f1:help>
 Onboard Devices Configuration PCI Subsystem Configuration
 CPU Configuration Memory Configuration
 SATA Configuration CSM Configuration
 USB Configuration Super ID Configuration
 UEFI Network Stack Configuration Deven Configuration
 Fower configuration iSCSI Configuration
▶ Driver Health
 sadump Configuration LSI MegaRAID <praid ep420i=""> Configuration Utility - 03.11.08.02</praid>

F.2 SAS アレイコントローラの搭載位置確認方法

[Configuration]画面に表示される SAS アレイコントローラの搭載位置確認方法について説明します。 1. UEFI メニューから [Configuration] メニューを選択します。

図 F.3 [Configuration]メニュー

Information Configurat:	ion Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
 Onboard Devices Configuration PCI Subsystem Configuration CPU Configuration Memory Configuration SATA Configuration CSM Configuration USB Configuration Super IO Configuration UEFI Network Stack Configuration 	ation ion		<u> 1717</u>	(11)OAP
► ISUSE Configuration ► Driver Health				
 ▶ sadump Configuration ▶ LSI MegaRAID <praid ep42<="" li=""> ▶ Network Device List </praid>	20i> Configurat	tion Uti	lity - (03.11.08.02

2. [Configuration]メニューで搭載位置を確認したい SAS アレイコントローラを選択します。 HII Configuration Utility [Main menu] 画面が表示されます。



図 F.4 [Configuration] メニュー

3. HII Configuration Utility [Main Menu]画面で [Controller Management] を選択します。

LSI MegaRAID <PRAID EP420i> Configuration Utility - 03.11.08.02

図 F.5 HII Configuration Utility [Main Menu] 画面

Information	Configuration	Security	Boot	Exit	<f1:help></f1:help>
▶ Configuration	on Management				
▶ Controller	lanagement				
▶ Virtual Driv	ve Management				
🕨 Drive Manage	ement				
▶ Hardware Cor	nponents				

HII Configuration Utility [Controller Management]画面で、スロット番号を確認します。
 スロット番号は、HII Configuration Utility [Controller Management]画面の PCI Slot Number の行に表示されます。
 下図の例では、スロット番号は 17 です。

このスロット番号が0以外のときは、スロット番号から搭載位置を特定できます。 スロット番号と搭載位置の対応は『PRIMEQUEST 3000 シリーズ運用管理マニュアル』(CA92344-1656)の「D.2 PCI Express スロット実装位置とスロット番号の対応」を参照ください。

下図の例では、SAS アレイコントローラのスロット番号は 17 であり、実装位置は DU#1 となります。

Information	Configuration	Security	Boot	Exit		<f1:help></f1:help>
BASIC PROPER	RTIES:					
Product Name	e .	PI	RAID EP	420 i		
Serial Numbe	er	00	000000	4607912	2	
Controller S	Status	<(]ptimal	>		
Select Boot	Device	1>	lone>			
PCI ID		0>	(100010)	x005D10	x173410x1212	
PCI Slot Num	nber	17	2			
Package Vers	sion	24	1.7.0-0	061		
Firmware Ver	rsion	4.	270.00	-4869		
NVDATA Versi	ion	3.	.1411.0	0-0023		
Connector Co	ount	[2	2]			
Drive Count		[1]]			
Virtual Driv	ve Count	[1	[]			
Advanced Cor	ntroller Manageme	ent				
Advanced Cor	ntroller Properti	ies				

図 F.6 HII Configuration Utility [Controller Management] 画面

付録 G PCIバス番号とスロット実装位置の対応

ここでは、PCI バス番号とスロット実装位置の対応付けについて説明します。

G.1 PCIバス番号の割り当て順

PCI バス番号は、CPU の PCI Express Port から末端のデバイスに向かって、各 PCI デバイスの「デバイス番号」の小さい順に割り当てられるルールとなっています。これは PCI バスの標準的な実装になります。

バス番号は、IOU#0→IOU#1→IOU#2→IOU#3の順に割り当てられます。

運用を開始したシステムに IOU を追加する場合には、既に割り当てられている IOU のバス番号に影響しないように、 優先順位の低いほうに IOU を追加することを推奨します。

■ パーティションに IOU が搭載された場合の PCI バス番号の割り当てルール

パーティションに IOU が搭載された場合の PCI バス番号の割り当てルールは以下の通りになります。[]内の数字は PCI バス番号の割り当て優先順位を示します。

<u>10U#0</u>

- [1] DU_SAS#0 or DU_PCIEA#0
- [2] IOU#0 \mathcal{O} PCIe Slot#0 → 10GbE
- [3] DU_M#0
- [4] IOU#0 PCIe Slot#1 → PCIe Slot#2
- [5] IOU#0の PCIe Slot#2 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)
- [6] IOU#0のPCle Slot#3
- [7] IOU#0の PCIe Slot#3 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)

IOU#1

- [8] DU_SAS#1 or DU_PCIEA#1
- [9] IOU#1 \mathcal{O} PCIe Slot#0 \rightarrow 10GbE
- [10] DU_M#1
- [11] IOU#1 PCIe Slot#1 \rightarrow PCIe Slot#2
- [12] IOU#1の PCIe Slot#2 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)
- [13] IOU#1のPCIe Slot#3
- [14] IOU#1の PCIe Slot#3 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)

IOU#2

- [15] IOU#2 \mathcal{O} PCIe Slot#0 → 10GbE
- [16] DU_M#2

- [17] IOU#2 PCIe Slot#1 \rightarrow PCIe Slot#2
- [18] IOU#2 の PCIe Slot#2 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)
- [19] IOU#2のPCIe Slot#3
- [20] IOU#2の PCIe Slot#3 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)
- IOU#3
- [21] IOU#3 \mathcal{O} PCIe Slot#0 → 10GbE
- [22] DU_M#2
- [23] IOU#3 PCIe Slot#1 \rightarrow PCIe Slot#2
- [24] IOU#3の PCIe Slot#2 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)
- [25] IOU#3のPCIe Slot#3
- [26] IOU#3の PCIe Slot#3 に接続している PCI ボックスの PCIe Slot(*1)
 - (*1) PCI ボックスの PCI Express スロットの割り当て順は以下の通りです。
 PCIe Slot#0 → PCIe Slot#1 → PCIe Slot#2 → PCIe Slot#3 → PCIe Slot#4 → PCIe Slot#5
 → PCIe Slot#6 → PCIe Slot#7 → PCIe Slot#8 → PCIe Slot#9 → PCIe Slot#10 → PCIe Slot#11

G.2 PCIバス番号からスロット位置を特定する方法

PCIバス番号からスロット実装位置を特定する手順は以下の通りです。

- 1. パーティションにインストールされている OS 上で該当 PCI カードの PCI バス番号を確認
- 2. MMB Web-UI を操作し、1項で確認した PCI バス番号情報から該当 PCI カードのスロット実装位置を特定

注意

ここに記述する OS、サブシステムへの指示(コマンド、設定ファイルの編集)については、必ず各製品マニュアルを 参照してコマンドのシンタックスやシステムに与える影響を確認して作業を行ってください。

■ PCI バス番号の情報からスロット実装位置を確認する詳細手順

- 1. パーティションにインストールされている OS 上で該当 PCI カードの PCI バス番号を確認 各 OS 上で該当 PCI カードの PCI バス番号を確認する方法は以下の通りです。
 - a. Linux の場合
 以下のコマンドにて該当 PCI カードの PCI バス番号を確認します。
 (例では PCI カードのインターフェース名が"eth0"の場合)

```
# ls -l /sys/class/net/eth0/device
lrwxrwxrwx 1 root root 0 Sep 29 09:26 /sys/class/net/eth0/device
->../../0000:00:01.2/0000:08:00.2/0000:0b:01.0
```

```
出力された結果のシンボリックリンク先ファイルにおいて、ディレクトリパスを除いたファイル名に相当する
部分を確認します。このうち、下線で示された部分がバスアドレスになります。例では"0000:0b:01"であり、
セグメント番号は 0000(16 進数)、バス番号は 0b(16 進数)となります。
```

b. Windows Server の場合

デバイスマネージャを開き、該当 PCI カードの PCI バス番号を確認します。該当 PCI カード種類のインターフェースを選択し、プロパティを参照します。

VLAN	起動オプション	ドライバー	詳細	1521	リソース
全般	リンク速度	詳細設定	電力	の管理	チーム化
-	Intel(R) 1350 Gi	gabit Network (Connection	n #31	
	デバイスの種類:	ネットワーク アタ	プター		
	製造元:	Intel			
	場所:	PCI Slot 66 0, 機能 0)	(PCI セグメ	シト 0 パス 2	5, デバイス
デバイン	スの状態				
Los		111.93.			2
					~
					~
					2

- c. VMware の場合 VMware の PCI バス番号の確認方法は、以下の URL で公開されているソフトウェア説明書を参照してください。 <u>https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/guide/vmwa</u> re/
- MMB Web-UI を操作し、1項で確認した PCI バス番号情報から該当 PCI カードのスロット実装位置を特定 MMB Web-UI を操作して IOU および PCI ボックスのコンポーネント情報を開き、1項で確認した PCI バス番号から 該当 PCI カードのスロット実装位置を特定します。 ここでは、例として PCI_Box#0 のコンポーネント情報から PCI カードのセグメント番号およびバス番号を確認する 方法を説明します。
 - a. MMB Web-UI で[System] [PCI_Box] [PCI_Box#0] をクリックし、[PCI_Box#0]画面を表示します。
 - b. [PCI_Box#0] 画面内の PCI-Express Slots の Seg/Bus/Dev を確認します。
 この Seg/Bus/Dev 情報は、Seg がセグメント番号、Bus がバス番号を示します。下画面の例で、PCI_Box#0 の PCI スロット#1 (PCI_Box#0-PCIC#1)に搭載されている PCI カードの「Seg/Bus/Dev」は「0/34/0」です。
 よって、PCI_Box#0 の PCI スロット#1 に実装している PCI カードのセグメント番号は 0・バス番号は 34 となります。なお、MMB Web-UI では、セグメント番号およびバス番号を 10 進数で表現しています。

System Partition User Administrat	ion <u>Network Con</u>	iguration Mainter	lance						Log	
>System >PCI_Box >PCI_Box#0										
System Status										
System Event Log	PCI_Box	PCI_Box#0								
Operation Log	Airflow Vol	ma(m2/h) 20	0							
Partition Event Log	Alliow voi	line(iii) 20	0							
System Information	Cable Conn	ection								
Firmware Information		cetton			Connected to					
System Setup	LNKC#		Status		IOU#		PCIC#			
	0		OK		1		3			
Power Supply	1		OK		2		2			
□ Fans	L*		U.L.		-		~			
Temperature	PCI-Expres	s Slots								
∃ SB	PCIC#	Power Status	Slot Status	Link W	/idth Seg/	Bus/Dev	Vendor ID	Device ID		
IOU	0	On	OK	x8	0/37	//0	10DF	F100		
± DU	1	On	OK	x8	0/34	/0	10DF	F100		
PCI_Box	2	On	OK	x8	0/25	/0	10DF	F015	_	
D PCI_Box#0	3	On	OK	x8	0/31	/0	10DF	F015	_	
	4	On	OK	x8	0/28	/0	10DF	F015	_	
	5	On	OK	x8	0/40	/0	10DF	F015	_	
	6	Standby	Not-present							
	7	Standby	Not-present							
	8	Standby	Not-present							
	9	On	OK	x4	0/20	1/0	8086	150E		
	10	Standby	Not-present				_			
	11	Standby	Not-present							
	Chipset									
	#	Chip	Status							
	0	PCIeSW	OK							
					Status Clear					

このようにパーティション内の IOU および PCI ボックスのコンポーネント情報を順次確認します。1 項で確認した セグメント番号・バス番号と一致する箇所が、該当 PCI カードのスロット実装位置となります。

付録 H Ctrl-R Utility の起動方法

ここでは、Ctrl-R Utility の起動方法について説明します。

備考

Ctrl-R Utility は、PRAID EP400i/EP420i/EP420e を Legacy モードで設定する場合に使用します。 PRAID EP400i/EP420i/EP420e を UEFI モードで設定する場合、あるいは、EP540i/EP580i/EP540e を設定する場合は HII Configuraiton Utility を使用してください。

1. パーティションの電源を投入します。

注意

下記のいずれかに該当していると手順2が実施できません。 いずれにも該当しないことを確認してください。

- MMB の[Power Control] 画面の[Boot Selector] で[Force boot into EFI Boot Manager]を選択している。 → [Force boot into EFI Boot Manager]以外を選択してください。
- 保守モードになっている。
 - → 保守モードを解除してください。
- BIOS メニューの[Device Manager]-[PCI Subsystem Configuration]-[OpROM ScanConfiguration]で Web BIOS を起動するデバイスの OpROM が"Disabled"になっている。
 - → 対象のデバイスの OpROM を"Enabled"にしてください。
- BIOS 起動画面に"Press <Ctrl><R> for Ctrl-R BIOS"というメッセージが表示されている間に、[Ctrl] + [R]キーを同時に押してください。Ctrl-R Ulility が起動します。
 Ctrl-R Ulility の使用方法は「LSI MegaRAID SAS 12G Software」を参照してください。

